ISSN　0918 ― 9106

徳島県立博物館年報

第 28 号（平成 30 年度）

Annual Report of the Tokushima Prefectural Museum

No. 28 (for the fiscal year of 2018)

目　　次

徳島県立博物館の使命 …… 2

Ⅰ　展　示
1．常設展…… 3
2．企画展…… 6
3．特別陳列…… 10
4．館外での展示…… 12
5．常設展の更新及び活性化に向けての取り組み…… 13
6．展示関係出版物…… 14

Ⅱ　普及教育
1．普及行事…… 15
2．学校教育支援事業…… 19
3．普及教育関係出版物…… 23

Ⅲ　調査研究
1．課題調査…… 25
2．分野別（個別）調査研究…… 26
3．分野別（個別）調査研究等の館内公表会（セミナー）の実施…… 29
4．科学研究費補助金等による研究…… 29
5．他機関との共同研究…… 30
6．研究成果の公表…… 30

Ⅳ　資料の収集・保存と活用
1．採集資料…… 34
2．購入資料…… 34
3．寄贈資料…… 34
4．寄託資料…… 35
5．資料の貸し出し…… 36
6．写真・映像の提供…… 36
7．資料の提供…… 37
8．資料の交換…… 37
9．館蔵資料数…… 37
10．資料収集委員会…… 37
11．文献資料の収集…… 38
12．資料の保存…… 38

Ⅴ　情報の発信と公開
1．博物館の広報活動…… 40
2．テレビ・ラジオへの出演等…… 40
3．インターネットによる情報提供…… 41
4．外部ネットワークとの連携…… 42
5．情報システムの概要…… 42

Ⅵ　県民協働・参画
1．博物館友の会…… 44
2．博物館公募ボランティア…… 45
3．各種事業での県民協働・参画活動の推進…… 46

Ⅶ　シンクタンクとしての社会貢献
1．レファレンス業務…… 48
2．各種委員会委員等の受諾…… 48
3．講師の派遣…… 49
4．大学教育への寄与…… 51
5．学会・研究会等の運営への寄与…… 52
6．博物館ネットワーク…… 52

Ⅷ　管理運営・マネージメント
1．組織・職員…… 55
2．予算…… 55
3．文化の森の連携事業…… 56
4．防災及び危機管理…… 56
5．ユニバーサル化への取り組み…… 56
6．博物館協議会…… 57
7．各種研修会への参加…… 57
8．視察等博物館関係来訪者…… 58

Ⅸ　中期活動目標と自己評価
1．中期活動目標…… 59
2．30年度実績と自己評価 …… 66

Ⅹ　観覧者統計…… 83

Ⅺ　施設の概要
1．沿革…… 88
2．施設の概要…… 89
3．博物館各室面積…… 91

Ⅻ　例　規 …… 93

徳島県立博物館の使命

徳島の自然・歴史・文化の宝箱

－県民とともに成長する博物館－

徳島県立博物館は、徳島の自然や歴史・文化についての資料・情報にもとづく学びの場として、県民のみなさんとともに成長していきます。

知

知と出会う博物館

博物館は、徳島の自然・歴史・文化についての多様な資料や情報をもとに、県民のみなさんとともに楽しく学べる場を創ります。

探

地域の魅力を探る博物館

博物館は、徳島の自然・歴史・文化について県民のみなさんとともに調べ、新たな地域の魅力を見つけます。

伝

未来にまもり伝える博物館

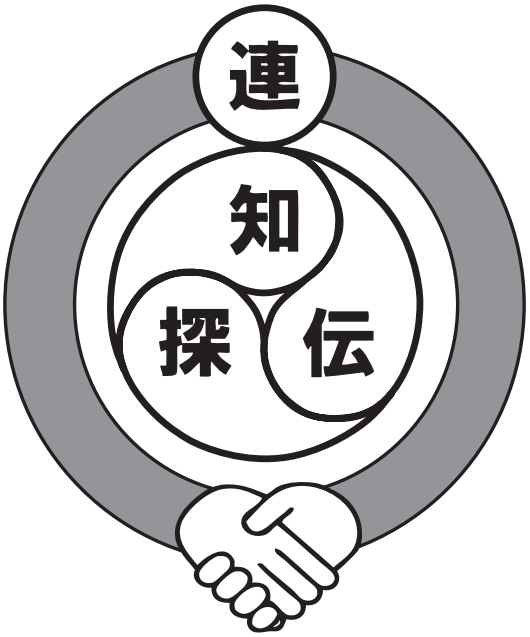
博物館は、徳島の自然・歴史・文化についての資料を県民のみなさんとともに集め、「みんなの宝」としてまもり、未来に伝えます。

連

県民とのつながりを大切にする博物館

博物館は、県民のみなさんと対話を深めながら、ともに活動し、地域の活性化に貢献します。

博物館では、効率的な運営を心がけながら、以上の使命を実現するために努力していきます。



徳島の自然・歴史・文化の宝箱
ー県民とともに成長する博物館ー

「徳島県立博物館の使命」における要素間の関係

使命と事業の関係

1　知　知と出会う博物館
（1）展示
（2）普及教育
2　探　地域の魅力を探る博物館
（1）調査研究
3　伝　未来にまもり伝える博物館
（1）資料の収集・保存と活用
4　連　県民とのつながりを大切にする博物館
（1）情報の発信と公開
（2）県民協働・参画
（3）シンクタンクとしての社会貢献
5　使命の実現に向けての効率的な運営
（1）管理運営・マネージメント

本文における事業の配列は、この構成にもとづいたものである。

Ⅰ　展　示

博物館の展示は、常設展と企画展から成る。

常設展は、徳島の自然と歴史・文化、自然のしくみ等が概観でき、また、全国的・世界的な関わりについても理解できるよう、様々なテーマを定めて展示している。部分的な展示替えや資料の入れ替えは随時行っているが、基本的な展示の構成は開館以来変わっていない。したがって、学問の進展によって展示内容が古くなった箇所が生じたり、より多くの人に博物館に親しんでもらえるようなユニバーサル化、グローバル化への対応が遅れたりしている。

そのような中で、平成26年度文化庁地域と共働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業「みんなで創るユニバーサルミュージアム事業」を実施し（年報24号参照）、その成果に基づいて、27年度には文化の森開園25周年記念事業「安全安心の文化施設モデル事業」として常設展示室の部分的な改装を行った（年報25号参照）。

29年度からは、常設展リニューアルに向けての検討を本格化させた。「未来創造！博物館新常設展構築事業推進タスクフォース」を設置して新常設展のあり方について、外部委員とともに検討を行った。また、新常設展基本計画案を作成し、「未来の博物館を考える検討委員会」において外部委員を交えた検討を行った。

30年度は、「県民とともに新常設展を考えるワークショップ」を開催し、公募した県民等と意見交換を行うなど、29年度に引き続き、常設展リニューアルに向けての検討を進めた。7月には「徳島県立博物館新常設展基本構想」を策定し、9月には新常設展設計事業業務委託公募型プロポーザルを行った。同業務については、株式会社乃村工藝社と契約し、10月から新常設展の基本設計業務に取り組んだ。

企画展は、専用の企画展示室を使って行うことにしている。従来は年3回行っていたが、23年度から予算減少等の理由から2回とし、1回分を所要経費の少ない「特別陳列」に変更した。

学芸員の研究成果に基づく地域自然誌や歴史・文化の紹介、全国的あるいは世界的な広がりの資料の展示など、様々なテーマを織り交ぜ、2、3年先までのスケジュールをたてて計画的に取り組むとともに、外部資金の獲得、民間との連携等予算獲得への工夫が必要となっている。

1．常設展

(1) 常設展の構成

博物館の常設展示は、総合展示、部門展示及びラプラタ記念ホールの展示の3つで構成している。

●総合展示

「徳島の自然と歴史」を総合テーマとし、徳島の歴史と文化、現在の自然の姿が概観できるよう、次の7つの大テーマに沿って展示を展開している。

1．日本列島と四国のおいたち
2．狩人たちの足跡
3．ムラからクニへ
4．古代・中世の阿波
5．藩政のもとで
6．近代の徳島
7．徳島の自然とくらし

●部門展示

総合展示とは異なる角度から、分野ごとの個別的、分類的な展示を行っている。

人文：近世の焼き物／なつかしいモノたち　など
自然：いろいろな岩石／鉱物／いろいろな動物／生物の生活と自然のしくみ　など

●ラプラタ記念ホールの展示

アルゼンチン共和国のラプラタ大学から寄贈された、南アメリカ特有の更新世哺乳動物化石を展示している。

主な展示資料：
メガテリウム全身骨格（レプリカ）
パノクツス全身骨格及び甲羅
マクラウケニア全身骨格（レプリカ）
トクソドン全身骨格（レプリカ）
スミロドン全身骨格（レプリカ）
ヒッピディオン全身骨格（レプリカ）
ステゴマストドン頭骨（レプリカ）

(2) 部門展示の展示替え

部門展示（人文）では、テーマを決めて随時展示替えをしている。20年度から、多様な資料の公開を図

「新生代の化石」の展示

「小川昌彦氏の蝶コレクション」の展示解説

「徳島市恵解山古墳群の発掘と遺跡保存」の展示

「写真家岩朝哲男氏が撮った鳴門の風景」の展示

るため、自然史関係の展示も行っている。

●阿波の３大絵巻

29 年度（２月 27 日（火））～５月 13 日（日）

展示資料数　12 点（館蔵資料 12 点）

徳島藩御用絵師である渡辺広輝筆の「光格上皇修学院御幸儀仗図」３巻、同筆の「祖谷山絵巻」２巻、同じく御用絵師である守住貫魚筆の「全国名勝絵巻」10 巻を、場面や巻を替えながら展示した。

●新生代の化石

５月 15 日（火）～７月 29 日（日）

展示資料数　120 点（館蔵資料 120 点）

新生代は哺乳類が爆発的に進化・繁栄した時代であり、時代が新しいため化石記録も豊富である。当館所蔵の新生代化石を、この時代の生物の多様さを感じてもらえるよう展示した。

●小川昌彦氏の蝶コレクション～世界の蝶・日本の蝶　こんなのいまっせ！～

７月 31 日（火）～ 11 月 25 日（日）

展示資料数　4,598 点（館蔵資料０点）

徳島県在住の蝶の愛好家小川昌彦氏（徳島蝶の会代表）が収集した国内外の貴重な蝶の標本を紹介した。

●徳島市恵解山古墳群の発掘と遺跡保存

11 月 27 日（火）～１月 20 日（日）

展示資料数　100 点（館蔵資料 71 点）

徳島市恵解山古墳群から出土した遺物を一堂に展示するとともに、恵解山古墳群の保存問題について紹介した。

●写真家岩朝哲男氏が撮った鳴門の風景―塩田のあった頃―

１月 22 日（火）～ 31 年度（４月 14 日（日））

展示資料数　39 点（館蔵資料 39 点）

塩田風景、撫養街道の町並みなど、鳴門市の写真家・故岩朝哲男氏が撮影した写真から、鳴門の風景の移り変わりについて紹介した。

⑶ 阿波の近世絵画の展示

「藩政のもとで」のコーナー内で展示替えを行い、以下の資料を展示した。

展示資料数　８点（館蔵資料８点）

①29 年度（３月 16 日（金））～６月 10 日（日）

中山養福筆　合歓木に鮎図　１点、中山養福筆　白鷺図　１点、中山養福筆　雁画賛　１点

② ６月 12 日（火）～ 10 月 20 日（土）

阿波の近世絵画の展示

「没後 150 年　徳島藩 13 代藩主 蜂須賀斉裕」の展示

鈴木鳴門筆　広陵観瀾図　1 点、鈴木鳴門筆　林和靖図　1 点

③ 10 月 21 日（日）～ 1 月 27 日（日）

藤重春山筆　阿波鳴門図　1 点、藤重春山筆　祖谷山葛橋図　1 点

④ 1 月 29 日（火）～令和元年度（ 5 月 19 日（日））

松浦春挙筆　花鳥図対幅　1 点

⑷ トピックコーナーでの小展示

30 年度は、次の展示を行った。タイムリーな展示ができるよう努めている。

●写真でみる熊本地震

29 年度（ 3 月 27 日（火））～ 4 月 28 日（土）

展示資料数　6 点（館蔵資料 6 点）

2016 年 4 月に発生した熊本地震について、地震の概要を示した解説パネルとともに、地表に現れた活断層や、落橋した阿蘇大橋など、被害状況がわかる写真を展示した。

●新着資料紹介 2018

4 月 29 日（日）～ 6 月 3 日（日）

展示資料数　23 点（館蔵資料 23 点）

29 年度に新たに購入した資料であるヘレラサウルス全身骨格（レプリカ）や江戸名所図会などを展示した。

●阿南市北の脇海岸出土の古銭

6 月 5 日（火）～ 8 月 9 日（木）

展示資料数　316 点（館蔵資料 316 点）

昭和 30 年代に、阿南市北の脇海岸近くで 1 万枚ともいわれる大量の古銭が発見され、その一部が博物館に寄贈された。発見された時の様子や古銭の計測データなどを交えて、これまであまり知られていなかった北の脇古銭の概要を紹介した。

●徳島県勝浦町で国内最古級「恐竜化石含有層」と「新たな恐竜化石等」を発見

8 月 10 日（金）～ 10 月 14 日（日）

展示資料数　15 点（館蔵資料 15 点）

徳島県勝浦町の国内最古級の恐竜化石含有層から発見された恐竜化石をはじめとするワニの歯やカメの甲羅などの脊椎動物化石を展示した。

●没後 150 年　徳島藩 13 代藩主蜂須賀斉裕

10 月 16 日（火）～ 1 月 6 日（日）

展示資料点数　8 点（館蔵資料 8 点）

蜂須賀斉裕（1821 ～ 1868）は、江戸幕府 11 代将軍徳川家斉の 22 男として生まれ、その後徳島藩主となり、慶応 4（明治元）年 1 月 6 日に 48 歳で死去した。没後 150 年を記念して、斉裕について館蔵資料のなかから関連資料を展示・紹介した。

●外来昆虫クスベニヒラタカスミカメ

1 月 8 日（火）～ 3 月 3 日（日）

展示資料数　35 点（館蔵資料 35 点）

2015 年に日本国内で初めて見つかった中国原産のクスベニヒラタカスミカメについて紹介した。

●タンポポ調査と西日本で初めて見つかったタンポポのゴールについて

3 月 5 日（火）～令和元年度（ 6 月 2 日（日））

展示資料数　10 点（館蔵資料 10 点）

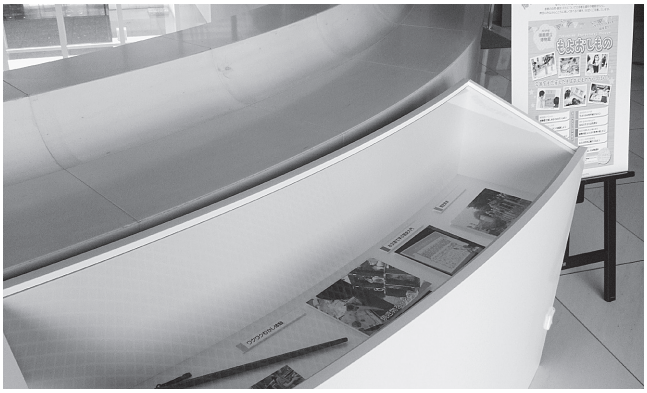
タンポポ調査について、徳島県で見られるタンポポのアクリル封入標本とともに展示した。また、西日本で初めて見つかったタンポポのゴールについて展示した。

⑸ 博物館ロビー等での小展示

30 年度は常設展示入口周辺の博物館ロビーや、2 階エントランス、中央ロビー（鳥居龍蔵記念博物館常設展示室前）等において小規模な展示を行った。定期的な展示ではないが、タイムリーなテーマがあれば実施することにしている。

●博物館のもよおしもの紹介―博物館行事に参加してみませんか―

4 月 1 日（日）～ 6 月 10 日（日）



「博物館のもよおしもの紹介」の展示

展示資料数　5点

30年度に実施予定だった催し物（普及行事）について、多くの人に周知することを目的として展示した。主なもよおしものについて関連する写真、資料等を紹介した。

●「ジュニア学芸員講座」開催報告

8月7日（火）～10月2日（火）

展示資料数　1点（ポスター）

8月2～3日の2日間にわたって開催したジュニア学芸員講座（小学5年生～中学3年生を対象とする職業体験講座（p.18参照）を紹介した展示。参加者には、ジュニア学芸員として、博物館の仕事を実際に体験し、本物の資料を通して郷土の自然や歴史・文化を楽しみながら学んでもらった。

●写真でみる地層

10月11日（木）～2月21日（木）

展示資料点数　8点（パネル・ポスター）

日常あまり意識することのない地層に関心を持ってもらう目的で、徳島を中心とする西日本各地の様々な地層の写真を展示した。

2．企画展

30年度は、次の2回の企画展を行った。

⑴ 第1回企画展「阿波漁民ものがたり―海を渡り歩いた漁師たちの5つの話―」

徳島県沿海地域には、かつて遠い地域まで進出して活躍してきた漁師たちがいた。こうした漁師たちは、さまざまな優れた漁法をもって全国各地の海をまたにかけ、生計をたててきた。漁師たちの移動は、ときには人の交流と文化の伝播をもたらすことがあった。

この展示では、海を渡り歩いた漁師たちの5つの“ものがたり”を紹介した。第1話は鳴門市瀬戸町堂浦の一本釣り漁師とテグス行商の、第2話は九州で「阿波船」の名を轟かせた美波町出身の底曳網漁船団の漁師の、第3話は阿南市伊島の潜水器をもって出漁した漁師の、第4話はカツオ・マグロ漁船で東北沖や南洋まで出漁した漁師の、第5話は貝や海藻を採取し全国を売り歩いた美波町阿部、伊座利のイタダキサンのものがたりを紹介した。海を渡り歩いた漁師たちの、それぞれの“ものがたり”について展示した。

●主　催　徳島県立博物館

●協　力　船の科学館「海の学び　ミュージアムサポート」

●期　間　平成30年4月27日（金）～6月10日（日）（開館日数40日間）

●会　場　博物館企画展示室

●観覧料　一般200円（65歳以上100円）
高校・大学生100円　小・中学生50円

●観覧者数　4,328人

●展示構成

プロローグ

第1話　鯛を求めて―鳴門堂浦のテグス行商と一本釣り漁師

第2話　東シナ海にて―九州で「阿波船」の名を轟かせた底曳網漁船団

第3話　貝を探して海深くまで―伊島から潜水器をもって遠い海へ

第4話　黒潮にのって―遠い海でカツオ・マグロを追った漁師たちの物語

第5話　海の幸を運ぶ―行商に出た美波町のイタダキサン

エピローグ

●展示資料数　275点（館蔵資料172点）

●関連行事

①企画展記念連続講座

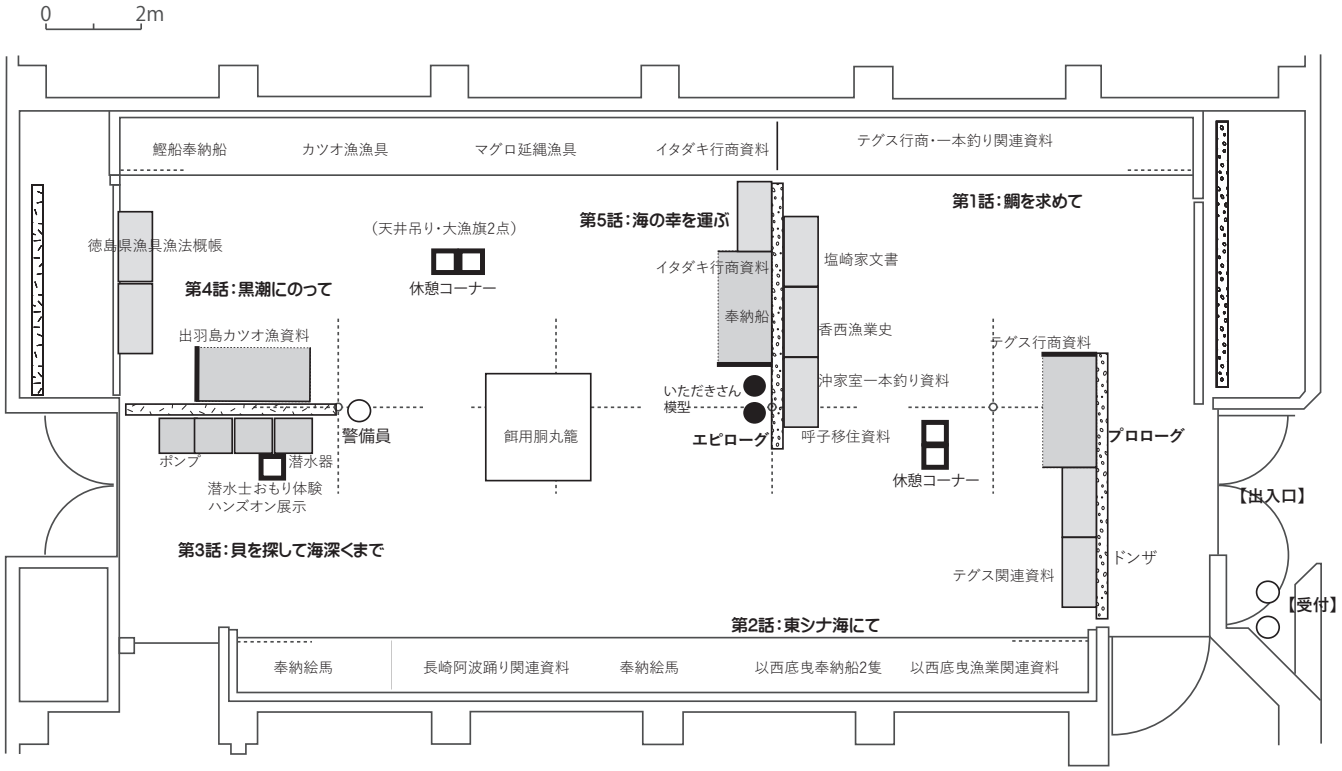
第1回「伊島の潜水器漁業と人生～明治から戦後へ、『1』からのものがたり～」

講　師　神野富一氏（甲南女子大学文学部教授）

「阿波漁民ものがたり」の展示

「阿波漁民ものがたり」チラシ表面

「阿波漁民ものがたり」チラシ裏面



「阿波漁民ものがたり」の展示配置

「阿波漁民ものがたり」関連行事・連続講座第３回

日　時　５月 13 日（日）13：30 ～ 15：00
場　所　博物館講座室
参加者　23 人
第２回「九州・五島行きと以西底曳網漁業」
講　師　当館学芸員
日　時　５月 20 日（日）13：30 ～ 15：00
場　所　博物館講座室
参加者　37 人
第３回「黒潮に運ばれた道―カツオ一本釣り漁の歴史と民俗―」
講　師　川島秀一氏（日本カツオ学会会長・元東北大学教授）
日　時　５月 27 日（日）13：30 ～ 15：00
場　所　博物館講座室
参加者　29 人
②出羽島歴史散歩
日　時　６月 ３ 日（日）10：45 ～ 15：15
場　所　牟岐町出羽島
参加者　23 人
③展示解説
第１回：４月 29 日（日）14：00 ～ 15：00
参加者：50 人
第２回：５月 ６ 日（日）14：00 ～ 15：00
参加者：22 人
第３回：６月 10 日（日）14：00 ～ 15：00
参加者：65 人

⑵ 第２回企画展「ジャングルいきもの図鑑」

ジャングルとは、一般に熱帯多雨林を意味し、年間を通じて温暖で雨量の多い地域に形成される植生、またはその地域のことである。熱帯雨林、熱帯降雨林、セルバなどとも呼ばれる。このジャングルは、陸上生物の種の８割を産すると言われ、生物の宝庫として知られる。

この展示では、徳島県内では見る機会のほとんど無い熱帯・亜熱帯域の森の奇妙で興味深い動植物について、剥製･標本（一部生体）を用いて紹介することで、同地域の生物多様性を親子で体験・学習できる場として提供した。あわせて、沖縄県内の亜熱帯林や徳島県内の暖温帯林の生物についても紹介し、国内さらには県内の身近な森においても南方系の生物が見られることについて興味を喚起することを目的とした。

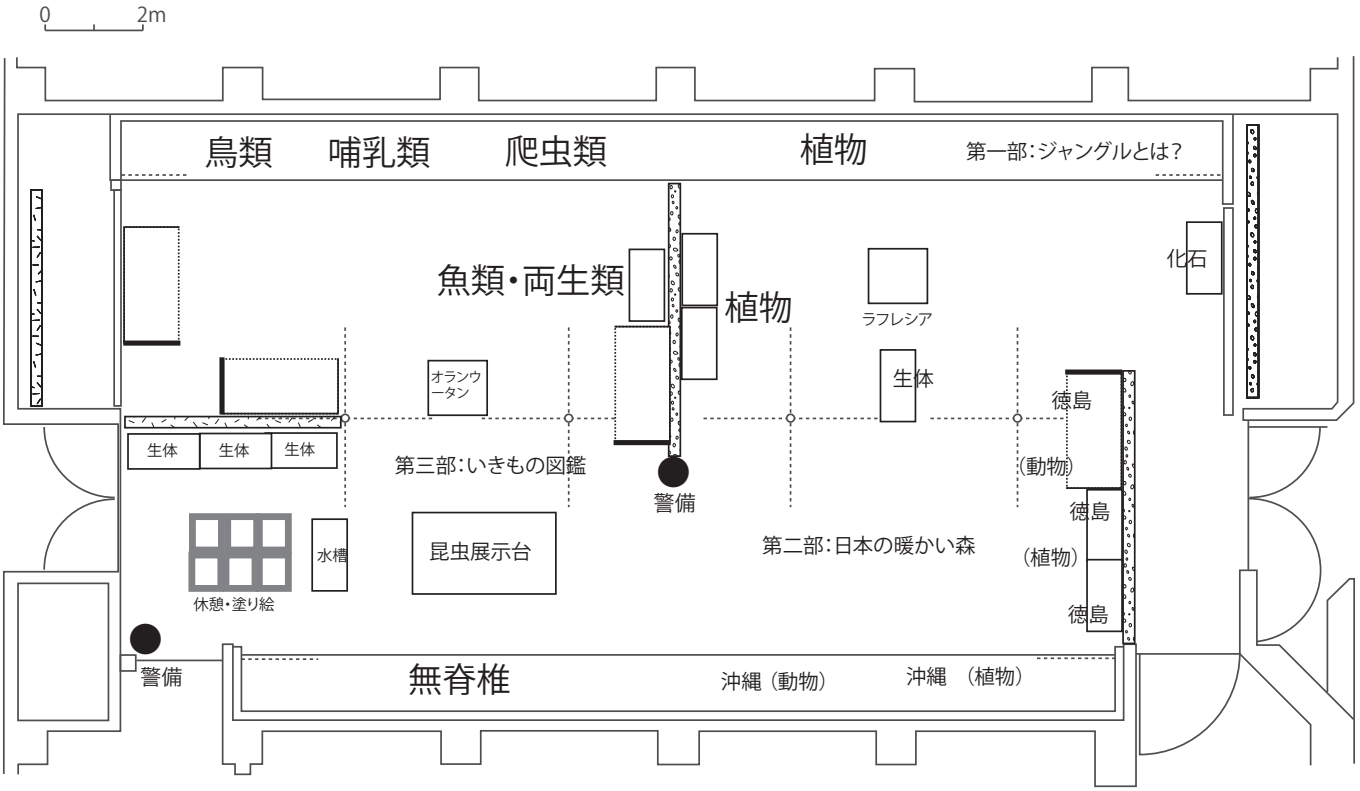
●主　催　徳島県立博物館
●期　間　平成 30 年７月 20 日（金）～９月９日（日）（開館日数 46 日間）
●会　場　博物館企画展示室
●観覧料　一般 200 円（65 歳以上 100 円）
高校・大学生 100 円　小・中学生　50 円
●観覧者数　15,338 人
●展示構成
⑴第１部　ジャングルとは？
ア．熱帯・亜熱帯の森はどこにあるの？
イ．ジャングルを構成する植物
⑵第２部　日本のジャングル～亜熱帯から暖温帯の暖かい森～
ア．日本の亜熱帯林　沖縄の森

「ジャングルいきもの図鑑」の展示

（展示資料）
上：コビトカバ
右：コンゴウインコ

「ジャングルいきもの図鑑」チラシ表面

「ジャングルいきもの図鑑」チラシ裏面



「ジャングルいきもの図鑑」の展示配置

イ．徳島で見られる暖かい森のいきものたち
⑶第３部　ジャングルいきもの図鑑
ア．脊椎動物：ナマケモノ、鳥、蛇、ワニ他
イ．無脊椎動物：南米産の昆虫類他
●展示資料数　3,511 点
（館蔵資料 3,434 点、借用資料 77 点）
●企画展関連行事
展示解説
第１回：７月 22 日（日）　15：30 ～ 16：00
参加者　85 人
第２回：８月 12 日（日）　13：00 ～ 13：30
参加者　71 人
第３回：９月２日（日）　14：30 ～ 15：00
参加者　82 人

３．特別陳列

⑴ 県指定文化財　青蓮院十一面観音菩薩立像

徳島市多家良町青蓮院の本尊である木造十一面観音菩薩立像（県指定有形文化財）を、修理の完了を記念して一般に公開した。
●主　催　徳島県立博物館
●協　力　青蓮院
●期　間　平成 30 年９月 21 日（金）～９月 30 日（日）
（開館日数９日間）
●会　場　企画展示室
●観覧料　無料
●観覧者数　2,644 人
●展示資料数　１点（館蔵資料０点）

「青蓮院十一面観音菩薩立像」の展示

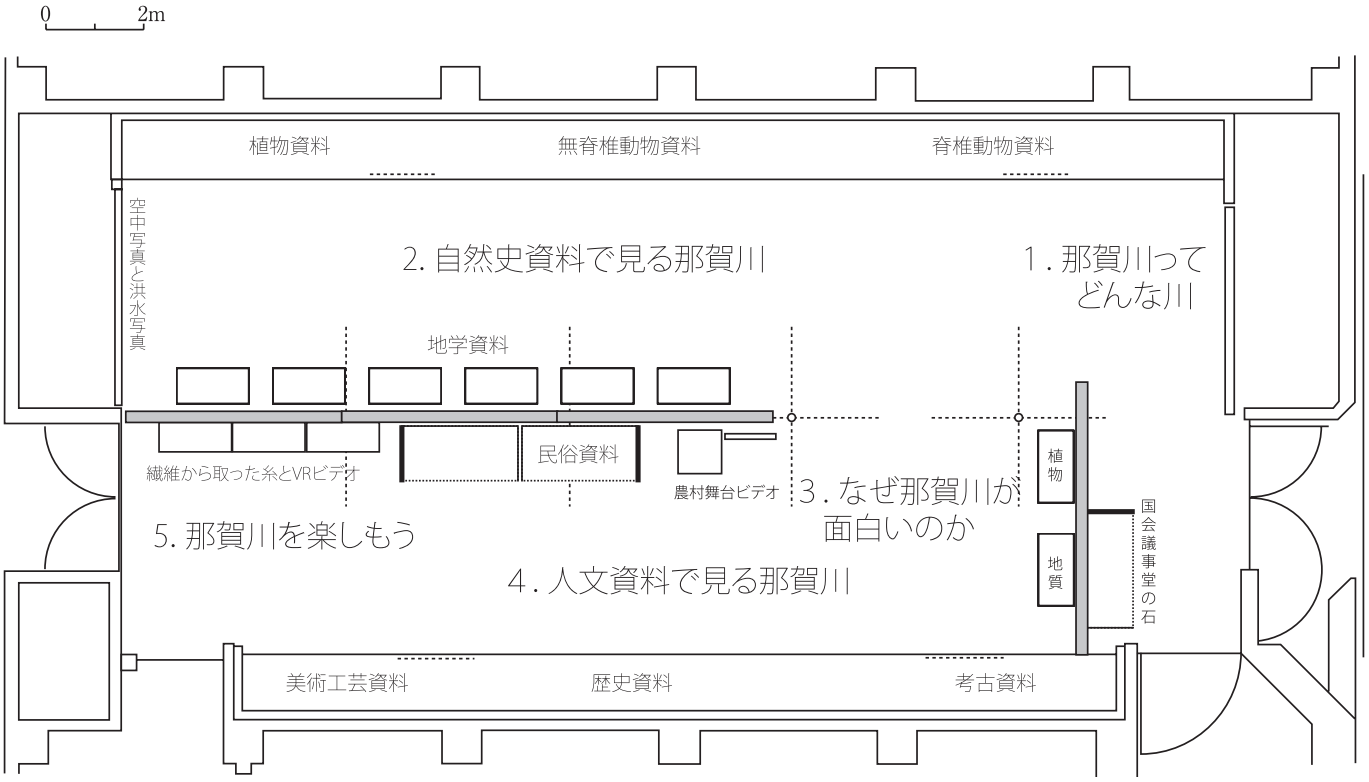
⑵ ごっついで那賀川―博物館資料で見る那賀川流域の自然とくらし―

徳島県第二の大河、那賀川。その流域にはナカガワノギクのような珍しい植物が自生している。また、国会議事堂にも使われた石灰岩の石材や貴重なアンモナイトの化石などもある。そして、その豊かな自然にはぐくまれて昔から人々が生活を営んできた。朱の産地として全国的に有名な若杉山遺跡や、江戸時代の富岡町の繁栄の一端を示す吹田（ふきた）家の資料は、それらを物語っている。

この展示では、那賀川流域のすばらしい自然と人々のくらしを、博物館に収蔵された資料をもとに紹介した。
●主　催　徳島県立博物館
●期　間　平成 30 年 10 月 13 日（土）～ 11 月 18 日（日）
（開館日数 37 日間）
●会　場　博物館企画展示室

「ごっついで那賀川」の展示

「ごっついで那賀川」の展示



「ごっついで那賀川」の展示配置

●観覧料　一般 200 円（65 歳以上 100 円）
　　高校・大学生 100 円　小・中学生　50 円
●観覧者数　5,971 人
●展示構成
⑴那賀川ってどんな川
⑵自然史資料で見る那賀川
⑶なぜ那賀川が面白いのか
⑷人文資料で見る那賀川
⑸那賀川を楽しもう
●展示資料数　551 点
　　（館蔵資料 550 点、借用資料 1 点）
●企画展関連行事
展示解説
　10 月 14 日（日）　14：00 ～ 15：00
　参加者　72 人
バスツアー「花咲き乱れる那賀川の自然」
　11 月 11 日（日）　9：00 ～ 17：00
　参加者　35 人

「ごっついで那賀川」のチラシ

⑶ 鳥居龍蔵と小金井良精―日本人の起源を求めて―

黎明期の日本人類学における主要な課題のひとつに、日本人の起源を探ることがあり、先住民の存在が想定された。明治中期以降、鳥居龍蔵の師で人類学者の坪井正五郎と、解剖学者の小金井良精との間で先住民について論争があり、鳥居は小金井の説に注目した。

大正時代になると、発掘された古人骨によってこの問題を考えようとする気運が高まった。小金井は、古人骨研究の第一人者として考古学者などから調査協力を要請された。鳥居も彼に依頼し、小金井から得た知見を自らの日本人起源論に反映させた。

近代日本を代表する解剖学者であり、人類学者でもあった小金井良精を取り上げ、生涯と学問上の功績、鳥居との交流を紹介した。

●主　催　徳島県立鳥居龍蔵記念博物館
　　徳島県立博物館
●期　間　平成 31 年 2 月 10 日（土）～ 3 月 18 日（日）
　　（開館日数 32 日間）
●会　場　博物館企画展示室
●観覧料　一般　200 円（65 歳以上 100 円）
　　高校・大学生　100 円
　　小・中学生　50 円
●観覧者数　1,746 人
●展示構成
　プロローグ　鳥居龍蔵と小金井良精―城山貝塚にて―
　第 1 章　解剖学者小金井良精
　第 2 章　日本人類学の黎明期―コロボックル・アイヌ論争―
　第 3 章　大正時代以降の考古学と古人骨調査
　エピローグ　人類学、新時代へ
●展示資料総点数　220 点　（館蔵資料 3 点）

⑷ 2018 年度文化の森人権啓発展

文化の森 6 館と徳島県教育委員会人権教育課との共催で、人権啓発展（識字学級生の作品を中心とする展示）を行った。

●主　催　文化の森 6 館・徳島県教育委員会人権教育課
●期　間　平成 30 年 12 月 5 日（水）～ 12 月 11 日（火）
●会　場　近代美術館ギャラリー（展示）
　　ミニシアター（ビデオ上映）
●観覧者数　382 人

4．館外での展示

⑴ 展示パッケージの貸し出し

県内の博物館等の支援及び収蔵資料の展示機会の増加を図るため、必要に応じて展示パッケージ（テーマに応じた展示資料、ラベル等のセット）の貸し出しを行っている。30 年度は貸し出しがなかった。

⑵ 移動展

収蔵資料の活用を促進するため、当館が主体となって展示を企画・構成する移動展にも重点的に取り組むことにしている。30 年度は移動展が 2 件あった。

●徳島県戦没者記念館第 6 回特別企画展「戦中・戦後のくらし」
　主　催　一般財団法人徳島県遺族会、徳島県戦没者記念館奉賛会
　協　力　昭和館・徳島県立博物館
　期　間　平成 30 年 7 月 26 日（木）～ 8 月 15 日（水）
　会　場　徳島県戦没者記念館
　観覧者数　1,463 人
　資料点数　70 点（館蔵 35 点）
●移動展「勝浦町で発見された白亜紀前期の動植物化石」
　主　催　徳島県立博物館・勝浦町
　期　間　平成 31 年 3 月 2 日（土）
　会　場　レヴェタかつうら
　観覧者数　150 人
　資料点数　21 点（館蔵 18 点）

移動展「勝浦町で発見された白亜紀前期の動植物化石」の展示

5．常設展の更新及び活性化に向けての取り組み

⑴ これまでの常設展の更新に向けての取り組み

当館では、開館10周年をめどに常設展の全面更新を実現したいと考え、開館5年目にあたる平成7年度から9年度にかけて館内での検討を行ってきたが、事業化は実現しなかった（年報7号参照）。その後、開館15年目に当たる17年度にリニューアルオープンする計画で、事業規模を縮小して計画の見直しを行い、予算積算などを行ったが、事業化は認められなかった。厳しい財政状況のもと、常設展更新の実現可能性は乏しいものの、学問の進展によって展示内容が古くなった箇所が生じたり、開館以来の資料や情報の蓄積が顕著でかつ社会的な要請の高いテーマが展示できていなかったりするなど、展示更新を行っていないことによる不具合も生じてきた。

そこで、19年度に、現段階で有効かつ現実的と考えられる常設展更新の方向性を議論し、新たな基本計画案をまとめた（年報17号参照）。21年度には、この計画案に沿いながら、一部の中項目や小項目の変更を含む「リフレッシュ事業」（中規模な展示更新）を行った（年報19号参照）。その後も、予算的措置を必要としない小規模な展示更新を継続して行っている。大規模な展示更新が見込めないなかで、27年度は文化の森開園25周年記念事業「安全安心の文化施設モデル事業」として、常設展示室の部分的な改装を行った（年報25号参照）。

開館30周年が近づいたことから、29年度には、常設展の更新に向けての取り組みを本格化させることになった。9月から10月にかけては、「未来創造！博物館新常設展構築事業推進タスクフォース」を設置し、新常設展のあり方について外部委員（文化の森各館職員や県及び県教委関係課職員）とともに検討を行った。10月30日にはタスクフォースによる検討結果を受けて、県知事との意見交換会（ランチミーティング）を行った。こうした検討結果をもとに、さらに検討を深化させるため、11月から12月にかけて「未来の博物館を考える検討委員会」において外部委員（有識者等）から意見をもらった。2月には「未来の博物館を考える検討委員会提言書―徳島県立博物館新常設展基本計画案―」が提示された。

30年度は、29年度の検討を踏まえ、参加者公募型による、「県民とともに新常設展を考えるワークショップ」を開催した。4月30日（月・祝）、5月13日（日）の2日間にわたり、10歳代から60歳代までの延べ34人（4月30日：16人、5月13日：18人）の県民と、専門家延べ9人（4月30日：4人、5月13日：5人）、アドバイザー2人（4月30日：1人、5月13日：1人）が参加し、当館職員とともに新常設展のあり方について意見を交わした。ここでの意見も踏まえ、7月には「徳島県立博物館新常設展基本構想」を策定した。

これにもとづき、9月には新常設展設計事業業務委託公募型プロポーザルを実施した。

なお、常設展更新の検討にあたり、近年のリニューアルの状況や内容についての情報収集のため、30年度は次の博物館の展示等の調査を行った。

・リニューアルに向けた博物館の視察

福岡市博物館、萩博物館、北海道博物館、上越市立歴史博物館、国立歴史民俗博物館、京都水族館、京都鉄道博物館、滋賀県立琵琶湖博物館、ふじのくに茶の都ミュージアム、三重県総合博物館

⑵ 新常設展設計事業

新常設展設計事業については、株式会社乃村工藝社と契約し、設計準備会を行った上で、10月25日から新常設展の基本設計に取り組んだ。基本設計に係る協議及び調査等は、内容によって4つの分科会を設定し、次のような日程で行った。

分科会A：全般、ロビーゾーン、コミュニケーションゾーン、その他

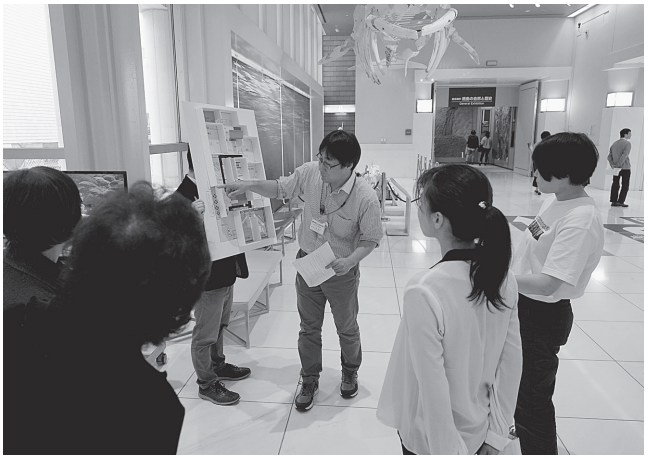
分科会B（人文）：メインゾーン、ミュージアム・ストリート

分科会B（自然）：メインゾーン、ミュージアム・ストリート

分科会C：モニター調査、PR企画

（日程）

10月17日（水）　企画提案説明、事業計画、会議運営等準備会議



常設展示室ロビーでの「県民とともに新常設展を考えるワークショップ」（2回目：5月13日）

10 月 26 日（金）　A 準備会議
11 月 2 日（金）　B（人文）会議
11 月 16 日（金）　B（自然）会議
11 月 27 日（火）　A ／ C 会議、B（人文）会議
11 月 28 日（水）　B（自然）会議
12 月 11 日（火）　B（人文）会議
12 月 12 日（水）　A ／ C 会議、B（自然）会議
12 月 26 日（火）　B（人文）会議
12 月 27 日（木）　A ／ C 会議、B（自然）会議
1 月 17 日（木）　B（人文）会議
1 月 18 日（金）　A ／ C 会議、B（自然）会議
1 月 29 日（火）　B（人文）会議､C 会議（インクルーシブデザイン学習会）
1 月 30 日（水）　A ／ C 会議、B（自然）会議
2 月 10 日（日）　来館者モニタリング調査打ち合わせ
2 月 11 日（月・祝）　来館者モニタリング調査
2 月 18 日（月）　B（人文）会議
2 月 19 日（火）　A 会議、B（自然）会議
3 月 12 日（火）　A 会議
3 月 27 日（水）　A 会議

⑶ 常設展示室・企画展示室の改修・修繕

展示ケースなど各種設備・備品に経年劣化や破損が見られるようになり、早期の改修や修繕が望まれる。30 年度は、総合展示室、部門展示室及び展示ケース内の消耗品等の交換、調整等を行った。

⑷ 常設展の活性化に向けての取り組み

常設展リニューアルに向けて準備を進める一方で、現行常設展の手直しなどを進め、より利用しやすく、また、より変化の見えるかたちへと変えていくよう取り組みを継続している。30 年度は、展示室を利用したイベントの充実や、トピックコーナーなどの更新などを行った。主な取り組みは、以下の通りである。

①部門展示（人文）における多様な展示の展開
　人文、自然のテーマを織り交ぜて 4 回の展示替えを行った（詳細は p.3 ～ 4 参照）。

②阿波の近世絵画の展示替えを 3 回行った（詳細は p.4 ～ 5 参照）。

③チャレンジコーナーの更新
　24 年度から引き続いて、低年齢の子どもが利用しやすいよう「キッズ・チャレンジコーナー」を設置している。カーペットマットと座卓を設置し、土器パズルや塗り絵など体験学習的な内容を継続している。

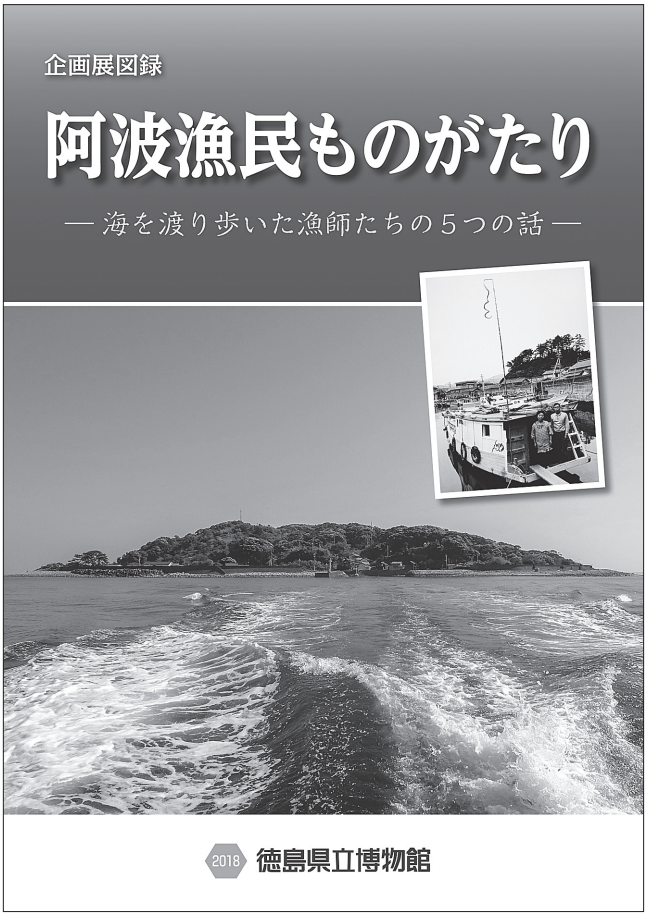
④トピックコーナーの更新
　速報性、話題性に富んだ展示を心がけている。30 年度は更新を 6 回行った（詳細は p.5 参照）。

⑤展示解説等の促進
・部門展示「阿波の 3 大絵巻」、「新生代の化石」、「小川昌彦氏の蝶コレクション」、「徳島市恵解山古墳群の発掘と遺跡保存」、「写真家岩朝哲男氏が撮った鳴門の風景―塩田のあった頃―」で展示解説を行った。
・20 年度から引き続いて、常設展示室内数箇所で手作りのセルフガイドを設置･配布している。

6．展示関係出版物

■企画展図録

●第 1 回企画展図録「阿波漁民ものがたり―海を渡り歩いた漁師たちの 5 つの話―」
編集・発行　徳島県立博物館
2018 年 4 月 27 日発行、A 4 判 94 ページ、600 部
友の会増刷 200 部



企画展図録「阿波漁民ものがたり―海を渡り歩いた漁師たちの 5 つの話―」の表紙

Ⅱ　普及教育

普及教育事業、とくに普及行事は「開かれた博物館」をめざし、館員が県民と直接交流できるよい機会であり、力点をおいて取り組んでいる。

平成30年度は、年間96回（中止3回）の普及行事を実施し、他にクイズラリーを24回行った。新しい内容の行事を行ったり、教員のためのイベントを開催したりして、時代に合った催し物を計画している。

普及行事は県民のあいだにかなり定着してきている。参加者は徳島市内と近郊在住者が多いが、三好市や那賀町、高知県や香川県からの参加も見られる。引き続き、「歴史散歩」、「野外生きものかんさつ」、「海部自然・文化セミナー」等において、遠隔地域での開催を増やすなどの工夫をしている。

1．普及行事

■ワクワクむかし体験

昔の人々の生活に関係のある体験を通じて、ものの性質や当時の人々の生活の知恵を学ぶシリーズ。

6月3日（日）　はにわクッキーをつくろう　9人
7月15日（日）　さきどり自由研究、民具にチャレンジ　26人
1月13日（日）　焼き物をつくろう①成形　14人
2月24日（日）　焼き物をつくろう②焼成　17人

■歴史散歩

県内外の遺跡、町並み、建造物などを見学してまわるシリーズ。

5月20日（日）　香川の古墳見学バスツアー　39人
10月21日（日）　鳴門板野の古墳巡りウォーク＆レール　19人
11月23日（金・祝）徳島市八万町を歩こう　34人
3月24日（日）　池田を歩こう　22人

■野外生きものかんさつ

野外に出かけて行う、季節に応じた動植物の観察を通して学ぶシリーズ。

4月15日（日）　初めての植物かんさつ（春編）　30人
5月13日（日）　中級クラス植物観察会5月　5人
5月19日（土）　磯の生きものかんさつ　72人
6月9日（土）　初めての植物かんさつ（梅雨期編）　25人
7月8日（日）　中級クラス植物観察会7月　5人
7月14日（土）　川魚かんさつ　36人
7月22日（日）　漂着物を探そう！＆ビーチクラフトを楽しもう。　34人
7月28日（土）　セミの羽化かんさつ　26人
7月29日（日）　水生昆虫のかんさつ　中止
8月18日（土）　初めての植物かんさつ（夏編）　16人
9月9日（日）　河口の生きものかんさつ　中止
9月16日（日）　中級クラス植物観察会9月　8人
10月28日（日）　初めての植物かんさつ（秋編）　33人
11月25日（日）　中級クラス植物観察会11月　5人
12月9日（日）　初めての植物かんさつ（冬編）　17人
1月20日（日）　花巡り！植物かんさつハイキング（新年編）～冬の森探検、寒さの中の花探し～　13人
2月3日（日）　初めての植物かんさつ（新春編）　12人
3月31日（日）　花巡り！植物かんさつハイキング（春編）～春の芽吹きを見つけ隊～　14人

■みどりを楽しもう・味わおう

自然の材料を使い、遊びの要素を取り入れた実習や調理を通して学ぶシリーズ。

5月13日（日）　とっても簡単！草木染めにチャレンジ　26人
7月22日（日）　夏休みの自由研究に！植物の繊維

野外生きものかんさつ「初めての植物かんさつ（春編）」

を取ろう　29 人
12 月 16 日（日）リースをつくろう　32 人
3 月 24 日（日）タンポポコーヒーでティータイム　7 人

■たのしい地学体験教室

地層や化石、岩石・鉱物などの野外観察や室内での実習を通して学ぶシリーズ。

4 月 22 日（日）電子顕微鏡で化石を見よう！　14 人
7 月 8 日（日）貝化石標本をつくろう　24 人
8 月 4 日（土）化石のレプリカをつくろう！　30 人
9 月 1 日（土）アンモナイト標本をつくろう！　21 人
11 月 18 日（日）白亜紀の地層見学［勝浦町］28 人
2 月 17 日（日）木の葉化石の発掘体験　27 人
3 月 3 日（日）三好市三野町の中央構造線を歩こう　28 人

■生きものしらべ隊

昆虫や植物、化石などの調べ方を学び、自然の専門家をめざすシリーズ。

6 月 24 日（日）スンプでかんたん顕微鏡かんさつ　33 人
12 月 2 日（日）電子顕微鏡で昆虫を見よう！①　16 人
3 月 10 日（日）電子顕微鏡で昆虫を見よう！②　15 人

■ミュージアムトーク

学芸員が各自の研究テーマや身近な話題について話をするシリーズ。

4 月 15 日（日）ゼロから始める植物学～植物用語編～　16 人
6 月 9 日（日）ゼロから始める植物学～名前の調べ方編～　14 人
8 月 18 日（土）ゼロから始める植物学～標本の作り方編～　15 人
10 月 28 日（日）ゼロから始める植物学～植物の名前編～　17 人
12 月 9 日（日）ゼロから始める植物学～標本整理編～　10 人
12 月 9 日（日）戦国期阿波の領主と熊野信仰　35 人
1 月 6 日（日）徳島市恵解山古墳群の発掘と遺跡保存　47 人
2 月 3 日（日）ゼロから始める植物学～植物分類学入門～　15 人
2 月 3 日（日）近世後期阿波の民衆運動　28 人
3 月 10 日（日）とくしまの先人・美術編　5 人

■古文書で学ぶ歴史入門

古文書を読み、歴史について学ぶシリーズ。30 年度は、入門編として 3 回、初級編として 5 回、計 8 回をセットで実施した。

5 月 19 日（土）ゼロからの古文書①　19 人
6 月 16 日（土）ゼロからの古文書②　18 人
7 月 21 日（土）ゼロからの古文書③　19 人
9 月 15 日（土）古文書に親しむ①　41 人
10 月 20 日（土）古文書に親しむ②　34 人
11 月 24 日（土）古文書に親しむ③　33 人
12 月 15 日（土）古文書に親しむ④　30 人
1 月 19 日（土）古文書に親しむ⑤　32 人

■海部自然・文化セミナー

学芸員が講師を務め、海陽町立博物館との共催で行う講座。全 4 回のうち 1 回は海陽町立博物館学芸員が担当した。

6 月 24 日（日）阿波公方足利氏の守札　19 人
7 月 22 日（日）近世中期阿波の社会情況―郡代報

たのしい地学体験教室「化石のレプリカをつくろう！」

古文書で学ぶ歴史入門「古文書に親しむ③」

告書を手がかりに―　21 人
8 月 26 日（日）　とくしまの海の哺乳類　5 人
10 月 14 日（日）　海部の中世城館　7 人

■企画展・特別陳列等関連行事

企画展や特別陳列等の開催中に、展示解説等を行った。

●企画展「阿波漁民ものがたり」関連行事

4 月 29 日（日）　企画展「阿波漁民ものがたり」展示解説　50 人
5 月 6 日（日）　企画展「阿波漁民ものがたり」展示解説　22 人
5 月 13 日（日）　企画展記念連続講座第 1 回「伊島の潜水器漁業と人生～明治から戦後へ、『1』からのものがたり～」　23 人
5 月 20 日（日）　企画展記念連続講座第2回「九州・五島行きと以西底曳網漁業」37 人
5 月 27 日（日）　企画展記念連続講座第 3 回「黒潮に運ばれた道―カツオ一本釣り漁の歴史と民俗―」　29 人
6 月 3 日（日）　出羽島歴史散歩　23 人
6 月 10 日（日）　企画展「阿波漁民ものがたり」展示解説　65 人

●企画展「ジャングルいきもの図鑑」関連行事

7 月 22 日（日）　企画展「ジャングルいきもの図鑑」展示解説　85 人
7 月 29 日（日）　記念講演会「恐竜はどんな森を見ていたか―日本の恐竜時代の森林―」　62 人
8 月 12 日（日）　企画展「ジャングルいきもの図鑑」展示解説　71 人
9 月 2 日（日）　企画展「ジャングルいきもの図鑑」展示解説　82 人

●特別陳列「ごっついで那賀川」関連行事

10 月 14 日（日）　特別陳列「ごっついで那賀川―博物館資料で見る那賀川流域の自然とくらし―」展示解説　72 人
11 月 11 日（日）　特別陳列「ごっついで那賀川―博物館資料で見る那賀川流域の自然とくらし―」花咲き乱れる那賀川の自然バスツアー　35 人

●部門展示関連行事

4 月 15 日（日）　部門展示「阿波の 3 大絵巻」展示解説　31 人
4 月 22 日（日）　部門展示「阿波の 3 大絵巻」展示解説　31 人
6 月 17 日（日）　部門展示「新生代の化石」展示解説　9 人

部門展示「徳島市恵解山古墳群の発掘と遺跡保存」展示解説

8 月 5 日（日）　部門展示「小川昌彦氏の蝶コレクション～世界の蝶・日本の蝶　こんなのいまっせ！～」展示解説　30 人
8 月 12 日（日）　部門展示「小川昌彦氏の蝶コレクション～世界の蝶・日本の蝶　こんなのいまっせ！～」展示解説　53 人
9 月 30 日（日）　部門展示「小川昌彦氏の蝶コレクション～世界の蝶・日本の蝶　こんなのいまっせ！～」展示解説　中止
10 月 28 日（日）　部門展示「小川昌彦氏の蝶コレクション～世界の蝶・日本の蝶　こんなのいまっせ！～」展示解説　32 人
11 月 25 日（日）　部門展示「小川昌彦氏の蝶コレクション～世界の蝶・日本の蝶　こんなのいまっせ！～」展示解説　26 人
12 月 16 日（日）　部門展示「徳島市恵解山古墳群の発掘と遺跡保存」展示解説　26 人
1 月 20 日（日）　部門展示「徳島市恵解山古墳群の発掘と遺跡保存」展示解説　12 人
3 月 21 日（木・祝）　部門展示「写真家岩朝哲男氏が撮った鳴門の風景―塩田のあった頃―」展示解説　18 人

■その他の普及行事（博物館スペシャルなど）

●県民とともに新常設展を考えるワークショップ

4 月 30 日（月・祝）・5 月 13 日（日）

常設展のリニューアルに向けて、新常設展をよりよ

いものにするため、県民とともにそのあり方を考える参加者公募型のワークショップを開催した。これまで積み上げてきた新常設展の展示案に関する様々な意見をもらい、設計業務等にフィードバックさせることを目的として実施した。

参加者:34 人（4 月 30 日:16 人、5 月 13 日:18 人）
専門家：9 人（4 月 30 日：4 人、5 月 13 日：5 人）
アドバイザー：2 人（4 月 30 日：1 人、5 月 13 日：1 人）

●文化の森こどもの日フェスティバル

5 月 5 日（土）

文化の森 6 館による春季の共同イベントで、各館を回るウォークラリーを実施した。博物館では、2 階常設展示室に体験コーナーを設け、「化石のクリーニング実演」、「魚釣りゲーム」、「昔のあそびいろいろ」、「紙しばい　きんたろう」を、鳥居龍蔵記念博物館と共同で「ぬり絵とすごろくで楽しもう」を行った。

参加者：1,397 人

●教員のための博物館の日 in 徳島 2018

7 月 25 日（水）

教職員に、博物館に親しみをもってもらうこと、博物館の学習資源を知ってもらうことを目的としたイベント。国立科学博物館の提唱により、同館及び趣旨に賛同した各地の博物館で開催されている。

当館では、25 年度に初めて開催し、6 回目となる。（詳細は p.23 参照）。

参加者：12 人

●ジュニア学芸員講座

8 月 2 日（木）・3 日（金）

小学 5 年生～中学 3 年生を対象として、博物館の仕事を実際に体験し、本物の資料を通して郷土の自然や歴史・文化を楽しみながら学んでもらう取り組みである。2 日間をセットにして人文・自然分野の様々な体験を行った。

初日はガイダンスと施設見学、昆虫標本の作製、普及行事の準備を体験した。2 日目は X 線撮影室で考古資料の調査、企画展関連作業や植物標本の整理などを行った。

参加者は 1 名だけだったが、今回の体験を通して、博物館の様々な仕事に関心をもったようであった。なお、8 月 7 日～ 10 月 2 日の間、博物館ロビーで活動の様子を写真パネルにして展示した。

参加者：各 1 人

●科学体験フェスティバル in 徳島への出展

徳島大学で開催された第 22 回科学体験フェスティバル in 徳島（8 月 4 日（土）・5 日（日））に、「ブラックライトで光る !? 博物館資料のレプリカを作ろう !! 」をボランティアスタッフとの協働で出展した。（詳細は p.45 参照）。

参加者：1,522 人（4 日 584 人、5 日 938 人）
ボランティアスタッフ：30 人（4 日 16 人、5 日 14 人）

●夜の博物館ドキドキ体験ツアー

8 月 11 日（土・祝）

夜の博物館の様子を見学してもらうことによって、昼には味わえないスリルのある体験ができるようにした。

参加者：78 人

●文化の森サマーフェスティバル

8 月 19 日（日）

文化の森 6 館による夏季の共同イベントで、各館を回るウォークラリーを行った。博物館では、普段見ることができない収蔵庫や研究施設など、博物館の裏側を見学する「博物館わくわくバックヤードツアー」を実施した。また、2 階常設展示室において「大昔の道具に触ってみよう」、「恐竜の骨格模型の組み立て」、「紙しばい～こん虫のひみつ～」を、鳥居龍蔵記念博物館と共同で「民族衣装にチャレンジ！」をそれぞれ行った。

参加者：1,434 人

●標本の名前を調べる会

8 月 26 日（日）

毎年 8 月下旬に行う恒例の行事で、学芸員のほか 3 人の外部講師の応援を得て実施した。単に名前を教えるだけではなく、いっしょに調べる姿勢で取り組むよう留意した。

参加者：39 名

●文化の森　大秋祭り !!

11 月 3 日（土・祝）

文化の森 6 館による秋季の共同イベントで、各館を

「文化の森サマーフェスティバル」での
「紙しばい～こん虫のひみつ～」

回るウォークラリーを実施した。博物館では、2階常設展示室に体験コーナーを設け、「博物館資料のプラバンをつくろう！」、「ハンズオン博物館」、「化石のクリーニング実演・ミクロの博物館」、「紙しばい～くじらやま～」を、鳥居龍蔵記念博物館と共同で「絵あわせパズルにチャレンジ！」をそれぞれ行った。

参加者：733人

●あすたむらんど徳島「おもしろ博士の実験室」への出展

あすたむらんど徳島で開催された「おもしろ博士の実験室」（11月4日（日））に、「恐竜の骨格模型の組み立て」をボランティアスタッフとの協働で出展した。また、自然や身の回りにある身近な「もの」にブラックライトを照射する体験も行った。（詳細はp.45参照）。

参加者：765人

ボランティアスタッフ：4人

●手話通訳付き博物館裏側見学

12月2日（日）

より多くの人に博物館の全体像を知ってもらうため、磁気ループを使用し、要約筆記付きで裏側見学を行った。

参加者：2人

●触察付き博物館裏側見学

12月9日（日）

より多くの人に博物館の全体像を知ってもらうため、触察付きで裏側見学を行った。

参加者：16人

●文化の森ウィンターフェスティバル

2月11日（月・祝）

文化の森6館による冬季の共同イベントで、各館を回るウォークラリーを行った。博物館では、ボランティアスタッフとの協働による「ボランティアスタッフが贈る新企画～博物館Vキング～」を実施した（詳細はp.45参照）。

参加者：1,238人

●鳥居龍蔵記念　徳島歴史文化フォーラム

2月17日（日）

鳥居龍蔵記念博物館との共催。少年時代に徳島の歴史や文化についてフィールドワークをもとに研究し、後に世界的な研究活動を展開した鳥居龍蔵の取り組みを踏まえ、中学生・高校生による自主的な歴史文化研究の支援と人材育成のため、28年度から実施し、3回目となる。研究レポート（鳥居龍蔵研究、地域研究）を公募し、フォーラム（発表会）での口頭発表をしてもらった上で、優れた成果を表彰した。応募は中学生7件、高校生7件で、全作品を表彰対象とした。

参加者：86人

★クイズラリー

毎月第2・第4土曜日に、高校生以下を対象にクイズラリーを実施している。この行事は、常設展の活用と入館者の獲得を目的に行っており、参加者が展示資料に関する簡単な問題を解きながら観覧することで、新しい発見につながることを期待している。参加者全員に記念品を贈呈している。

4月14日	66人	（未就学27・小36・中2・高1）
4月28日	34人	（未就学15・小19・中0・高0）
5月12日	136人	（未就学13・小32・中1・高0）
5月26日	27人	（未就学17・小10・中0・高0）
6月9日	49人	（未就学23・小25・中1・高0）
6月23日	31人	（未就学17・小10・中4・高0）
7月14日	51人	（未就学19・小25・中6・高1）
7月28日	141人	（未就学67・小66・中6・高2）
8月11日	177人	（未就学94・小80・中3・高0）
8月25日	171人	（未就学88・小74・中6・高3）
9月8日	85人	（未就学40・小45・中0・高0）
9月22日	80人	（未就学38・小42・中0・高0）
10月13日	37人	（未就学23・小13・中1・高0）
10月27日	50人	（未就学22・小28・中0・高0）
11月10日	44人	（未就学17・小18・中0・高9）
11月27日	70人	（未就学25・小33・中12・高0）
12月8日	45人	（未就学24・小20・中0・高1）
12月22日	54人	（未就学17・小31・中2・高4）
1月12日	77人	（未就学40・小33・中3・高1）
1月26日	64人	（未就学39・小24・中0・高1）
2月9日	49人	（未就学28・小19・中1・高1）
2月23日	58人	（未就学29・小26・中2・高1）
3月9日	63人	（未就学29・小32・中1・高1）
3月23日	68人	（未就学39・小29・中0・高0）

参加者合計1,637人

（未就学790・小770・中51・高26）

2．学校教育支援事業

博物館は本来、実物資料に基づく体験的な学習ができる場であり、学校教育において遠足での博物館見学以外にも様々な活用が可能である。また、学習指導要領にも、博物館等の社会教育機関の活用が明記され、博物館に対しても積極的な学校教育への支援が要請されている。

当館でも、平成12～13年度に「博物館と学校との連携に関する研究会」を組織し、博物館と学校との連携（博学連携）のあり方等について模索した。それを

踏まえ、14年度から学校教育支援事業として、学校の授業での博物館利用への支援、学校の授業への講師派遣（出前授業）、学校への博物館資料の貸し出し、職場体験の受け入れ等を積極的に行っている。

学校へ案内パンフレットなどを配布することにより博物館の学校教育支援事業が周知されつつあり、利用が増えている。

25年度からは、「教員のための博物館の日 in 徳島」を継続して行っている。このイベントを開催することにより、教職員に当館の学校教育支援事業、施設、収蔵資料等についての理解を深めてもらい、授業等学校における活動で博物館を活用する方法を知ってもらうことを目指している。

⑴ 学校の授業での博物館利用への支援（館内授業）

講座室や実習室において、理科や社会科の授業と関連して、学年単位で博物館を利用されている。受け入れに当たっては、展示資料だけではなく、必要に応じて収蔵資料を見たりさわったりしてもらうなどの体験的な活動も取り入れた。

①上八万小学校（徳島市）　5月11日（金）
3年生　47人
昆虫のかんさつ（講師：山田）

②徳島視覚支援学校（徳島市）　8月24日（金）
中学部2年生　1人
動物の分類（講師：佐藤）

③美馬小学校（美馬市）　10月16日（火）
3年生　39人
昔の道具とくらし（講師：磯本）

④不動小学校（徳島市）　11月13日（火）
3年生　20人
昔の道具とくらし（講師：庄武）

⑤八万南小学校（徳島市）　2月8日（金）
3年生　87人
昔の道具とくらし（講師：磯本）

館内授業「昔の道具とくらし」

⑵ 学校の授業への講師派遣（出前授業）

依頼に応じて、講師として学芸員を学校へ派遣した。授業では教員と協同し、持参した博物館資料を活用するなどして、児童･生徒の理解を助けるよう工夫した。

①川島小学校（吉野川市）　5月9日（水）
6年生　41人
大昔の暮らしをさぐろう（講師：岡本・植地）

②徳島文理小学校（徳島市）　5月29日（火）
6年生　49人
大昔の暮らしをさぐろう（講師：岡本・植地）

③広野小学校（神山町）　7月13日（金）
全学年　33人
水生生物調査（講師：山田）

④木屋平小・中学校（美馬市）　7月19日（木）
全学年　6人
穴吹川の水質・生物調査（講師：山田）

⑤松茂町内の小学校（子ども自然探検隊　松茂町）　7月27日（金）
全学年　42人
海辺の生き物を探そう（講師：佐藤・山田）

⑥相生子どもクラブ（那賀町）　8月7日（火）
放課後こども教室「相生子どもクラブ」
登録児童　20人
夏休み企画教室「昆虫のお話」（講師：山田）

⑦徳島視覚支援学校（徳島市）　9月21日（金）
中学部2年生　1人
動物の分類（講師：佐藤）

⑧一宮小学校（徳島市）　9月27日（木）
全学年　56人
水辺の教室・水生生物調査会（講師：山田）

⑨津田小学校（徳島市）　10月2日（火）
3年生　91人
昆虫教室（講師：山田）

⑩渋野小学校（徳島市）　10月10日（水）
3年生　45人
昆虫のつくりと育ち（講師：山田）

⑪大松小学校（徳島市）　10月17日（水）
3年生　59人
徳島市の移り変わり（講師：磯本）

⑫鳴門東小学校（鳴門市）　10月19日（金）
全学年　23人
水生生物調査（講師：山田）

⑬助任小学校（徳島市）　11月7日（水）
6年生　161人
おそいかかる空襲（講師：松永）

⑭三庄小学校（東みよし町）　11月26日（火）
1～3年生　95人

昆虫の世界（講師：山田）
⑮池田中学校（三好市）　12月5日（水）
1年生　68人
徳島の伝統文化・産業（講師：庄武）
⑯徳島聴覚支援学校（徳島市）　12月6日（木）
小学部3年生　3人
昔の道具とくらし（講師：磯本）
⑰南井上小学校（徳島市）　1月11日（金）
3年生　68人
昔の道具とくらし（講師：磯本）
⑱吉井小学校（阿南市）　1月17日（木）
3年生　15人
昔の道具とくらし（講師：庄武）
⑲岩脇小学校（阿南市）　1月22日（火）
6年生　29人
大地のつくりと変化（講師：中尾）
⑳津田小学校（徳島市）　1月22日（火）
3年生　91人
昔の道具とくらし（講師：庄武）
㉑学島小学校（吉野川市）　1月28日（月）
3年生　39人
昔の道具とくらし（講師：磯本）
㉒森山小学校（吉野川市）　2月5日（火）
3年生　26人
昔の道具とくらし（講師：庄武）
㉓芝田小学校（小松島市）　2月8日（金）
3年生　16人
昔の道具とくらし（講師：庄武）
㉔沖洲小学校（徳島市）　2月12日（火）
3年生　88人
昔の道具とくらし（講師：磯本）
㉕鴨島小学校（吉野川市）　2月13日（水）
3年生　74人
昔の道具とくらし（講師：磯本）
㉖新野小学校（阿南市）　2月14日（木）
3年生　14人
昔の道具とくらし（講師：庄武）
㉗加茂名南小学校（徳島市）　2月15日（金）
3年生　109人
昔の道具とくらし（講師：磯本）
㉘羽ノ浦小学校（阿南市）　2月15日（金）
3年生　105人
昔の道具とくらし（講師：庄武）
㉙見能林小学校（阿南市）　2月15日（金）
3年生　86人
昔の道具とくらし（講師：庄武）
㉚北島南小学校（北島町）　2月19日（火）
3年生　80人
昔の道具とくらし（講師：庄武）
㉛牛島小学校（吉野川市）　2月20日（水）
3年生　28人
昔の道具とくらし（講師：磯本）
㉜渋野小学校（徳島市）　2月22日（金）
3年生　45人
昔の道具とくらし（講師：磯本）
㉝城東小学校（徳島市）　2月22日（金）
3年生　58人
さぐってみよう昔のくらし（講師：庄武）
㉞鷲敷小学校（那賀町）　2月26日（火）
3年生　21人
昔の道具とくらし（講師：庄武）
㉟知恵島小学校（吉野川市）　2月27日（水）
3年生　14人
昔の道具とくらし（講師：庄武）
㊱内町小学校（徳島市）　2月28日（木）
3年生　49人
昔の道具とくらし（講師：庄武）
㊲昭和小学校（徳島市）　3月1日（金）
3年生　86人
昔の道具とくらし（講師：磯本）
㊳高越小学校（吉野川市）　3月8日（金）
3年生　28人
昔の道具とくらし（講師：磯本）

(3)　遠足

保育園・幼稚園、各種学校、教育関係機関等の来館がある。受付案内員による常設展示解説の案内に加え、26年度より企画担当が、体験的な活動やワークシートなどを使った案内を行っている。

26年度以降の校種別入館件数、地域別入館件数は、次の通りである。それぞれにおける「その他」とは、放課後児童クラブ、発達支援施設などである。

地域別では、徳島市が圧倒的に多く、当館より遠くなるにつれて少なくなっている。毎年、香川県の学校の来館もある。

校種別入館件数（件）

年度	幼稚・保育園	小学校	中学校	高校	その他	計
26	24	56	6	7	11	104
27	19	56	0	1	17	93
28	26	58	3	1	11	99
29	32	63	3	7	4	109
30	37	60	3	1	22	123

地域別入館件数（件）

年度	徳島市	板野郡	鳴門市	小松島市 勝浦郡	阿南市	名西郡 名東郡	阿波市	吉野川市	那賀郡 海部郡	美馬市 美馬郡	三好市 三好郡	県外	計
26	48	8	2	9	6	3	6	8	4	4	3	3	104
27	38	9	4	3	10	3	5	9	4	2	2	4	93
28	52	4	3	9	6	3	5	5	5	1	3	3	99
29	52	6	8	3	13	2	8	5	3	1	4	4	109
30	49	18	4	9	17	4	5	6	5	2	2	2	123

⑷　博物館資料の学校への貸し出し

小･中学校及び高校の授業等で活用してもらうため、10年度から博物館資料の学校への貸し出しを行っている。貸出用資料の一層の利用促進を図るため、15年度末には「学校貸出用資料解説シート」を印刷し、小・中学校及び高校に配布した。また、来館した教職員には、必要に応じて解説シートを配布し、利用を勧めている。

①八万中学校（徳島市）　7月11日～7月20日
貸出資料：写真パネル11、襲遺被害遺物2、焼夷弾破片2　計15点
使用目的：徳島大空襲について理解を深めるため。

②八万小学校（徳島市）　10月23日～11月6日
貸出資料：アンモナイト7、三葉虫7、カルカロドン7、ヌムリテス7、モササウルスの歯7、ナウマンゾウ歯レプリカ1　計36点
使用目的:小6理科学習の資料として使用するため。

③助任小学校（徳島市）　10月26日～11月7日
貸出資料：徳島大空襲遺物2、焼夷弾部分（複製）1、写真パネル11　計14点
使用目的：徳島大空襲について理解を深めるため。

④海南小学校（海陽町）　10月27日～11月18日
貸出資料：ヒマラヤ産アンモナイト5、マダガスカル産アンモナイト6、三葉虫5、サメの歯化石5、モササウルスの歯5、ナウマンゾウ臼歯レプリカ1　計27点
使用目的：小6理科学習の資料、全校への展示として使用するため。

⑤八万小学校（徳島市）　2月1日～2月15日
貸出資料：羽釜1、箱膳1、こて1、炭火アイロン1、たらい1、藁草履1、竿秤1、箱枕1、置き炬燵1　計9点
使用目的：社会科「昔の道具とくらし」授業で使用するため。

⑥那賀川中学校（阿南市）　2月11日～2月16日
貸出資料：徳島大空襲遺物3、防空頭巾1、写真パネル13　計17点
使用目的：平和学習の教材として利用するため。

⑦応神小学校（徳島市）　2月17日～2月21日
貸出資料：羽釜1、飯びつ1、洗濯板1、たらい1、自在鉤1、鉄瓶1、火箸1、火消し壺1、箱膳1、竿秤1、火のし1、炭火アイロン1、草履1　計13点
使用目的：社会科「昔の道具とくらし」授業で使用するため。

⑧宝田小学校（阿南市）　2月18日～3月9日
貸出資料：石臼1、はけ1、ふるい1
使用目的：社会科「昔の道具とくらし」授業で使用するため。

⑸　職場体験の受け入れ

中学校・高校の職場体験事業の受け入れを行い、生徒に博物館業務を体験してもらうことによって、博物館に対する認識を高めることができた。

①南部中学校（徳島市）　5月15日～17日
3年生　2人

②徳島中学校（徳島市）　6月5日～6日
3年生　3人

③鳴門教育大学附属中学校（徳島市）　6月27日～29日
2年生　3人

④八万中学校（徳島市）　7月3日～5日
3年生　3人

⑤城西中学校（徳島市）　7月5日～6日
2年生　1人

⑥中央高等学校（徳島市）　8月9日
2年生　1人

⑦城南高等学校（徳島市）　8月10日
2年生　2人　　1年生　1人

⑧徳島北高等学校（徳島市）　8月12～13日
2年生　2人

⑨川内中学校（徳島市）　10月10日～12日
2年生　3人

⑩城ノ内中学校（徳島市）　　11 月 14 日～ 15 日
3 年生　3 人

(6)　教員のための研修

徳島県教育委員会等からの依頼により、館内外における教員対象の研修会で職員が指導に当たった。

①教員のための博物館の日 in 徳島 2018
（大学・研究機関等研修、10 年次研修）
7 月 25 日（水）　参加者 12 人
・「授業で博物館をどうやって使うの？」（講師：西川）
・展示案内・解説「徳島の自然と歴史（常設展等の解説と質問）」
A：理科コース　徳島の自然（案内：自然課学芸員）
B：社会科コース　徳島の歴史（案内：人文課学芸員）
C：企画展コース「ジャングルいきもの図鑑」解説と質問（案内：茨木ほか）
D：鳥居龍蔵記念博物館コース（案内：鳥居龍蔵記念博物館学芸員）
・見学ツアー「博物館の裏側」博物館のバックヤード見学（講師：佐藤・大橋・中尾・辻野）
・見て触れて聞いて実感！「徳島の自然と歴史」（学芸員による貸し出し資料等の紹介、講師：学芸員及び企画担当）

②吉野川市小学校理科部会研究会
8 月 2 日（木）　参加者 12 人
・化石発掘体験（講師：辻野）
・博物館バックヤード見学（講師：中尾）

③三観地区理科部会教員研修「第 2 回自然観察会」
8 月 12 日（日）　参加者 11 名
・博物館の裏側見学（案内：山田・中尾）

④海部郡小学校理科部会夏期研修

教員のための博物館の日 in 徳島 2018 での
「見て触れて聞いて実感！『徳島の自然と歴史』」

8 月 29 日（水）　参加者 10 人
・水生微生物の観察（講師：山田）
・企画展「ジャングルいきもの図鑑」展示解説（案内：茨木・山田）

(7)　その他

博物館での授業、講師派遣、資料の貸し出しに限らず、学校の授業や放課後児童クラブ活動等において、自然観察、生活体験、歴史学習等を実施する際、児童・生徒の学習意欲向上のための工夫や資料の活用方法等を、学芸員が博物館での経験を踏まえ、教員の相談に応じることにしている。

3．普及教育関係出版物

(1)　博物館ニュース

博物館の広報紙で、内容は、学芸員の研究の一端を紹介する "CultureClub"、館蔵品紹介、野外博物館、企画展案内、情報ボックス、レファレンスＱ＆Ａ、普及行事の案内と記録などから構成されている。Ａ４判・8 ページ（全ページカラー）で 9,000 部を印刷している。

30 年度は、次の 4 号を発行した。また、当館ホームページでも公開している。

● No.111（2018 年 6 月 25 日発行）
表紙　フタバガキ科の植物の果実
CultureCulb　ビワを加害する新害虫―ビワキジラミ
企画展　ジャングルいきもの図鑑
歴史散歩　小松島市和田島町漁祭りでのえびす舞
情報ボックス　博物館におけるドローンの活用
Ｑ＆Ａ　東京に徳島藩ゆかりの門があると聞いたのですが、本当ですか？

● No.112（2018 年 9 月 15 日発行）
表紙　那賀川の川岸の岩場に咲くナカガワノギク
CultureCulb　銅製品のサビを見てみよう―北の脇一括出土銭の観察から―
特別陳列　ごっついで那賀川―博物館資料で見る那賀川流域の自然とくらし―
歴史散歩　阿南市羽ノ浦町の横穴式石室
情報ボックス　“まぼろし”の青い目の人形―ある小学校教師の手帳が物語ること―
Ｑ＆Ａ　中央構造線の活断層がよく見える場所を教えてください。

● No.113（2018 年 12 月 1 日発行）
表紙　徳島市恵解山 1 号墳出土　衝角付冑・鉄鏃
CultureCulb　阿波晩茶の製造技術と晩茶の個性

部門展示　徳島市恵解山古墳群の発掘と遺跡保存
速報　徳島県勝浦町で恐竜化石含有層と新たな恐竜化石などを発見
館蔵品紹介　長翅型のナベブタムシ
Q＆A　瀬戸内の風景をかいた絵巻があるそうですが？

● No.114（2019 年 3 月 25 日発行）
表紙　ウバロバイト
CultureCulb　黒沢湿原の魚類相
企画展　ミネラルズ
情報ボックス１　禁門の変と徳島藩
情報ボックス２　タンポポ調査・西日本 2020 にご協力ください
Q＆A　庚申塔にたくさんの石をかけてあるのを見ました。なぜですか？

⑵　その他

●年間催し物案内
１年間の普及行事予定を掲載したＡ４判パンフレットを７万部印刷し、県内の小・中・高校生及び教職員全員に配布した。さらに、博物館ニュースとともに発送するほか、展示室入り口に置いて来館者に自由にとってもらったり、普及行事の参加者に配布したりしている。

●月間催し物案内
各月の普及行事の実施要領や申込み方法等の案内を印刷した、Ａ３判またはＡ４判のビラ。報道関係機関等に配布するほか、来館者にも提供している。

●博物館引率の手引き
学校の遠足などの利用に役立つよう、博物館の入館案内、見学に当たっての留意点、観覧料減免申請手続きなどを説明した印刷物。

●博物館の学校支援事業案内
博物館が行っている学校への支援事業を、内容別に紹介したパンフレット。

Ⅲ　調査研究

調査研究は、博物館における諸活動の根幹をなす活動である。質の高い調査研究に裏付けられてこそ、最新の情報を盛り込んだ展示や意義のあるコレクションの収集、内容豊かな普及活動が可能となる。

当館の調査研究事業には、複数の学芸員グループで、必要に応じて館外の研究者も含め、特定のテーマを定めて年度単位で集中的に取り組む課題調査、各学芸員がそれぞれの分野や専門とするテーマに基づいて日常的に取り組んでいる個別調査研究、翌々年以降に予定されている企画展のための事前資料調査などがある。

現在、14 人の学芸スタッフがこの業務に携わっている。

1．課題調査

平成 30 年度は、次の 1 件の課題調査を行った。

⑴ 日本最古級恐竜化石含有層（ボーン・ベッド）緊急発掘調査事業

徳島県勝浦町には、白亜紀前期（約 1 億 3000 万年）の地層である立川層が分布する。平成 6 年に立川層から四国初となる鳥脚類イグアノドン類の歯化石が発見された。その後、28 年に徳島県で 2 つ目の恐竜の化石（竜脚類ティタノサウルス形類の歯）が発見された。28 年の恐竜化石の発見を受け、当館では、福井県立恐竜博物館や徳島県内の化石愛好家の協力を得て、28 年冬から 30 年春まで、断続的に恐竜化石発見地点周辺の地質調査を行ってきた。その結果、30 年 4 月に脊椎動物化石が密集する層（厚さ 30cm）を発見し、新たな恐竜（竜脚類）の歯化石 3 点、恐竜（鳥脚類の可能性あり）の腱化石 2 点が発見された。また、ワニの歯やカメの甲羅、その他に未同定の骨片など、これまで 45 点の脊椎動物化石が産出した。そのため、この約 30cm の層を、恐竜化石含有層（いわゆるボーン・ベッド）と判断し、同年 11 月 28 日から 12 月 16 日まで、緊急発掘調査を実施した。

緊急発掘調査は、ハンマーやツルハシ、削岩機を使い、おもに手作業でボーン・ベッドの掘削を行った。化石が含まれる可能性が高い岩石は、後方支援施設（徳島県立農林水産総合技術支援センター勝浦試験地）に運搬し、県内の化石愛好家や阿波勝浦井戸端塾などの勝浦町内のボランティアの協力を得て、岩石の小割作業と化石の探索を行った。

●調査メンバー

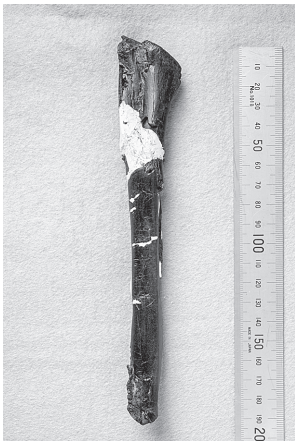
博物館学芸員：辻野泰之（地学）・中尾賢一（地学）・佐藤陽一（動物）

館外調査者：東　洋一（福井県立恐竜博物館特別館長）・河部壮一郎（福井県立恐竜博物館研究員）・中山健太朗（福井県立恐竜博物館主事）・小笠原憲四郎（筑波大学名誉教授）・石田啓祐（徳島大学教授）・橋本寿夫（元・板野中学校教員）・両角芳郎（元・徳島県立博物館長）

調査協力者（化石愛好家）：岩城秀行・奥平耕右・四宮義明・芝原正浩・白石弘幸・田上

発掘現場

後方支援



獣脚類の頸骨

竜脚類の歯

浩久・田上竜熙・板東一郎
調査協力者（阿波勝浦井戸端塾・徳島県立博物館イベントボランティアなど）：23 名
業務委託業者：6 名

●調査日程

11 月 28 日（水）～ 12 月 12 日（水）：化石発掘現場での調査

12 月 4 日（火）～ 12 月 16 日（日）：後方支援施設での作業

●調査概要および結果

化石発掘現場の調査および後方支援施設での小割作業において、獣脚類恐竜の脛骨や竜脚類恐竜の歯などをはじめとする脊椎動物化石 47 点を発見した（p.34 参照）。

内訳は以下のとおりである。

・獣脚類恐竜の左脛骨化石　2 点
（※ 2 点の化石は、1 対になり同一の化石）
・竜脚類恐竜の歯化石　1 点
・恐竜化石の可能性がある骨化石　1 点
・カメの甲羅化石　21 点
・硬鱗魚などの魚類のウロコ化石　8 点
・淡水生サメ類の歯化石　3 点
・その他　骨片化石　11 点

採集された脊椎動物化石は、現在も徳島県立博物館および福井県立恐竜博物館で整理作業を行い、岩石から取り出すためのクリーニングを実施中である。

●勝浦町恐竜発掘活性化協議会

徳島県をはじめ勝浦町、関係団体等が密接な連携のもと、恐竜化石産地周辺の環境に配慮した発掘調査を促進し、県民参加型の発掘の仕組みの検討や恐竜を核とした魅力の発信等を通じて、徳島県及び勝浦町の地方創生、地域活性化を図ることを目的にして協議会を設置した。

日時・場所
第 1 回　平成 30 年 11 月 9 日（金）14 時～（勝浦町役場）
第 2 回　平成 31 年 3 月 11 日（月）13 時 30 分～（徳島県庁 9 階　教育委員室）
出席者　委員　小笠原憲四郎委員長ほか　12 名
オブザーバー　福井県立恐竜博物館
東　洋一　特別館長

●共同記者会見

30 年春に発見した、恐竜化石含有層（いわゆる「ボーン・ベッド」）および新たな恐竜化石等を発見したことについて、徳島県と勝浦町が共同で記者会見を行った。

日時・場所　平成 30 年 8 月 9 日（木）
徳島県庁 3 階　記者会見室
出席者　飯泉嘉門　徳島県知事
野上武典　勝浦町長
解説者　東　洋一　福井県立恐竜博物館特別館長
発見者ら　奥平耕右氏・田上浩久氏・田上竜熙氏
協力者ら　白石弘幸氏・板東一郎氏・芝原正浩氏

2．分野別（個別）調査研究

佐藤陽一（動物・脊椎動物）

①徳島県淡水魚類相調査

園瀬川および岡川で小規模な魚類相調査を行った。

②徳島県希少野生生物生息状況調査「オヤニラミ」

当館が 18 年度から開始した徳島県産オヤニラミ調査は、23 ～ 25 年度にかけては県希少野生生物保護検討委員会のもと集団遺伝学的な状況の把握についても進めてきた。26 年度からはこれまでの調査

成果を活かして、「岡川オヤニラミ再生プロジェクト」（日亜化学、愛媛大学との共同プロジェクト）としても実施することとなり、28 年度にはこの一環として、桑野川において増殖用の親魚の採集調査等に協力した。

29 年度からは 2 か年計画で県が進めるオヤニラミ回復事業（環境首都課）に協力し、生息状況や遺伝的かく乱の実態調査を行うことになった。30 年度は、昨年度に引き続き、これまでの調査で外来個体群の導入が確認されていた桑野川支川南川において分布状況と遺伝的構成を明らかにするための調査を実施した（愛媛大学との共同調査）。また、これまで生息状況が不明であった上流部の支川・元信川においてオヤニラミの生息確認調査を行った。

③ドローンによる県内流域の空撮

淡水魚類等の生物の分布は河川争奪や盆地・平野の氾濫原などにおける溢流など地史の影響を大きく受けていると考えられる。その表れが地形である。これまで関心ある地域の空撮は手軽にできるものではなかったが、高性能で小型のドローンが開発されたことにより、容易に撮影できるようになった。

当館では 29 年度末にドローンを導入し、30 年度より河川流域の空撮を開始した。特に 30 年度は特別陳列「ごっついで那賀川」に関連して那賀川流域の各所で撮影を行ったほか、②のオヤニラミ調査に関連して桑野川流域、日本最古級恐竜化石含有層緊急発掘調査事業に関連して勝浦川流域、また、鮎喰川流域や海部川流域などでも撮影を行った。

山田量崇（動物・無脊椎動物）

①トコジラミ上科半翅類の外傷性授精に関する研究

トコジラミ類の特異的な交尾様式について、とくに雌雄交尾器の機能と構造に着眼して研究を進めた。

②原始的なカメムシ亜目昆虫の交尾器に関する研究

国内（徳島･奄美大島･石垣島）の野外調査によって実験及び解析のためのサンプリングを行った（当館科研費による主担研究）。

③中国ヒマラヤ地域におけるカメムシ目異翅類の系統分類と有用生物資源種の探索

広渡俊哉氏（九州大学教授）らとの共同調査により、中国広東省にてカメムシ目異翅類の調査を行った（九州大学科研費による分担研究）。

④南部インドの農業生態系における半翅類の分類と生態に関する研究

有用天敵であるハナカメムシ類を中心とした難同定分類群の同定法の確立と生態的知見の蓄積を行った（インド国立農業昆虫研究所と共同）。

⑤新害虫ビワキジラミの防除対策の確立に関する研究

平成 30 年度イノベーション創出強化研究推進事業「四国で増やさない！四国から出さない！新害虫ビワキジラミの防除対策の確立」の一環として、ビワキジラミの天敵昆虫相の調査を行った。（国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構を代表機関とする共同研究事業）

小川　誠（植物）

①県産植物相の調査

徳島県の植物相の調査を行った（木下覺氏らと共同）。30 年度は阿波学会の調査を兼ねて三好市の植物相について調査を行った。

②タンポポの分布調査

タンポポ調査実行委員会のメンバーと調査方法の打ち合わせを行った上で、3 月 1 日よりタンポポ調査を行った。

③市民の協力による普及行事の開発参加型調査のツールの開発

「みどりのサポート隊」を募集し、市民のボランティアによる普及行事の開発や改良を試みた。その成果をもとに 30 年度には新しい行事を加えることができた。

④自然に興味を持ってもらうためのツールの開発

ブラックライトで光る資料を収集し、徳島大学科学体験フェスティバルなどを通じて、自分で発見できることの喜びなどを知ってもらう活動を行った。さらに博物館ワークショップ用巡回資料を倉敷市立自然史博物館に貸し出し、ワークショップの開催の支援を行った。

茨木　靖（植物）

①県産植物相の調査

徳島県の植物相の調査を行った（木下覺氏らと共同）。

②イネ科植物の比較研究

国内外各地のイネ科植物について、その異同、分布等に関する調査を行った。

③県内における海流種子等の漂着状況に関する調査（濵直大氏らと共同）

中尾賢一（地学）

①鮮新統～更新統の堆積環境と貝化石相の調査

長崎県と高知県で堆積構造の観察と貝化石の採集及び二枚貝類の分類学的研究を行った。

②徳島市三谷遺跡産出の貝に関する研究（高島芳弘元館長らと共同）

③勝浦町及び上勝町に分布する白亜紀層に関する調査

勝浦町の竜脚類恐竜化石の発見地点や周辺地域の地質調査を実施した。（福井県立恐竜博物館と共同）。

辻野泰之（地学）

①北海道の蝦夷層群より産出するアンモナイト化石に関する研究

特に白亜系蝦夷層群より産出する異常巻きアンモナイト：バキュリテス類の分類、進化に関する研究を行った。

②古生物タイプ標本のICタグ管理及び3Dデータネットワーク構築の研究

特に白亜紀アンモナイト類のタイプ標本の写真撮影および3Dデータを取得し、ホームページに掲載した（当館科研費による主担研究）。

③勝浦町に分布する白亜紀層に関する調査

勝浦町で発見された恐竜化石含有層の発掘調査を実施した。（福井県立恐竜博物館や徳島県化石同好会と共同）。

岡本治代（考古・保存科学）

①南海道における古代瓦の調査

徳島県・香川県・高知県・愛媛県で出土した古代瓦の調査を行った。

②鳥居龍蔵の愛知調査関連遺跡・遺物の調査

鳥居龍蔵が昭和４～５年に行った愛知での調査に関する資料の調査を行った。

植地岳彦（考古・保存科学）

①若杉山遺跡出土の水銀朱生産関連資料の調査

水銀朱関連資料の材質・構造調査を行った。

②阿南市北の脇で採集された古銭の保存科学的調査を行った。

③博物館等の展示及び収蔵に関する環境・設備の調査を行った。

④県民の依頼を受け、水浸文書の凍結真空乾燥処理を実施した。

⑤外部から依頼された文化財等の材質調査などを実施した。

長谷川賢二（歴史）

①中世修験道史の研究

最近の研究動向の批判的検討を行うとともに、中近世移行期の阿波における山伏集団のあり方について検討した。

②中世における熊野信仰の研究

阿波の国人領主大西氏と熊野信仰の関係について引き続き検討した。また、熊野信仰を媒介とする紀伊と阿波の交流について検討した。

③阿波忌部の麁服貢納に関する検討

古代・中世、阿波忌部によって担われた大嘗祭の麁服貢納の実態について、とくに古文書学的観点から検討した。

④藩撰地誌「阿波志」に関する調査

徳島城博物館が所蔵する当該資料の共同調査に参加し、書誌的な情報や内容等の調査を行った。

松永友和（歴史）

①阿波藍に関する調査

館蔵の手塚家資料などをもとに、江戸時代における阿波藍の歴史を調査した。具体的には、藍商と紺屋との関係、藩政との関わりなどを検討した。

②徳島藩に関する調査

徳島藩寛政改革における地方支配の編成にともない設置された郡代に注目し、郡代が領内の状況を報告した藩政文書（いわゆる「郡代報告書」）について検討を加え、一部を翻刻・紹介した。

③四国遍路に関する調査

江戸時代における四国遍路の歴史を調査した。具体的には、徳島県内の遍路日記に注目し、翻刻作業を進めた。

④藩撰地誌『阿波志』に関する調査

徳島城博物館が所蔵する当該資料の共同調査に参加し、書誌的な情報や内容等の調査を行った。

庄武憲子（民俗）

①徳島県内の人形座に関する調査

阿波木偶箱まわし保存会と共同で、国立歴史民俗博物館に収蔵されている元川口源之丞座資料、個人蔵の元木頭共楽座資料の調査、記録を行った。

②民家に遺された神札の調査

徳島県内の民家に遺された神札についての資料整理、調査を行った。

③ユニバーサルミュージアムについての取り組み

ユニバーサル化推進委員会の取り組みとして、聴覚障がい、視覚障がい者向けの博物館普及行事の実施を試みた。

④徳島県内漁港におけるえびす信仰調査

県内の漁港においてえびす神がどのように信仰されているか聞き取り調査を行った。成果は四国民俗学会において公表した。

⑤旧西祖谷山村内における地神信仰とえびす信仰の調査

旧西祖谷山村内において県内では変則的となる地神塔の調査を行い農神としてのえびす信仰との関わりについて考察した。

⑥遊山箱についての記録と分類

個人所有の遊山箱について調査、記録、分類を行った。

磯本宏紀（民俗）

①近現代移住漁民による技術移動と都市部への定住に関する民俗学的研究

徳島県を出身地とする移住漁民を対象に、移住の

経緯と都市部定住後の技術移動や生業、コミュニティの形成の把握を目的に調査研究を行った（当館科研費の研究代表者）。

②阿波晩茶の製造技術に関する調査

徳島県域で生産される後発酵茶の製造技術及び製造用具等に関する調査を行った（徳島県教育委員会教育文化課と共同）。

③民俗展示の多言語化のための基礎的研究

韓国等東アジアの水産資源を素材として言語と文化分類の比較研究と事典の作成を目的とする共同研究に参加している（千葉県立中央博物館科研費の連携研究者）。

④朝鮮海出漁の歴史とその文化的影響の研究―イワシをめぐる韓国の民俗変化

③の研究と連携して、カタクチイワシ漁と加工法及び食文化の植民地期の朝鮮への伝播と、戦後におけるそれらの変遷及び文化的影響についての共同研究に参加している（国立歴史民俗博物館科研費の研究分担者）

⑤戦前の渋沢水産史研究室の活動に関する調査研究

昭和10年代のアチック・ミューゼアムの水産史研究の実態解明に必要な資料の掘り起こしと既存資料の再評価、活動を推進した研究員やアチック同人の活動の相関関係の把握により、アチックの活動の学術史上の再検討を目的とする共同研究に参加している（国際常民文化研究機構共同研究）。

⑥鳥取県史編さん事業に関する調査の内「生業（漁業）」に関する調査

鳥取県史調査にもとづき、『鳥取県史　民具編』の執筆をした（鳥取県史編さん室及び調査委員との共同）。

⑦地域における歴史文化研究拠点の構築

地域社会の変化に対応し、次代へ歴史と文化を継承していくためのシステムの構築を目的とする。特に地域社会における多様な文化資源を保存継承し、それらを伝えていくための拠点の形成とそれを維持していくための条件について集中的に調査研究する共同研究に参加した（国立歴史民俗博物館共同研究）。

⑧犬伏家住宅の民具（製薬用具等）に関する調査

犬伏家住宅に保管される民具（製薬用具等）の資料調査を行った（藍住町教育委員会との共同研究）。

⑨民具収蔵施設及び民具調査

三好市において、民具収蔵施設及び民具調査を行った。唐箕の実測を行った。

大橋俊雄（美術工芸）

①塗師藤重及び蒔絵師飯塚桃葉の調査

阿波藩の京屋敷に出入りした塗師の藤重家、および18世紀後半に活躍した藩の御用蒔絵師飯塚桃葉について資料と作品を調査した。

②江戸時代における好古の潮流をめぐる調査

柴野栗山、屋代弘賢、住吉広行など徳島に関わりの深い人物を中心に、江戸後期における好古の潮流について調査した。

③近世阿波の住吉派についての調査

渡辺広輝、守住貫魚を中心とする阿波の住吉派絵師の資料と作品を調査した。

3．分野別（個別）調査研究等の館内公表会（セミナー）

課題調査及び分野別（個別）調査研究等について、学芸員相互の情報交換と研究資質向上をはかることを目的として、館内公表会（セミナー）を随時実施している。必要に応じて、学芸員の調査研究の協力者等、館外の研究者に発表を依頼することもある。30年度は次の通り実施した。

5月30日（水）　山田量崇「四国で増やさない！四国から出さない！新害虫ビワキジラミの防除対策の確立」

7月27日（金）　長谷川賢二「英語圏における日本宗教研究の一端を垣間見て―2017年夏の米国訪問―」

2月15日（金）　佐藤陽一「写真と映像―4K撮影を中心に」

4．科学研究費補助金等による研究

●基盤研究（C）：原始的なカメムシ亜目昆虫の謎めいた交尾器を探る：形態進化と多様化プロセスの解明（平成28～30年度）

研究代表者：山田量崇

●基盤研究（C）：近現代移住漁民による技術移動と都市部への定住に関する民俗学的研究（平成28～令和元年度）

研究代表者：磯本宏紀

●若手研究（B）：古生物タイプ標本のICタグ管理および3Dデータネットワーク構築の研究（平成28～30年度）

研究代表者：辻野泰之

●基盤研究（B）：中国ヒマラヤ地域における昆虫類の系統分類と有用生物資源種の探索（平成28～30

年度）
研究代表者：広渡俊哉氏（九州大学農学部教授）
当館の分担研究者：山田量崇

●基盤研究（B）：地域資料調査に基づく四国遍路の総合的研究（平成 29 ～令和 2 年度）
研究代表者：胡　光氏（愛媛大学法文学部教授）
当館の分担研究者：長谷川賢二、松永友和

●基盤研究（B）：民俗展示の多言語化のための基礎的研究―東アジアの水産資源を素材として（平成 28 ～令和元年度）
研究代表者：島立理子氏
（千葉県立中央博物館主任上席研究員）
当館の連携研究者：磯本宏紀

●基盤研究（B）：朝鮮海出漁の歴史とその文化的影響の研究―イワシをめぐる韓国の民俗変化（平成 29 ～令和 2 年度）
研究代表者：松田睦彦氏
（国立歴史民俗博物館准教授）
当館の研究分担者：磯本宏紀

●国際常民文化研究機構共同研究（一般）：戦前の渋沢水産史研究室の活動に関する調査研究（平成 27 ～ 30 年度）
研究代表者：加藤幸治氏（東北学院大学教授）
当館の共同研究者：磯本宏紀

●平成 30 年度　イノベーション創出強化研究推進事業：四国で増やさない！四国から出さない！新害虫ビワキジラミの防除対策の確立
代表機関：国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構
当館の共同研究者：山田量崇

5．他機関との共同研究

●徳島県オヤニラミ回復事業調査
県指定希少野生生物であるオヤニラミは、平成 28 年 8 月に「オヤニラミ回復事業計画」として策定され、本種が自然状態で安定的に存続できる状態とすることを目標にしている。その一環として県環境首都課の依頼を受け、本種の主要な生息地である桑野川水系において 29 ～ 30 年の 2 か年にわたり生息状況や外来個体群の調査を実施することになった。
この調査は愛媛大学との共同調査で、当館が全体の統括と現地調査を主として担当し、愛媛大学が遺伝学的な解析を担当している。

●南部インドの農業生態系における半翅類の分類と生態に関する研究
有用天敵であるハナカメムシ類を中心とした難同定分類群の同定法の確立と生態的知見の蓄積を行った（インド国立農業昆虫研究所と共同）。

●勝浦町及び上勝町に分布する白亜紀層に関する調査
勝浦町の竜脚類恐竜化石の発見地点や周辺地域の地質調査を実施した（福井県立恐竜博物館や徳島県化石同好会と共同）。

●藩撰地誌「阿波志」に関する調査
徳島城博物館が所蔵する当該資料の共同調査に参加し、書誌的な情報や内容等の調査を行った。

●徳島県内の人形座に関する調査
阿波木偶箱まわし保存会と共同で、国立歴史民俗博物館に収蔵されている元川口源之丞座資料、個人蔵の元木頭共楽座資料の調査、記録を行った。

●阿波晩茶の製造技術に関する調査
徳島県域で生産される後発酵茶の製造技術及び製造用具等に関する調査を行った（徳島県教育委員会教育文化課と共同）。

●鳥取県史編さん事業に関する調査の内「生業（漁業）」に関する調査
鳥取県史調査にもとづき、『鳥取県史　民具編』の執筆をした（鳥取県史編さん室及び調査委員との共同）。

●地域における歴史文化研究拠点の構築
地域社会の変化に対応し、次代へ歴史と文化を継承していくためのシステムの構築を目的とする。特に地域社会における多様な文化資源を保存継承し、それらを伝えていくための拠点の形成とそれを維持していくための条件について集中的に調査研究する共同研究に参加した（国立歴史民俗博物館共同研究）。

●犬伏家住宅の民具（製薬用具等）に関する調査
犬伏家住宅に保管される民具（製薬用具等）の資料調査を行った（藍住町教育委員会との共同研究）。

6．研究成果の公表

(1) 徳島県立博物館研究報告第 29 号の発行
2019 年 3 月 30 日発行、A4 判 73 ページ、600 部
（＊印：館外研究者）

論文
大橋俊雄：飯塚桃葉と波涛蒔絵鞍の制作．p.1－8.

調査報告・資料紹介
山田量崇：徳島県におけるクスベニヒラタカスミカメの分布状況．p.9－14.
大原賢二＊・山田量崇：アサギマダラの移動に関する徳島県の記録（2018 年）．p.15－28.

植地岳彦：阿南市北の脇海岸の古銭．p.29－36.
松永友和：徳島藩郡代関係文書について―「郡代報告書」の紹介と報告―．p.37－62.
短報
玉川晋二郎*・黒川康嘉*：香川県東部におけるヒメウスバカゲロウの記録（アミメカゲロウ目：ウスバカゲロウ科）．p.63－66.
茨木　靖・横田昌嗣*・木場英久*：沖縄県から新たに発見された外来イネ科植物，ホウキヌカキビ *Panicum scoparium* Lam. p.67－70.

(2) 公表論文・報告・記事等一覧
（＊印：館外研究者）

●動物
〈学術的著述〉（☆：査読付学術雑誌）
☆ Yasunaga, T.*, Tsai, J. F.* & Yamada, K.（2018. 5）Redefinition of two little known mirine plant bug genera *Babacoris* and *Paramiridius*（Hemiptera：Heteroptera：Miridae：Mirinae）. *Zootaxa*, 4425：327－341.
☆ Ballal, C. R.*, Akbar, S. A.*, Yamada, K., Wachkoo, A. A.* & Varshney, R.*（2018. 7）Annotated catalogue of the flower bugs from India（Heteroptera：Anthocoridae, Lasiochilidae）. *Acta Entomologica Musei Nationalis Pragae*, 50：207－226.
相馬　純*・山田量崇（2019. 2）山梨県におけるミヤモトフタガタカメムシの初記録と生息環境．Rostria,（63）：108－109.
山田量崇（2019. 3）徳島県におけるクスベニヒラタカスミカメの分布状況．徳島県立博物館研究報告,（29）：9－14.
大原賢二*・山田量崇（2019. 3）アサギマダラの移動に関する徳島県の記録（2018 年）．徳島県立博物館研究報告,（29）：15－28.
〈一般著述〉
佐藤陽一（2018. 6）博物館におけるドローンの活用．徳島県立博物館ニュース（情報ボックス）,（111）:6.
佐藤陽一（2019. 3）黒沢湿原の魚類相．徳島県立博物館ニュース（野外博物館）,（114）：2－3.
山田量崇（2018. 6）ビワを加害する新害虫―ビワキジラミ．徳島県立博物館ニュース（Culture Club）,（111）：2－3.
山田量崇（2018. 12）長翅型のナベブタムシ．徳島県立博物館ニュース（館蔵品紹介）,（113）：6.

●植物
〈学術的著述〉（☆：査読付学術雑誌）
小川　誠・木下　覺*・成田愛治*・中村俊之*・茨木　靖・小松研一*（2019. 3）三好市の植物．阿波学会紀要,（62）：13－23.
茨木　靖・横田昌嗣*・木場英久*（2019. 3）沖縄県から新たに発見された外来イネ科植物，ホウキヌカキビ *Panicum scoparium* Lam. p.67－70．徳島県立博物館研究報告,（29）：67－70.
〈一般著述〉
小川　誠（2018. 9）那賀川の川岸の岩場に咲くナカガワノギク．徳島県立博物館ニュース（表紙）,（112）：1.
小川　誠（2019. 3）タンポポ調査・西日本 2020 にご協力ください．徳島県立博物館ニュース（情報ボックス）,（110）：7.
長谷川匡弘*・小島和江*・茨木靖（2019. 3）ワセオバナの大阪府からの記録．近畿植物同好会誌（42）：38－39.

●地学
〈学術的著述〉（☆：査読付学術雑誌）
高島芳弘*・中尾賢一（2018. 3）三谷遺跡の貝類．「三谷遺跡―徳島市佐古配水所施設建設工事に伴う発掘調査―，本編分冊・自然遺物編」，徳島市教育委員会：97－114.
西山賢一*・石田啓祐*・橋本寿夫*・辻野泰之・中尾賢一・殿谷梓*（2019. 3）三好市の地質と地形　―その生い立ちと特質―．阿波学会紀要，62：1－11.
〈一般著述〉
中尾賢一（2019. 3）中央構造線の活断層がよく見える場所を教えてください．徳島県立博物館ニュース（レファレンス Q & A）,（112）：7.
中尾賢一（2019. 3）ウバロバイト．徳島県立博物館ニュース（表紙）,（114）：1.
辻野泰之（2018. 4）コレクション　徳島県立博物館．博物館研究，53（5）：35.
辻野泰之（2018. 3）徳島県勝浦町で恐竜化石含有層と新たな恐竜化石などを発見．徳島県立博物館ニュース（速報）,（113）：5.

●考古
〈学術的著述〉（☆：査読付学術雑誌）
岡本治代（2019. 2）阿波・土佐，第 19 回古代瓦研究会　8 世紀の瓦づくりⅧ――一本づくり・一枚づくりの展開 2 ―資料集（西日本編）：246－268.
岡本治代（2019. 2）四国地方の一本づくり・一枚づくり，第 19 回古代瓦研究会　8 世紀の瓦づくりⅧ――一本づくり・一枚づくりの展開 2 ―　発表要旨：147－163.
清野孝之*・藤川智之*・松林玲美*・岡本治代（2019. 3）

藤原宮式軒瓦からみた阿波・讃岐東部の交流の一様相.真朱,(12)：1－28.
植地岳彦（2019. 3）阿南市北の脇海岸の古銭．徳島県立博物館研究報告,（29）：29－36.
〈一般著述〉
岡本治代（2018. 9）阿南市羽ノ浦町の横穴式石室．徳島県立博物館ニュース（歴史散歩),（112）：5.
岡本治代（2018. 12）．徳島市恵解山1号墳出土　衝角付冑･鉄鏃．徳島県立博物館ニュース(表紙),(113)：1.
植地岳彦（2018. 9）銅製品のサビを見てみよう―北の脇一括出土銭の観察から―．徳島県立博物館ニュース（Culture Club),（112）：2－3.
植地岳彦（2019. 2）コラム3　鉄製考古資料と長国の埋蔵文化財．長国の埋蔵文化財5周年記念図録：22.
●歴史
〈学術的著述〉（☆：査読付学術雑誌）
松永友和（2018. 10）阿波藍をめぐる藍商・紺屋と藩政の動向―藍商手塚家・井上家を中心に―．地方史研究協議会編「地方史研究協議会第68回（徳島）大会成果論集　徳島発展の歴史的基盤―「地力」と地域社会―」．雄山閣：169－196.
松永友和（2019. 3）資料紹介　徳島藩郡代関係文書について―「郡代報告書」の紹介と翻刻―．徳島県立博物館研究報告,（29）：37－62.
〈一般著述〉
長谷川賢二（2018. 3）書評と紹介　永村眞編「中世の門跡と公武権力」．山岳修験,（61）：102－103.
長谷川賢二（2018. 9）“まぼろし”の青い目の人形―ある小学校教師の手帳が物語ること―．徳島県立博物館ニュース（情報ボックス),（112）：6.
長谷川賢二（2018. 12）書評　近藤祐介著「修験道本山派成立史の研究」．民衆史研究,（96）：71－77.
長谷川賢二（2019. 3）支部会だより：中・四国支部会　見学会・研究会「大学博物館にできること」報告．JMMA会報,（84）：28－31.
松永友和（2018. 6）東京に徳島藩ゆかりの門があると聞いたのですが、本当ですか？．徳島県立博物館ニュース（Q and A),（111）：7.
松永友和（2019. 3）禁門の変と徳島藩．徳島県立博物館ニュース（情報ボックス),（114）：5.
●民俗
〈学術的著述〉（☆：査読付学術雑誌）
庄武憲子（2019. 3）旧西祖谷山村の「変則地神塔」．徳島地域文化研究,（17）：71－78.
磯本宏紀（2018. 5）他地域への出漁漁民による奉納絵馬．民具マンスリー，51（2）：1－7.
磯本宏紀（2018. 6）伊吹島と朝鮮海出漁．大韓民国国立民俗博物館編「韓日海洋民俗誌」大韓民国国立民俗博物館：52－83.
磯本宏紀（2018. 10）以西底曳網漁業における漁民の移住と定住化．地方史研究協議会編「地方史研究協議会第68回（徳島）大会成果論集　徳島の発展の歴史的基盤―「地力」と地域社会―」．雄山閣：271－297.
磯本宏紀（2018. 11）徳島県三好市及び東みよし町の博物館・資料館等所蔵の唐箕．民具集積,（20）：27－39.
磯本宏紀（2019. 3）三好市域の民具収蔵施設と収蔵民具．阿波学会紀要,（62）：107－111.
〈一般著述〉
庄武憲子（2018. 6）小松島市和田島漁祭りでのえびす舞．徳島県立博物館ニュース（歴史散歩),(111)：5.
庄武憲子（2019. 3）庚申塔にたくさんの石をかけてあるのを見ました．なぜですか？．徳島県立博物館ニュース（Q&A),114：8.
庄武憲子(2019. 3)新刊紹介　三好郷土史研究会編「三好の年中行事―にし阿波生活歳時記」．三好郷土史研究会．徳島地域文化研究,(17)：87－89.
磯本宏紀（2018. 10）書評　小林恒夫著「佐賀農漁業の近現代史」．村落社会研究ジャーナル,（49）：41－42.
磯本宏紀（2018. 10）徳島の阿波船と以西底曳き網漁業～盛衰の65年間～．能古博物館だより,（83）：2－3.
磯本宏紀（2018. 12）阿波晩茶の製造技術と晩茶の個性．徳島県立博物館ニュース(Culture Club),(113)：2－3.
磯本宏紀(2019. 3)新刊紹介　地方史研究協議会編「徳島発展の歴史的基盤―「地力」と地域社会」．徳島地域文化研究,(17)：90－92.
●美術工芸
〈学術的著述〉（☆：査読付学術雑誌）
☆大橋俊雄（2018. 3）元和・寛永期の藤重―東北大学附属図書館蔵『秋田家史料』を中心に―．漆工史,40：10－27.
大橋俊雄（2019. 3）飯塚桃葉と波涛蒔絵鞍の制作．徳島県立博物館研究報告,（29）：1－8.
〈一般著述〉
大橋俊雄（2018. 10）守住貫魚と「全国名勝絵巻」．福山市鞆の浦歴史民俗資料館編「絵図と歴史資料で観る江戸期の鞆の津」．福山市鞆の浦歴史民俗資料館：

43－47.

大橋俊雄（2018. 12）瀬戸内の風景をかいた絵巻があるそうですが？. 徳島県立博物館ニュース（Q＆A），（113）：7.

⑶ 学会・研究会等での発表

（＊印：館外研究者）

●動物

Yamada, K.（2018. 12）Anthocoridae（Hemiptera：Heteroptera）of Sichuan and Guangdong, China：Current state of knowledge and prospective for further research. Symposium on insect diversity in the Chino-Japanese region, Kyushu University（Fukuoka）.

佐藤陽一（2019. 3）勝浦川減水区間の魚類相と河川環境．第46回四国魚類研究会（上勝）.

●植物

小川　誠（2019. 3）三好市の植物．平成29・30年度三好市総合学術調査最終報告会（三好）.

●考古

岡本治代（2018. 8）土佐における古代瓦の文様系譜と製作技法．第27回　高知考古学研究会（高知）.

岡本治代（2018. 11）徳島地方史研究の現状と課題（考古）―1996年以降の動向の把握に向けて―. 徳島地方史研究会11月例会（徳島）.

岡本治代（2019. 2）四国地方の一本づくり・一枚づくり．第19回古代瓦研究会シンポジウム「8世紀の瓦づくりⅧ――一本づくり・一枚づくりの展開2―」（奈良）.

植地岳彦（2018. 6）小松島市現福寺所蔵の釈迦誕生仏の保存科学的調査. 徳島地方史研究会6月例会（徳島）.

●歴史

長谷川賢二（2018. 9）阿波と紀伊の文化的交流．中世都市研究会徳島大会「紀伊水道内海世界の港津と権力」（阿南）.

松永友和（2018. 7）徳島藩郡代からみる阿波の社会情況．鳴門史学会7月例会（鳴門）.

松永友和（2018. 11）大坂町奉行所与力・同心の四国出役関連資料について―阿波国古郷家文書から―．徳島地方史研究会11月例会（徳島）.

●民俗

庄武憲子（2018. 6）徳島県内漁港のえびす信仰．四国民俗学会（徳島）.

磯本宏紀（2018. 7）山口和雄の網漁業研究にみるアチック・ミューゼアム時代の水産史研究の位置づけ．国際常民文化研究機構第4回共同研究フォーラム「再考アチック・ミューゼアムの水産史研究―“ハーモニアス・デヴェロップメント”の実像―」（横浜）.

磯本宏紀（2018. 11）朝鮮海への日本人漁民の進出と漁業経営―香川県観音寺市伊吹島と広島県坂町横浜の出漁漁民の事例から―．日本民俗学会第901回談話会・国立歴史民俗博物館国際研究集会「海がつなぐ日本と韓国―朝鮮海出漁と韓国の民俗変化―」（東京）.

磯本宏紀（2018. 12）徳島県三好市及び東みよし町の博物館・資料館等所蔵の唐箕．四国民具研究会（多度津）.

Ⅳ　資料の収集・保存と活用

資料の収集と保存は、博物館にとって最も基本的な機能である。当館では開館以来、次の４つを基本方針として資料を収集している。

⑴徳島の自然と人文に関する資料のすべてを収集の対象とする。

⑵地域に根ざしたテーマを設定し、計画的かつ集中的な収集をする。

⑶徳島の概要あるいは特性を把握するため、世界を対象とした比較資料の収集をめざす。

⑷一次資料のみならず、すべての二次資料をも収集の対象とする。

資料の収集手段としては、採集・購入・寄贈・交換など様々な方法で行っている。学芸員自らが積極的に収集しているほか、最近では、県民や官公庁からの資料の寄贈も増えてきている。

収集した資料は、調査研究、展示、普及教育活動、他の博物館や研究者への貸し出しなどを通じて有効に活用している。

平成30年度は３人（人文１、自然２）の文化推進員の補助を得て、資料の整理作業を進めた。

１．採集資料

●動物（脊椎動物）

桑野川水系南川産魚類	一式
園瀬川産魚類	一式
桑野川水系岡川産魚類	一式
松茂町長原海岸産魚類	一式
桑野川水系南川産魚類	一式
竜宮の磯産魚類	一式

●動物（昆虫）

徳島県産半翅類	多数
南西諸島産水生・半水生半翅類多数	

●植物

県内各地の標本	多数

●地学

大野城山の三滝火成岩類	多数
徳島県勝浦町産の脊椎動物化石（恐竜化石を含む）	47点

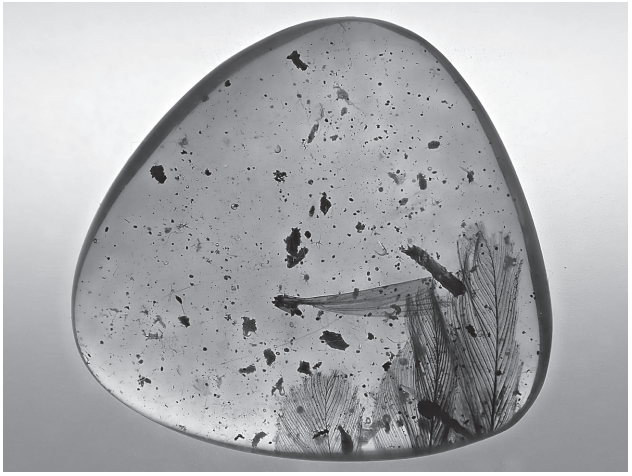
２．購入資料

●地学

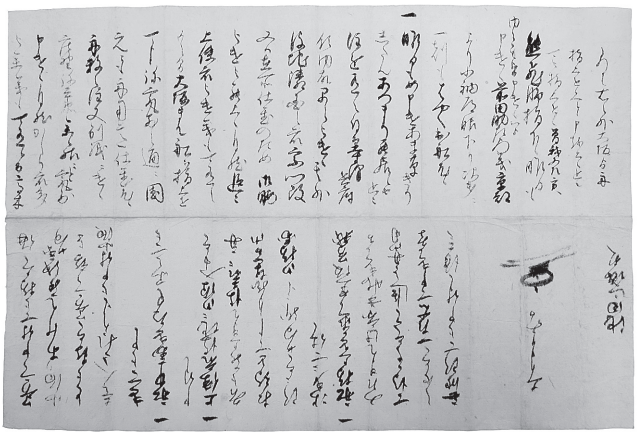
ミャンマー産白亜紀琥珀	３点
ダスプレトサウルスの爪	１点
カルカロドントサウルスの歯	１点

●歴史

蜂須賀忠英書状ほか	３点
購入資料合計	８点



購入資料：ミャンマー産白亜紀琥珀（恐竜〔鳥類含む〕の羽毛を含んだ琥珀）



購入資料：蜂須賀忠英書状

３．寄贈資料

●動物（脊椎動物）

平成28年度河川水辺の国勢調査（吉野川水系：ダ

ム湖）　魚類標本　一式
水資源機構池田総合管理署
カルガモ　1点
文化の森保安センター
狩猟 PR 動画 DVD　1点
徳島県消費者くらし政策課
ツバメ　1点
文化の森メンテナンス
日本産有尾類総説　1点　波戸岡清峰氏
ナガレホトケドジョウ（パラタイプ）
1点　井藤大樹氏
テン　1点　遠藤憲佑氏
イドミミズハゼ類標本　1点　田原大輔氏
ホネホネ動物ふしぎ大図鑑　1点　ハユマ
トノサマガエル（青変個体）1点　中筋ナツコ氏
メガネカイマン剥製　1点　井上直樹氏
トラツグミ　1点　東條秀徳氏
メボソムシクイ　1点　岡崎和子氏
ハイタカ　1点　小川明日子氏
カンムリウミスズメ　1点　武石全慈氏
肱川水系産魚類標本　137点　辻　幸一氏
キジ、ムササビ剥製　2点　大津西小学校

●動物（無脊椎動物）
トビズムカデ　1点　上村友久氏
ヤマトシジミ・ドブガイ　11点　浜　健次氏

●動物（昆虫）
シモフリクチブトカメムシほか
2点　大原賢二氏
日本産カメムシ類標本　114点　黒田祐次氏
徳島県産蛾類標本　203点　樋口博美氏
無尾型クロアゲハ写真　1点　樋口博美氏
ヤママユガ類の繭　6点　行成正昭氏
徳島県産蛾類標本　207点　樋口博美氏
ウスバカゲロウ類　3点　玉川晋二郎氏
アトジロサシガメ　1点　松本吏樹郎氏
徳島県産蛾類標本　209点　樋口博美氏

●植物
東南アジア産さく葉標本　22点　田金秀一郎氏
香川県産さく葉標本　69点　久米　修氏
沖縄県産さく葉標本　33点　佐藤広行氏
香川県産さく葉標本　2点　佐藤　明氏

●地学
キースラガー　1点　阿部　肇氏
北海道・蝦夷層群産の化石など
6点　平島　昭氏
北海道・蝦夷層群産のアンモナイトなど
5点　平島　昭氏
蝦夷層群産のイチョウの葉化石・瀬棚層産寒流系貝化石　3点　平島　昭氏
北海道の化石など　2点　平島　昭氏
宇治田原（綴喜層群）産の貝化石
1点　田上浩久氏
二酸化マンガン鉱　1点　阿部　肇氏
ナウマンゾウ脛骨　1点　八木忠弘氏
黄鉄鉱ほか　6点　阿部　肇氏
北海道産新生代クモヒトデ化石
1点　平島　昭氏
ドイツ産イチョウ化石など　2点　日本学術振興会
北海道産の白亜紀アンモナイト化石など
7点　平島　昭氏
徳島県内外産鉱物標本　10点　阿部　肇氏

●歴史
牟岐海部間鉄道開通記念品　1点　豊岡正昭氏
映画ポスター　13点　藤本一二三氏
棟札（東山神西若王寺棟札ほか）
47点　住友秀丞氏
阿波国徴古雑抄　1点　西野武明氏
火縄銃　1点　金谷精一氏

●民俗
昭和 62 ～ 63 年　徳島県民謡緊急調査音源　CD
43点　川村由子氏
徳島県民俗芸能緊急調査関係資料
29点　徳島県教育委員会教育文化課
湯たんぽ　1点　木内英明氏
団扇ほか　124点　住友正己氏
松波家生活関連資料　186点　松波啓子氏

4．寄託資料

平成 29 年度末現在で寄託されている資料は 69 件あり、30 年度に新たに寄託された資料は、次の通りである。

●歴史
大般若経ほか　593点
地福寺　宮内督公氏
藍方万控帳ほか　90点　西野武明氏
伊勢みやけといふ（旅日記）ほか
2点　時本豊章氏
小松島中田絵図ほか　3点　西野武明氏

●美術工芸
刀　銘村正ほか　2点　川端正義氏
涅槃図　1点
自性寺ほか 7 ヶ寺

5．資料の貸し出し

実物やレプリカ、模型など資料の貸し出しは次の通りである。なお、学校への資料の貸し出しは「学校教育支援事業」に記載した（詳細は p.22 参照）。

●動物

哺乳類・鳥類剥製　13 点
徳島県立あすたむらんど　子ども科学館

カブトムシ・ミヤマクワガタ拡大模型
2 点　富山市科学館

ムシヒキアブ科など双翅類標本
57 点　黒田啓太氏（愛媛大学）

アリバチ科標本　11 点
岡安樹璃也氏（愛媛大学）

●地学

イグアノドン類の歯などの恐竜化石
26 点　愛媛県総合科学博物館

穴内層産イモガイ化石　13 点
加瀬友喜氏（神奈川大学）

北海道産アンモナイト　1 点
多家良中央公民館

勝浦町産のカメの甲羅化石　2 点
勝浦町教育委員会

那賀川上流の三畳紀・ジュラ紀の化石
24 点　川口ダム自然エネルギーミュージアム

●考古

古屋岩陰遺跡出土資料ほか　11 点
（公財）徳島県埋蔵文化財センター

黒曜石剥片　3 点
徳島市立考古資料館

廿枝遺跡出土資料ほか　28 点
牟岐町教育委員会

前山 1 号墳出土土器　4 点
高松市歴史資料館

芝生千把ヶ嶽山上より出土した勾玉類
一式　小松島市教育委員会

●歴史

徳島大空襲関係遺物　2 点　徳島県立文書館

徳島大空襲関係遺物　2 点　徳島県立文書館

戦争関係資料　19 点
一般財団法人徳島県遺族会

海部郡宍喰浦　同郡伊座利浦マデ略絵図分間
1 点　（公財）徳島県埋蔵文化財センター

延喜式巻 7 ほか　3 点
牟岐町教育委員会

●民俗

昭和 45、46 年度民謡調査記録オープンリール
6mmNo.32CD ほか　5 点
徳島県教育委員会教育文化課

人形芝居頭娘（八重垣姫）ほか
4 点　長野市立博物館

日本山海名産絵図巻 3 ほか　5 点
牟岐町教育委員会

●美術工芸

守住貫魚筆　全国名勝絵巻　1 点
福山市鞆の浦歴史民俗資料館

6．写真・映像の提供

フィルムなど媒体の貸し出し及びデジタルデータの提供は、次の通りである。

●動物

クビアカツヤカミキリ関連写真
3 点　丸山直生氏

テグスサン成虫写真　1 点
株式会社メディア・ヘッド

徳島県立博物館開設準備調査報告書 4（PDF）
1 点　株式会社　地域開発コンサルタンツ

●地学

ナウマンゾウ全身骨格レプリカ写真
1 点　有限会社リビング鳴門広報社

アンモナイト・パラプゾシア写真
1 点　株式会社ネクサス

アンモナイト・パラプゾシア写真
1 点　株式会社オクタゴン

リツイテス（オルドビス紀のオウムガイ）写真
1 点　株式会社洋泉社

アンモナイト・パラプゾシア写真
1 点　多摩六都科学館

リチア電気石など写真　3 点
株式会社ステップ・クリエイティブ

メガテリウム、プラビトセラス写真
2 点　ブックマン社

ハチノスサンゴ、六方サンゴ写真
2 点　有限会社ハユマ

アンモナイト・パラプゾシア写真
1 点　NHK 放送センター

黒雲母などの写真　5 点　株式会社童夢

勝浦町産のイグアノドン類の歯化石
1 点　福井県立恐竜博物館

●考古

前山 1 号墳発掘調査時写真　8 点
高松市歴史資料館

若杉山遺跡出土石杵・石臼等　写真
2点　吉田敏明氏
恵解山2号墳石棺写真等　2点　桑井正敏氏
空からみた若杉谷の写真　1点　高島芳弘氏
若杉山遺跡出土　石臼・石杵　写真ほか
2点　株式会社メディアクラフト

●歴史
徳島空襲後の市街地の写真　1点
岡山シティミュージアム
細川成之画像模写図写真　1点
藍住町教育委員会
旧山西邸板戸写真　1点
地方史研究協議会
四国遍礼道指南増補大成写真
1点　（株）放送映画製作所
十返舎一九「諸国道中金草鞋（四国）」写真
1点　和泉市教育委員会
錦の御旗ほか写真　3点
脇町稲田会会長　篠原輝雄氏
阿波国渭津城之図写真　1点
株式会社プロペラ
細川成之自筆詠草（詠授記品和歌）写真
1点　（株）清水書院

●民俗
人形座町廻り図写真　1点　原田弘也氏
山村の食膳（日常の食膳）模型写真
1点　（株）アーテファクトリー
木綿地藍折り花絞り肌着ほか写真
2点　（株）童夢

●美術工芸
光格上皇修学院御幸儀仗図巻写真
1点　株式会社ミネルヴァ書房
箏　銘九江写真　1点　猪井恵美子氏
阿波盆踊図屏風写真　1点
株式会社アマゾンラテルナ
渡辺広輝　筆源氏物語若紫図写真
1点　秀明大学出版会
光格上皇修学院御幸儀仗図巻写真
1点　聖護院門跡
光格上皇修学院御幸儀仗図巻写真
1点　所　功氏
守住貫魚筆　阿波国勝浦郡田之浦村出古甲図写真
1点　小松島市教育委員会
俗人物ほか写真　1点　辻本一英氏

7．資料の提供

30年度は、提供資料はなかった。

8．資料の交換

研究や展示、普及など様々な活動に活用するため、国内外の標本館と標本交換を行っている。標本交換とは、徳島県内などで採集した標本を、他の地域の大学・博物館などとの間で交換することである。

植物標本について、現在、東北大学、北海道大学、福島大学など国内の研究機関の他、オレゴン州立大学及びソウル大学と定期的な標本交換を行っている。なお、平成30年10月1日以降、植物（野菜、果実、精米等）を日本に持ち込むためには、輸出国政府の植物防疫機関の検査を受け、合格となった植物に発行される検査証明書（Phytosanitary certificate）を貼付することが義務付けられ、国内各機関において、国際間の標本の送受信に支障が出ている。当館での交換に際しては、適切な標本の送受信を行い、滞りない標本の交換収集に努めている。

●送付した資料
さく葉標本　73点　北海道大学（SAPS）
さく葉標本　53点　福島大学（FKSE）
さく葉標本　52点　福井県立総合植物園（FUK）
さく葉標本　135点　東北大学（TUS）
さく葉標本　43点　ソウル大学（SNUA）
さく葉標本　182点　オレゴン州立大学（OSC）

9．館蔵資料数

平成31年3月31日現在の分野別収蔵資料数は、p.38の表の通りである。

収蔵資料については、整理、標本作製等が終わったものから順次コンピュータ入力し、資料データベースに登録している。

10．資料収集委員会

本委員会は、博物館が収蔵する資料の適正な購入を図るため、購入予定資料（予定価格100万円以上）について審査する目的で設置されている。委員は、対象となる資料に応じてその都度5名以内を教育長が委嘱する。

30年度は、委員会を開催していない。

●分野別収蔵資料数（平成 31 年 3 月 31 日現在）

分　　野	点　　数	内　　訳			
		実　　物	レプリカ	模型・模写	文　　献
脊　　椎	25,272	25,198	55	13	6
無 脊 椎	39,304	39,238	0	58	8
昆　　虫	209,961	208,628	0	7	1,326
植　　物	195,727	195,375	62	8	282
地　　学	10,132	9,999	131	2	0
考　　古	8,418	8,267	73	19	59
歴　　史	13,169	12,381	26	4	758
民　　俗	18,883	18,873	5	5	0
美術工芸	9,860	9,851	0	4	5
合　　計	530,726	527,810	352	120	2,444

11. 文献資料の収集

文献資料から得られる情報は、調査研究はもちろん、展示や普及教育などの博物館活動全般にわたるレベルアップをはかる上で不可欠である。当館では、人文・自然史分野の専門書や学会誌の他、徳島県を中心とした地方史誌類や普及教育用図書も収集している。また、内外の博物館等の研究報告・年報・展示解説書等も交換により収集している。なお、27 年度からは、予算の一部は図書館に計上されている。

●図書冊数（データベース登録数による）

14,162 冊（うち平成 30 年度分　寄贈図書 27 冊、購入図書 80 冊）

●購入雑誌

自然史系（8 タイトル）：生物科学、科学、海洋と生物、月刊海洋、遺伝、月刊むし、昆虫と自然、地学雑誌

人文系（22 タイトル）：美術研究、美術史、地方史研究、地理、芸能史研究、月刊考古学ジャーナル、月刊文化財、月刊文化財発掘出土情報、季刊考古学、古代文化、国華、古文書研究、考古学研究、考古学雑誌、文化人類学、日本歴史、歴史学研究、歴史評論、史林、史学雑誌、民具研究、人文地理

博物館学（2 タイトル）：博物館研究、ミュゼ

●当館刊行物の定期発送先（平成 31 年 3 月末現在）

博物館ニュース	1,166 ヶ所
博物館年報	322 ヶ所
研究報告（国内）	438 ヶ所
（国外）	41 ヶ所
展示解説	90 ヶ所
企画展図録（自然）	166 ヶ所
（人文）	244 ヶ所

12. 資料の保存

(1) 資料の燻蒸

害虫やカビは、資料を劣化させる原因となる。そこで、収集した資料や貸し出し後返却された資料は、収蔵庫への搬入や展示に先だって、原則としてすべて燻蒸を行う必要がある。当館では、資料の形態や量などによって、次の①～③の 3 種類の燻蒸を行ってきた。

①減圧燻蒸装置による燻蒸

小型資料の燻蒸は、資料の受け入れの都度、減圧燻蒸装置を使って行う。減圧燻蒸装置の有効内寸は、縦 130cm × 横 120cm × 奥行 140cm（約 2.3 ㎥）である。平成 17 年 1 月からは酸化エチレン製剤を使用することとしている。30 年度は行わなかった。

②常圧燻蒸庫での燻蒸

まとまった量や大型の資料は、一時保管庫（24 時間温湿度管理）に仮収蔵し、資料が適当な量になった時点で常圧燻蒸庫において燻蒸を行う。

常圧燻蒸庫は床面積 20 ㎡ × 高さ 3 m（約 60 ㎥）

収蔵庫燻蒸作業

であり、燻蒸は文化財専門の燻蒸業者に委託している。17年1月からは酸化エチレン製剤を使用している。

30年度は、常圧燻蒸庫での燻蒸を2回行った。

③収蔵庫の全室密閉燻蒸

収蔵庫への出入りなどにともなって、害虫やカビなど資料の保存に悪影響を与えるものが侵入することがある。そのため、原則として3年に1回、専門業者に委託して収蔵庫の全室密閉燻蒸を行っている。30年度は、9月16日から22日まで歴史民俗収蔵庫・生物収蔵庫で燻蒸を行った。

(2) 常設展示室における資料保存環境の管理

常設展示室は、収蔵庫のような密閉可能な空間ではないため、害虫の侵入を防ぐことができず、展示室全体の燻蒸が不可能である。また、室内の空調は温度設定のみ可能であり、湿度のコントロールができない。さらに、近年は省エネルギー化のため、空調運転時間が減少していることから、室温上昇による資料への影響が懸念される。

このような環境の中で、資料の虫菌害を防ぐとともに、資料保存に適した温湿度を維持するため、外気温が上昇する夏期などは、設備調整の他、照明を調整するなどして適宜温湿度の管理を行っている。また、第3期中期活動目標（26～30年度）では、常設展示室の定期点検を行うことを目標として定めており、26～27年度に、文化財害虫のモニタリング、温湿度の計測を中心とした点検項目を検討した。28年度からは、学芸員の輪番制で月に1回程度点検を実施している。また、30年度は、展示室内の気温上昇の一因と推定される外光の差し込みを防ぐため、休憩コーナーの天窓に寒冷紗を設置し、温湿度の変化を計測した。その結果、気温の上昇を抑制する効果が一定程度認められた。さらに、企画展示室において、資料汚損の原因となるアンモニア及び有機酸の発生状況を確認するため、パッシブインジケーターによる空気環境調査を行った。

(3) 収蔵庫における資料保存環境の管理

収蔵庫を日常的に点検することは、燻蒸とともに資料の安全な保存管理のひとつである。それにより、害虫の発生や侵入を事前に防いだり、早期に発見できるだけでなく、収蔵スペースの確保、耐震対策にもつながり、収蔵庫の適正な管理が可能となる。当館では、25年度より学芸員の輪番制で月に1回程度、収蔵庫定期点検表に基づく各収蔵庫の点検を行っており、30年度も継続して実施した。また、30年度は、生物収蔵庫・歴史民俗収蔵庫・特別収蔵庫で、パッシブインジケーター及びガス検知管による空気環境のモニタリングを行った。さらに、生物収蔵庫･歴史民俗収蔵庫･特別収蔵庫・地学収蔵庫・考古収蔵庫において、真菌の数量を確認するために環境調査を実施した。その結果、適正な環境が維持されていることが確認できた。

(4) 資料保存に関する設備・機器の管理

開館から25年以上が経過し、資料保存に関する設備・機器についても老朽化が進んでいる。燻蒸庫及び燻蒸設備の不備は十分な燻蒸効果を妨げるうえ、重大な事故や環境汚染につながりかねない。そのため、定期的なメンテナンスを行い、常に万全の状態を保ちながら運用する必要がある。

30年度は、常圧燻蒸庫の活性炭交換を実施した。また、日常的な温湿度の点検に使用しているデジタル温湿度計の湿度を、アスマン式通風乾湿計を用いて校正した。

常設展示室における保存環境改善を目的とした寒冷紗の設置作業

歴史民俗収蔵庫での空気環境調査

V　情報の発信と公開

博物館を有効に活用する利用者が増えるよう、活動に関する様々な情報を発信していくことは、博物館にとって非常に重要な活動である。近年は、インターネットによる情報発信が重要な手段になっている。

博物館の事業の広報に留まらず、様々なメディアを通じて積極的に情報を発信するよう努めている。

1．博物館の広報活動

博物館ニュース、企画展ポスター、年間催し物案内、月間催し物案内等の定期的発行と配布、県庁だよりへの掲載、県庁記者クラブを通じての資料提供、催し物案内の電子メールサービス等により、博物館事業の広報活動を行っている。

●博物館ニュース、ポスター等の主な定期発送先

小学校	169ヶ所
中学校	85
高等学校・支援学校・その他学校	62
学会・研究所・同好会等	59
県及び県教育委員会各課・機関	53
市町村教育委員会	24
公民館・隣保館	212
市町村及び大学図書館	34
博物館施設等	316
宿泊施設等	38
報道関係機関等	66

●催し物案内の電子メールサービス

登録者374名　（平成31年3月末現在）

●報道機関への資料提供

平成30年度は、次のような資料提供を行った（※ 月間催し物案内を除く）。

4月11日　企画展「阿波漁民ものがたり―海を渡り歩いた漁師たちの5つの話」の開催について

4月25日　県民とともに新常設展を考えるワークショップの開催について

4月27日　トピックコーナー「新着資料紹介2018」の開催について

5月2日　部門展示「新生代の化石」の開催について

5月24日　「博物館で一緒に活動しませんか」平成30年度博物館ボランティアスタッフの募集について

7月3日　企画展「ジャングルいきもの図鑑」の開催について

7月24日　部門展示「小川昌彦氏の蝶コレクション～世界の蝶・日本の蝶　こんなのいまっせ！～」の開催について

8月9日　徳島県勝浦町における「国内最古級の恐竜化石含有層（ボーン・ベッド）」と「新たな恐竜化石等」の発見について（記者発表）

9月12日　特別陳列「県指定有形文化財　青蓮院十一面観音菩薩立像」の開催について

10月5日　特別陳列「ごっついで那賀川―博物館資料で見る那賀川流域の自然とくらし―」の開催について

11月2日　第1回「勝浦町恐竜発掘活性化協議会」の開催について

11月20日　部門展示「徳島市恵解山古墳群の発掘と遺跡保存」の開催について

1月16日　部門展示「写真家岩朝哲男氏が撮った鳴門の風景―塩田があった頃―」の開催について

1月25日　徳島県立博物館ボランティアスタッフ（Vキング）によるボランティア活動について

3月1日　トピックコーナー「タンポポ調査と西日本で初めて見つかったタンポポのゴールについて」の開催について

3月4日　第2回「勝浦町恐竜発掘活性化協議会」の開催について（研究発表含む）

2．テレビ・ラジオへの出演等

出演等を、月日・出演者・内容の順に記す。

5月1日　磯本宏紀　四国放送「フォーカス徳島」（企画展「阿波漁民ものがたり」について）

5月4日　辻野泰之　四国放送「旬感あわだより」

（徳島県立博物館について）
5 月 28 日　磯本宏紀　NHK 徳島放送局「とくしまニュース」（企画展「阿波漁民ものがたり」について）
8 月 9 日　辻野泰之　NHK 徳島放送局「とく 6 徳島」（勝浦町で発見された恐竜の化石について）
9 月 8 日　辻野泰之　四国放送ラジオ「土曜ワイドとくしま」（勝浦町で発見された恐竜の化石や、博物館に展示されている恐竜骨格などについて）
9 月 21 日　辻野泰之　NHK 徳島放送局「おひるのクローバー」（勝浦町で発見された恐竜の化石や、博物館に展示されている恐竜骨格などについて）
9 月 21 日　大橋俊雄　NHK 徳島放送局「とくしまニュース」（特別陳列「県指定文化財　青蓮院十一面観音菩薩立像」について）
9 月 26 日　辻野泰之　ケーブルテレビトクシマ「ラブ！ラブ！徳島」（勝浦町で発見された恐竜の化石について）
9 月 26 日　辻野泰之　NHK 徳島放送局「とく 6 徳島」（おでかけ情報）（勝浦町で発見された恐竜の化石や、博物館に展示されている恐竜骨格などについて）
10 月 16 日　小川誠　ケーブルテレビあなん（部門展示「写真家岩朝哲男氏が撮った鳴門の風景」について）
10 月 17 日　小川誠　エフエムびざん「ドレミファ曽谷」（特別陳列　「ごっついで那賀川―博物館資料で見る那賀川流域の自然とくらし―」について）
10 月 19 日　小川誠　NHK 徳島放送局「とくしまニュース」（特別陳列　「ごっついで那賀川―博物館資料で見る那賀川流域の自然とくらし―」について）
10 月 19 日　辻野泰之　ケーブルテレビトクシマ「たまたま金曜日」（勝浦町で発見された恐竜の化石について）
11 月 27 日　岡本治代　NHK 徳島放送局「とくしまニュース」（部門展示「恵解山古墳群の発掘と遺跡保存」について）
12 月 11 日　長谷川賢二　四国放送「フォーカス徳島」（三木家文書における大嘗祭関係史料について）
2 月 20 日　磯本宏紀　NHK 徳島放送局「とくしまニュース」（部門展示「写真家岩朝哲男氏が撮った鳴門の風景」について）
2 月 24・25 日　磯本宏紀　エーアイテレビ「テレビミュージアム」（部門展示「写真家岩朝哲男氏が撮った鳴門の風景」について）
3 月 13 日　辻野泰之　四国放送「フォーカス徳島」（緊急発掘調査で採集された獣脚類恐竜の脛骨化石などについて）

3．インターネットによる情報提供

(1) 電子メール

博物館の月間催し物案内を、事前に登録申請をした希望者に電子メール（以下メールと記す）で送っている（平成 31 年 3 月末現在の登録者 374 名）。

また、ホームページ等を見た人からの質問もメールで寄せられており、各担当より回答を行っている。

(2) ホームページ

①概要

インターネット利用者の増加に伴い、博物館でその技術を活用した情報提供の可能性を探ってきた。11 年 7 月よりホームページ http://www.museum.comet.go.jp/ を開設した。18 年 3 月からは、ネットワーク回線が徳島県教育情報ネットワークに移管されたため、ホームページは http://www.museum.tokushima-ec.ed.jp/ に変更された。26 年 8 月には、ホームページの全面的なリニューアルを行い、トップページのメニューボタンの設置など、閲覧者が利用しやすいよう工夫している。

ホームページの内容は下記の通りである。

・博物館の紹介（開館日・交通案内など）
・展示案内（企画展、特別陳列、部門展示、常設展示）
・催し物、普及行事の案内
・調査研究活動の紹介
・収集保存活動（データベース）
・学校等への利用案内
・出版物（展示解説、研究報告、博物館ニュース等の案内）
・関連活動紹介（友の会、博物館協議会など）
・学芸員関連のページ
・特別メニュー（子ども向けメニュー、映像コーナー等）

ホームページには内容の全文検索やサイトマップを設置し、閲覧者が目的の内容にたどり着きやすくして

いる。

資料データベースでは、人文、動物、植物、地学分野ごとに収蔵資料を検索できるシステムを構築している。資料の詳細情報や動植物の分布図等を公開している。また、当館に収蔵している図書についても、図書データベースを公開している。情報提供する項目のテキストデータ及び画像情報を専用フォルダーに入れておけば、自動的に情報提供用のデータベースに取り込まれる仕組みになっている。

ホームページの更新や追加は、月間催し物案内などは定期的に行っている。それ以外にも、展示担当者、イベントボランティア担当者など、各担当者が随時行っている。30年度の主な追加事項は下記の通りである。

●月別のホームページへの総アクセス数と訪問者数

年　　月	訪問者数	アクセス数
2018年 4 月	33,989	764,228
2018年 5 月	41,679	973,896
2018年 6 月	40,337	1,021,814
2018年 7 月	44,106	1,151,375
2018年 8 月	48,071	1,322,324
2018年 9 月	34,436	887,038
2018年10月	40,553	888,682
2018年11月	35,234	793,222
2018年12月	25,369	633,274
2019年 1 月	27,708	744,091
2019年 2 月	26,785	690,073
2019年 3 月	28,002	775,833
合　　計	426,269	10,645,850

・30年度博物館ボランティアの活動内容について
・みどりのサポート隊の活動
・各種催し物、企画展等の案内

②アクセスについて

30年度1年間で、ホームページへの総アクセス数が、約1064万件あった。ホームページへの総訪問者数は約42万人であった。

⑶ Facebook（フェイスブック）ページの運用

インターネットメディアの多様化とソーシャルネットワークサービス（以下SNS）の普及にともない、博物館をはじめとする社会教育機関においてもSNS等を活用した情報発信、情報交流が進められている。当館では、公式Facebookページを新設し、28年3月18日より運用を開始した。

Facebook ページでは、博物館の催し物や活動等の情報を発信している。30年度は、54件の記事を新たに掲載した。内容は、企画展の準備や注目される展示資料の紹介、部門展示やトピックコーナーの紹介、クイズラリーの開催など、博物館の日常の活動を即時的に伝えている。30年度に発見された恐竜化石に関する情報発信など、ホームページではみられなかった即時性が特徴となり、情報提供のツールの一つとして活発に利用されている。

4．外部ネットワークとの連携

当館では、文部省の補助事業の一つとして、平成12年度及び13年度に環瀬戸内自然史系博物館ネットワーク推進事業に参加し、博物館の横断検索やいきものマップなどの外部とのネットワーク連携事業を行ってきた。

さらに、18年度からは、国立科学博物館が行っている自然系博物館における収蔵品データ整備事業に参加し、さらなる連携を深めている。事業の内容は、全国の科学系博物館のホームページの内容を横断検索するものである。サイエンスミュージアムネット（http://science-net.kahaku.go.jp/）を使うことによって、160館以上のホームページを一度に検索することができる。収蔵品データの検索も準備されており、26年度は、当館から徳島県産維管束植物及び昆虫類のデータを整備し提供した。日本語の検索及びGBIF（Global Biodiversity Information Facility: 地球規模生物多様性情報機構）のデータとしても横断検索できるようになった。

5．情報システムの概要

29年度に第6期文化の森システム更新が行われた。基本的には第5期システムのパソコン等ハード、ソフトの置き換えである。

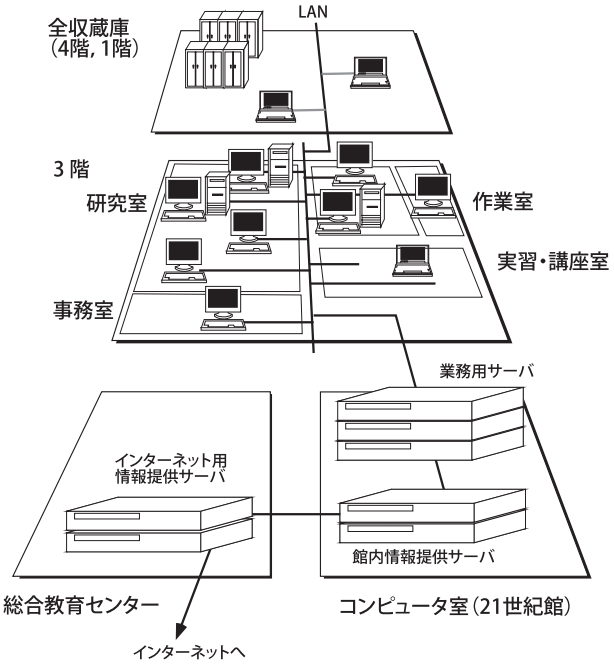
博物館のコンピュータシステムは、職員が日常的に使う業務用、来館者や館外者が利用する情報提供用の2つに大別できる。次のような構成でシステムの運用にあたっている。

①業務用システム

業務用システムでは、コンピュータ室・研究室・作業室・収蔵庫・事務室等をイーサーネット（1000BaseT）のLANでつないである。ファイルサーバ（Windowsサーバ）とデータベースサーバ（File Maker Server 16 Advanced）の2台のサーバを設置してある。サーバのデータは、二十一世紀館に常駐するSE（システムエンジニア）によって毎日バックアップがとられている。職員1人に1台の端末を配置し、データベースやファイルを共有している。これらの端末は、作業の内容に応じた仕様となっており、たとえば収蔵庫では常設の端末ではなく、ノート型パソコンを活用している。

②情報提供用システム

情報提供用としては、Linuxサーバを用いて、WWWサーバと資料データベースを構築している。柔軟なデータベース公開ができるように、MySQLサーバによるWebデータベースを構築し、博物館資料データベース、図書データベース及び新聞記事データベースを、WWWサーバと連携させて公開している。インターネットの回線が徳島県立総合教育センターに集約されているため、これらの情報提供用サーバを2組用意し、館内用は文化の森のコンピュータ室に、外部（インターネット）用は総合教育センターに設置し、館内用サーバから自動的にデータが更新される仕組みを構築している。



徳島県立博物館の情報システムの構成

Ⅵ　県民協働・参画

博物館は、主として県民をサービスの対象として各種の事業を展開している。より県民に親しまれる博物館となっていくためには、利用者が主体的に関わって博物館と協働したり、博物館の事業に参画したりする機会をもつことが重要である。博物館が地域にしっかりと根を下ろすとともに、社会教育･生涯学習の振興、ひいては地域の活性化につながっていくよう、なお一層の県民協働・参画を推進したいと考える。

1．博物館友の会

博物館友の会は、博物館活動を通じて広く自然や歴史・文化に親しむとともに、会員相互の教養の向上と親睦を図ることを目的として組織されたものである。幅広い年齢層の会員が集い、博物館活動への参加・支援を行い、さらには友の会独自の行事も行っている。事務局は当館内に置いている。

■会員（平成 30 年度末）

個人会員（年会費　2,000 円）　51 人
（半年会費　1,000 円）　3 人
家族会員（年会費　3,000 円）　40 組　149 人
（半年会費　1,500 円）　3 組　14 人

■役員（平成 30 年度）

会　長：行成正昭
副会長：大杉洋子、徳野壽治、遠藤佳孝（博物館長）
幹　事：森　敏博、幸坂敏行、結城孝典、本田壮一、坂井なつ
監　査：石尾和仁、中村由香
顧　問：鳥居　喬

■事業

●博物館出版物の増刷・頒布

30 年度博物館企画展の図録等（「阿波漁民ものがたり」､「鳥居龍蔵と小金井良精」）の増刷･頒布を行った。

●広報活動

新規会員の獲得をめざし、勧誘ポスターの掲示や会員募集案内チラシの配布を行った。また、博物館掲示板や展示ケース、博物館ホームページを活用して、会員募集や活動報告等の情報発信に務めた。

催し物案内、博物館ニュース、企画展チラシ等を活用した会員募集や情報発信に努めた。また、友の会会報「アワーミュージアム」No.62･63 を発行し、会員に配布した。

① No.62（2018 年 7 月 30 日発行）
私の自然観察ノート「花外蜜腺をよく訪れるアリ」
「賢者は歴史を学ぶ」～友の会の幹事に就任して～
友の会行事報告　大阪日帰りバスツアー
友の会行事報告　ナイト・ミュージアム ツアー
友の会行事報告　化石を探そう
報告　平成 30 年度総会
新スタッフ紹介

② No.63（2019 年 1 月 31 日発行）
潜伏キリシタンと地蔵尊
友の会行事報告　兵庫日帰りバスツアー
友の会行事報告　ライトトラップで昆虫観察
友の会行事報告　拓本をとろう！
友の会行事報告　遺跡・古墳見学（徳島市国府町）
ご案内
鳥居龍蔵記念博物館から企画展のお知らせ

●野外活動等

会員を対象とした行事を 6 回実施した。

①化石を探そう　5 月 27 日（日）
場所：兵庫県南あわじ市　22 人
②兵庫日帰りバスツアー　6 月 16 日（土）
場所：兵庫県神戸市ほか　31 人
③ライトトラップで昆虫観察　7 月 21 日（土）
場所：佐那河内村 大川原高原　13 人

兵庫日帰りバスツアー

ライトトラップで昆虫観察

④拓本をとろう！　10月27日（土）
　場所：県立博物館 実習室　14人
⑤遺跡・古墳見学（国府町）　11月10日（土）
　場所：徳島市国府町　8人
⑥淡路日帰りバスツアー　3月10日（日）
　場所：兵庫県洲本市　31人

2．博物館公募ボランティア

平成17年度から行っている公募ボランティアと職員が共同で企画･実施するイベント（博物館Ｖキング）を30年度も継続し、ボランティア47名のメンバーが中心となって1年間の活動を行った。

活動の内容は次の通りである。

①こどもの日フェスティバル　5月5日（土・祝）

博物館が実施した「魚釣りゲーム」、「昔の遊びいろいろ」といったイベントで、来館者に遊び方を教えるといった行事運営の支援を行った。また、企画展示室において、企画展「阿波漁民ものがたり」の来場者アンケートについて、支援を行った。

参加者：1,397人

ボランティアスタッフ：12人

②科学体験フェスティバルin徳島への出展

徳島大学で開催された第22回科学体験フェスティバルin徳島（8月4日（土）～5日（日））に、「ブラックライトで光る!? 博物館資料のレプリカを作ろう!!」を出展した。おゆまる（熱するとやわらかくなる樹脂）でアンモナイトや寛永通宝のレプリカをつくってもらい、できた作品にブラックライトを照らして発光する様子を観察してもらった。

なお、このイベントでの出展は、博物館資料や博物館活動の紹介を目的としたものである。

参加者：1,522人（4日584人、5日938人）

ボランティアスタッフ：延べ30人
（4日16人、5日14人）

③サマーフェスティバル　8月19日（日）

博物館が実施した「恐竜の骨格模型の組み立て」「大昔の道具を触ってみよう」といったイベントで、来館者に資料の扱い方や遊び方をサポートするといった行事支援を行った。

参加者：1,432人

ボランティアスタッフ：16人

④あすたむらんど徳島「おもしろ博士の実験室」

あすたむらんど徳島で開催された「おもしろ博士の実験室」（11月4日（日））に、「恐竜の骨格模型の組み立て」を出展した。また、自然や身の回りにある身近な「もの」にブラックライトを照射する体験もおこなった。博物館資料の紹介や、他の団体がどのような活動をしているのかを理解する良い機会にもなった。

参加者：765人

ボランティアスタッフ：4人

⑤博物館Ｖキング　2月11日（月・祝）

文化の森ウィンターフェスティバルにおける当館のイベントとして、「博物館Ｖキング～ボランティアスタッフが贈る新企画～」を実施した。

この企画は、ボランティアスタッフを中心に企画し、約半年間をかけて当館職員と協働で準備したものである。準備の過程で、博物館資料を楽しく理解してもらうための体験キットや手法を開発した。「博物館Ｖキング」では、次の4つのブースを出展した。「博物館で楽しいハンドクラフト」、「紙細工であそぼう」、「かげ絵　新・勝浜座2月公演～第一部『田野の久兵衛さん』、第二部『えびす舞』～」、「パズル5」

参加者：1,238人

ボランティアスタッフ：29人

博物館Ｖキング
「かげ絵　新・勝浜座2月公演
～第一部『田野の久兵衛さん』、第二部『えびす舞』～」

3．各種事業での県民協働・参画活動の推進

●調査研究

①日本最古級恐竜化石含有層（ボーン・ベッド）緊急発掘調査事業（県民との協働による調査）

徳島県勝浦町で行われた恐竜化石含有層の緊急発掘調査では、県内の化石愛好家や阿波井戸端塾などの勝浦町内のボランティアの協力を得て、化石の探索作業を行った。

（11月28日（水）～12月16日（日）：化石発掘現場での調査および後方支援施設での作業）

●展示

①部門展示「小川昌彦氏の蝶コレクション～世界の蝶・日本の蝶　こんなのいまっせ！～」（県民との協働による展示）

（7月31日（火）～11月25日（日））

②博物館ロビー等での小展示「ジュニア学芸員講座」開催報告（県民との協働による展示）

（8月7日（火）～10月2日（日）

③特別陳列「ごっついで那賀川―博物館資料で見る那賀川流域の自然とくらし―」（県民との協働による展示）

（10月13日（土）～11月18日（日））

みどりのサポート隊の協力を得て、カラムシやコウゾから作った糸を展示した。

●普及教育

①普及行事における県民との協働（行事運営への協力等）

「出羽島歴史散歩」（6月3日（日））

「漂着物を探そう！＆ビーチクラフトを楽しもう！」（7月22日）

「初めての植物かんさつ」（4月15日、6月9日、8月18日、10月28日、12月9日、2月3日）

「初めての植物解説」で植物の解説をする参加者

「ゼロから始める植物学」で標本の解説をする参加者

「ゼロから始める植物学」（4月15日、6月9日、8月18日、10月28日、12月9日、2月3日）

②みどりのサポート隊

博物館では「みどりを楽しもう、味わおう」をテーマに「葉っぱのスタンプとカルタ作り」、「ドングリクッキーを作ろう」、「パイナップルで年賀状を作ろう」、「リースを作ろう」などの行事を開催してきた。長年行ってきたこともあり、行事の改良や新たな行事の考案・試行を検討してきたが、学芸員だけでは限界があった。そこで県民の力を借りてより楽しい行事の実施を試みるため、「みどりのサポート隊」を募集し、いろいろなアイディアを行事に反映することとなった。

28年度より行事参加者や友の会などを通じて参加を呼びかけて試行し、29年度からは公募による参加者募集を行っており、いくつかの行事についての新しいアイディアを得ることができた。

30年度は次のような活動を行った。なお、開催時間は13：00～16：00、開催場所は博物館実習室である。

・押し花レジン工作　5月20日
　参加者：26人
・桑の実でジャムを作ろう　6月17日
　参加者：9人
・植物から糸を作ってコースター作り1　7月29日
　（台風で中止）
・植物から糸をとってコースター作り1
　8月18日
　参加者：7人
・植物から糸をとってコースター作り2　9月9日
　参加者：10人
・植物から糸をとってコースター作り3　9月30日

参加者：1 人
・ドングリを活用しよう　11 月 18 日
参加者：7 人
・冬の本格草木染にチャレンジ　12 月 23 日
参加者：10 人
・光る松ぼっくり工作　1 月 20 日
参加者：18 人
・タンポポケーキの試作　3 月 17 日
参加者：7 人

③「県民とともに新常設展を考えるワークショップ」
（参加者公募型ワークショップ）
（4 月 30 日（月・祝）、5 月 13 日（日））

「県民とともに新常設展を考えるワークショップ」
（4 月 30 日）

Ⅶ　シンクタンクとしての社会貢献

博物館は、その活動を通じて様々な資源（資料、情報、学芸員の知識・経験）を蓄積している一種のシンクタンクである。これらの資源を活用して地域社会に貢献し、また、県政の課題解決に寄与することも、博物館の重要な役割であると考え、積極的に取り組むこととしている。

1．レファレンス業務

一般の県民や児童・生徒・学生、教職員、行政職員、マスコミ、企業などから寄せられた質問や問い合わせに対応する業務を、当館ではレファレンス業務と呼んでいる。問い合わせ方法としては、来館、電話、E メール、文書によるものなどがある。当館ではこれらの問い合わせを、対応の記録や博物館に対するニーズを把握する目的で、データベース化している。

平成 30 年度に行ったレファレンスの件数は 625 件で、分野別内訳は下表のとおりである。この記録は、博物館レファレンス記録データベースに記録されたデータに基づいている。ただし、同様の問い合わせが集中したときなど、すべてを記録できているわけではないため、実際の件数はこれより 2 ～ 3 割程度多いと考えられる。

職業別の割合を見ると、一般（不明を含む）からの問い合わせが 286 件（46％）で最も多く、次いでマスコミ・出版関係が 165 件（26％）、博物館・図書館・官公庁等が 80 件（13%）、高校生以下の児童・生徒及び教員等が 37 件（ 6 ％）、大学生・院生・研究者等が 21 件（ 3 ％）、その他が 28 件（ 6 ％）であった。

●分野別レファレンス件数（平成 31 年 3 月 31 日現在）

分　　野	件　　数
動物（脊椎）	64
（無脊椎）	26
（昆虫）	169
植　　物	44
地　　学	106
考　　古	34
歴　　史	74
民　　俗	36
美術工芸	5
保存科学	12
そ の 他	55
合　　計	625

2．各種委員会委員等の受諾

平成 30 年度に、博物館職員が委嘱を受けた各種委員会委員、学会役員等は次の通りである。

遠藤佳孝
（公財）日本博物館協会参与
（平成 30. 4. 1 ～ 31. 3. 31）
日本博物館協会四国支部副支部長
（平成 30. 4. 1 ～ 31. 3. 31）
四国地区博物館協議会副会長
（平成 30. 4. 1 ～ 31. 3. 31）
徳島県博物館協議会会長
（平成 30. 4. 1 ～ 31. 3. 31）

長谷川賢二
徳島県人権教育啓発推進委員会専門委員
（平成 19. 5. 1 ～）
阿波遍路道・札所寺院保存検討委員会委員
（平成 30. 5. 30 ～ 31. 3. 31）
徳島県戦没者記念館企画委員会委員
（平成 27. 7 ～）
高大連携教育研究会専門委員
（平成 30. 4. 1 ～ 31. 3. 31）
日本山岳修験学会理事
（平成 29. 9 ～令和元. 9）
日本ミュージアム・マネージメント学会中・四国支部会副支部長
（平成 30 ～令和元年度）
四国中世史研究会運営委員
（平成 29. 4 ～ 31. 3）
歴史資料保全ネットワーク・徳島運営委員
（平成 25. 9. 1 ～）

佐藤陽一
徳島県土木環境配慮アドバイザー
（平成 19. 4. 1 ～ 31. 3. 31）

徳島県希少野生生物保護検討委員会委員
（平成 21. 12. 1 ～ 31. 3. 31）
環境省希少野生動植物種保存推進員
（平成 9. 7. 1 ～令和 3. 6. 30）
国土交通省四国地方整備局「河川・渓流環境アドバイザー（吉野川・那賀川）」
（平成 19. 4. 26 ～ 31. 3. 31）
日本魚類学会標準和名検討委員会副委員長
（平成 15. 4. 1 ～）

小川　誠
徳島県土木工事環境配慮アドバイザー
（平成 19. 4. 1 ～ 31. 3. 31）
NPO 法人西日本自然史系博物館ネットワーク理事
（平成 21. 4. 1 ～ 31. 3. 31）
環境省希少野生動植物種保存推進員
（平成 24. 7. 1 ～令和元. 6. 30）
徳島県希少野生生物保護検討委員会委員
（平成 28. 4. 1 ～ 31. 3. 31）

中尾賢一
海陽町教育委員会「竹ヶ島地質遺産調査委員会委員」
（平成 23. 12. 16 ～）

茨木　靖
徳島県希少野生生物保護検討委員会委員
（平成 30. 4. 1 ～ 31. 3. 31）
環境省希少野生動植物種保存推進員
（平成 24. 7. 1 ～令和 3. 6. 30）
漂着物学会　会報編集委員
（平成 27. 4. 1 ～）
阿波学会紀要第 62 号　編集委員
（平成 29. 4. 1 ～ 31. 3. 31）

辻野泰之
日本古生物学会　化石友の会幹事
（平成 29. 7. 1 ～令和元. 6. 30）
日本古生物学会　将来計画委員会委員
（平成 29. 7. 1 ～令和元. 6. 30）
海陽町教育委員会「竹ヶ島地質遺産調査委員会委員」
（平成 23. 12. 16 ～）

山田量崇
徳島県希少野生生物保護検討委員会委員
（平成 21. 12. 1 ～ 31. 3. 31）
徳島県田園環境検討委員会委員
（平成 22. 1. 15 ～令和 2. 1. 14）
国土交通省四国地方整備局「河川・渓流環境アドバイザー」
（平成 23. 5. 25 ～ 31. 3. 31）
国土交通省四国地方整備局那賀川河川事務所「長安口ダム環境モニタリング委員会」委員
（平成 24. 4. 2 ～令和 2. 3. 31）
環境省希少野生動植物種保存推進員
（平成 24. 7. 1 ～令和 3. 6. 30）
日本昆虫学会「日本の昆虫」編集委員
（平成 25. 3. 14 ～令和 2. 3. 31）
日本昆虫分類学会評議員
（平成 27. 1. 1 ～）

庄武憲子
四国民俗学会理事
（平成 30. 4. 1 ～ 31. 3. 31）

磯本宏紀
新鳥取県史編さん調査委員会委員
（平成 30. 4. 6 ～ 31. 3. 31）
公益財団法人徳島県文化振興財団民俗資料委員会委員
（平成 29. 4. 1 ～ 31. 3. 31）
日本民具学会理事
（平成 28. 11 ～令和元. 10）
一般社団法人日本民俗学会評議員
（平成 30. 10 ～令和 2. 9）
国立歴史民俗博物館展示プロジェクト委員
（平成 30. 4. 1 ～ 31. 3. 31）
阿波晩茶製造技術調査委員会委員
（平成 30. 4. 2 ～令和 2. 3）
犬伏家住宅調査委員会委員
（平成 30. 9. 18 ～令和元. 6. 30）

松永友和
徳島地方史研究会評議員
（平成 25. 4 ～令和元. 5）
歴史資料保全ネットワーク・徳島運営委員
（平成 25. 9. 1 ～）
松茂町歴史民俗資料館・人形浄瑠璃芝居資料館協議会委員
（平成 29. 4. 1 ～）
徳島市史第六巻調査執筆委員会委員
（平成 29. 6. 30 ～ 31. 3. 31）

岡本治代
阿波学会紀要第 62 号　編集委員
（平成 29. 4. 1 ～ 31. 3. 31）

3．講師の派遣

館外からの依頼を受けて行った講師派遣等を、月日・担当者・依頼者・内容・場所の順に記す（内容に依頼者・場所が表現されている場合は依頼者・場所を省略）。なお、小・中・高校からの依頼による出前授業につい

ては、「Ⅱ　普及教育」の「2．学校教育支援事業」に記載している（詳細は p.19 ～ 23 参照）。

4 月 7 日　庄武憲子
遊山箱保存協会主催「春のお花見イベント ~ 遊山箱と阿波ういろう～」で講演（ひょうたん島クルーズ）

6 月 6 日　長谷川賢二
徳島県シルバー大学校大学院歴史・文化講座で講演「中世の社会と信仰」（徳島県立総合福祉センター）

6 月 23 日　松永友和
川西市生涯学習短期大学レフネック文化遺産学科で講義「藍と紺屋―徳島藩を中心に―」（アステ川西）

6 月 30 日　松永友和
川西市生涯学習短期大学レフネック文化遺産学科で講義「四国遍路と札所寺院―寺院と幕藩権力―」（アステ川西）

7 月 3 日　磯本宏紀
板野郡文化財保護審議会連絡協議会研修会で講演「民俗調査の方法―聞き取り調査の現場の事例―」（上板町中央公民館）

7 月 8 日　辻野泰之
東海化石研究会で講演「徳島周辺の化石産地と日本産棒状アンモノイド：バキュリテスの研究」（南生涯学習センター）

7 月 10 日　長谷川賢二
徳島県シルバー大学校小松島校で講演「弘法大師信仰と四国遍路の成立」（小松島市総合福祉センター）

7 月 14 日 ~16 日　辻野泰之
鹿児島県薩摩川内市甑島で講演「甑島の地層からも産出する恐竜時代のアンモナイトの話」（甑ミュージアム）および、「北海道のアンモナイト展」の展示の現地指導

7 月 18 日　植地岳彦
平成 30 年度徳島県公民館研究集会でファシリテーターとしてグループワーク実施「公民館が心豊かな地域を創る～つどい　まなび　つながる地域社会へ～」（徳島県立総合教育センター）

7 月 19 日　中尾賢一
平成 30 年度小松島のふるさと講座で講演「小松島で発見された化石について」（小松島市立図書館）

7 月 21 日　岡本治代
平成 30 年度高松市讃岐国分寺跡資料館友の会講演会で講演「四国における国分寺の造営～阿波・土佐を中心に～」（高松市讃岐国分寺跡資料館）

7 月 24 日　岡本治代
徳島県立文書館「平成 29 年度古文書保存講座」講師

8 月 3 日　磯本宏紀
海部郡文化財保護審議会連絡協議会総会で講演「阿波漁民ものがたり」（日和佐総合体育館　大会議室）

8 月 4 日　長谷川賢二
世界遺産を目指す「四国遍路」と「鳴門の渦潮」展講演会で講演「四国遍路の始まり」（徳島県立埋蔵文化財総合センター）

8 月 5 日　長谷川賢二
おへんろつかさの会設立 10 周年記念講演会で講演「四国遍路の形成と修験道・山伏」（さぬき市津田公民館）

8 月 11 日　長谷川賢二
吉野川市アメニティセンター講座「麻植を学ぶ（歴史編Ⅱ）」で講演「阿波忌部の近代」

8 月 29 日　松永友和
徳島県シルバー大学校大学院歴史・文化講座で講演「大塩平八郎と徳島」（徳島県立総合福祉センター）

9 月 3 日　長谷川賢二
徳島県シルバー大学校上板校で講演「弘法大師信仰と四国遍路の成立」（上板町老人福祉センター）

10 月 7 日　中尾賢一
福井県立恐竜博物館連携博物館講座「西九州有明海の独自性と生き物の成立史」（福井県立恐竜博物館）

10 月 10 日　長谷川賢二
徳島県シルバー大学校大学院歴史・文化講座で講演「四国遍路の成立過程」（徳島県立総合福祉センター）

10 月 10 日　中尾賢一
まなびーあ徳島「新あわ学コース」で講演「地震と地形との関係」（四国大学）

10 月 13 日　長谷川賢二
吉野川市アメニティセンター講座「麻植を学ぶ（歴史編Ⅱ）」で講演「中世の高越山と修験道」

10 月 16 日　長谷川賢二
まなびーあ徳島「新あわ学コース」で講演「四国遍路の歴史」（四国大学）

10 月 28 日　岡本治代
徳島県立美術館「日下八光を知る講座―3 つの視点から」で講演「日下八光と装飾古墳」（文化の森イベントホール）

10 月 31 日　庄武憲子
徳島県シルバー大学校大学院歴史・文化講座で講演「民俗学①」「民俗学②」（徳島県立総合福祉センター）

11 月 2 日　松永友和
歴文クラブで講演「近世の阿波藍と他国藍」（徳島県郷土文化会館（あわぎんホール）

11 月 4 日　大橋俊雄
福山市鞆の浦歴史民俗資料館特別展「絵図と歴史資

料で観る江戸期の鞆の浦」で講演「守住貫魚と全国名勝絵巻」（福山市鞆の浦歴史民俗資料館）

11月7日　長谷川賢二
徳島県シルバー大学校大学院歴史・文化講座で講演「戦国軍記と三好氏の落日」（徳島県立総合福祉センター）

12月1日　磯本宏紀
平成30年度鳴門市公民館短期講座「歴史文化講座」で講演「『鳴門鯛』と『鳴門わかめ』を生んだ鳴門の漁民」（板東公民館）

12月19日　磯本宏紀
徳島県シルバー大学校大学院歴史・文化講座で講演「県南の漁業史」（徳島県立総合福祉センター）

1月9日　長谷川賢二
徳島県シルバー大学校阿南校で講演「弘法大師信仰と四国遍路の成立」（阿南ひまわり会館）

1月17日　長谷川賢二
徳島県シルバー大学校鳴門校で講演「弘法大師信仰と四国遍路の成立」（鳴門・大塚スポーツパーク）

1月19日　大橋俊雄
写楽の会主催「第3回あわ江戸学講座」で講演「徳島藩の御用絵師」（アミコビル）

3月2日　辻野泰之
勝浦町で化石発掘体験「恐竜の化石を見つけよう！」に講師として協力（勝浦町地域活性化センター「レヴィタかつうら」）

3月3日　長谷川賢二
とくしま社会運動資料センター第12回公開講座で講演「徳島の部落史研究・前近代編」（徳島県労働福祉会館別館）

4．大学教育への寄与

(1) 大学非常勤講師の受諾

平成30年度に、博物館職員が委嘱を受けた大学非常勤講師は次の通りである。

辻野泰之
鳴門教育大学嘱託講師（博物館経営論）
（平成30.4.9～31.3.31）

山田量崇
四国大学非常勤講師（博物館実習Ⅰ）
（平成30.4.3～30.9.23）

磯本宏紀
徳島大学非常勤講師（博物館経営論）
（平成30.4.1～30.9.30）

松永友和
四国大学非常勤講師（博物館実習Ⅰ）
（平成30.4.3～30.9.23）

(2) 博物館実習生の受け入れ

博物館実習は、博物館法施行規則第1条において、学芸員となる資格を取得するために「大学において修得すべき博物館に関する科目」と規定されているもののひとつで、登録博物館または博物館相当施設における実習で修得することになっている。

当館では、大学からの依頼により、原則として県出身の学生を受け入れることにし、夏休み期間中に実習を行っている。4月1日～5月15日が受付期間で、希望者が多い場合は調整を行い、20数人をめどに受け入れることにしている。

30年度は、8月21日（火）～25日（土）に実習生

●平成30年度　博物館実習カリキュラム

		A　班　（6人）		B　班　（7人）	
		実習名（場所）	担当者	実習名（場所）	担当者
8/21(火)	午前	館長あいさつ（実習室）	遠藤		遠藤
		ガイダンス・館内施設見学（館内）	植地		植地
	午後	考古資料の整理（考古収蔵庫、実習室）	岡本	歴史資料の整理（実習室・作業室など）	松永
8/22(水)	午前	歴史資料の整理（実習室・作業室など）	松永	美術工芸資料の整理	大橋
	午後	普及業務	西川・坂部	書庫の整理	庄武
8/23(木)		徳島県に台風が上陸し、暴風警報等が発令されたため休講とした。			
8/24(金)	午前	地学資料（主に化石）資料の整理（地学収蔵庫）	辻野	普及業務	西川・坂部
	午後	無脊椎動物資料の整理（生物収蔵庫）	山田	考古資料の整理（考古収蔵庫・実習室）	岡本
8/25(土)	午前	普及行事の準備	小川	民俗資料の整理	磯本
	午後	地学資料の整理および同定会設営	中尾	民俗資料の整理	磯本

の受け入れを行った。実習生は13人で、大学別の内訳は次の通りである。

鳴門教育大学	5人	四国大学	2人
徳島大学	1人	琉球大学	1人
高知大学	1人	都留文科大学	1人
岡山理科大学	1人	奈良教育大学	1人

なお、県立総合大学校本部の依頼により、徳島県インターンシップ実習学生として、徳島大学の1人を受け入れた。

カリキュラムは表のとおりである。実習生をA・Bの2班に分けて、学芸員等職員が指導にあたり、資料の整理や調査などについての実習を行った。

⑶ 学芸員養成科目開講への協力

徳島県と徳島大学、鳴門教育大学、四国大学との間の協定（年報22号参照）にもとづき、学芸員資格の取得を希望している3大学の学生のために、「博物館資料保存論」「博物館展示論」「博物館教育論」の開講に協力した。博物館講座室を会場として、当館職員を中心に、大学教員、近代美術館・文書館職員が共同で講義を担当した。各科目の日程、受講者数は次の通りである。

①博物館資料保存論　9月1～2日、6～8日
　徳島大6人、鳴門教育大5人、四国大19人
②博物館教育論　2月22～24日、26～27日
　徳島大3人、鳴門教育大3人、四国大13人
③博物館展示論　3月1～3日、5～6日
　徳島大3人、鳴門教育大4人、四国大14人

5．学会・研究会等の運営への寄与

⑴ 学会・研究会等の開催

30年度に当館学芸員が担当し、当館及び文化の森の施設を会場として開催された学会・研究会等は次の通りである。

●徳島地域文化研究会

総会及び研究会
開催日：6月9日（土）
会　場：博物館講座室
参加者：9人

●四国民俗学会

総会及び研究会
開催日：6月10日（日）
会　場：博物館講座室
参加者：10人

●国立歴史民俗博物館共同研究「地域における歴史文化研究拠点の構築」の2018年度第2回研究会（徳島県）

開催日：12月7日（金）
会　場：博物館講座室
参加者：12人

⑵ 当館が事務局等を引き受けている学会・研究会等

●徳島地域文化研究会

主として徳島県域をフィールドとする民俗学・文化人類学研究者によって構成されており、研究会やシンポジウム（年2～3回程度）、会誌『徳島地域文化研究』の発行（年刊）等を行っている。

●四国民具研究会

四国地域をフィールドとする民具研究者により構成されており、研究会の開催（年2回程度）、会報『四国民具通信』の発行、会誌『民具集積』（年刊）の発行、調査報告書の発行、資料の調査研究等を行っている。

●四国民俗学会

四国地域の民俗研究者により構成されており、研究会の開催（年1回程度）、会誌『四国民俗』の発行（年刊）、資料の調査研究等を行っている。

●日本半翅類学会

カメムシやヨコバイ、セミなどのカメムシ目（半翅類）に関する研究の発展及びその成果の普及を図り、あわせて半翅類に興味を持つ者相互の理解と親睦を深めることを目的とした学会である。会誌「Rostria」の発行、総会、例会などの事業を行っている。23年度から当館が事務局を担当している。

6．博物館ネットワーク

⑴ 四国地区博物館協議会及び日本博物館協会四国支部

四国地区博物館協議会及び日本博物館協会四国支部は、四国地区の博物館及び相当施設の連絡・協議組織で、現在76館（園）が加盟している。4県が持ち回りで2年ずつ会長・事務局をつとめることになっており、平成30～令和元年度は香川県立ミュージアムが会長館を務め、当館は副会長館を務めている。

30年度の役員会・総会及び研修が、次の通り開催された。

●役員会

日時：9月6日（木）
　　11：00～12：00
会場：香川県立ミュージアム　会議室
議題：平成29年度事業報告、決算報告及び監査報

告
役員改選
平成30年度事業計画及び予算
その他

●総会
日時：9月6日（木）13：30～16：30
会場：香川県立ミュージアム　研修室
議題：平成29年度事業報告、決算報告及び監査報告
役員改選
平成30年度事業計画及び予算
その他
講演：演題「博物館の地域連携～周辺領域から考える～」
講師　山本　珠美氏（香川大学　地域連携・生涯学習センター准教授）

●研修
日時：9月7日（金）9：45～11：00
場所：香川県立ミュージアム　研修室
講演：演題「日本博物館協会本部の事業及び博物館を取り巻く全国的な状況について」
講師　半田　昌之氏（公益財団法人日本博物館協会　専務理事）

●視察
日時：9月7日（金）11：00～12：00
場所：香川県立ミュージアム　特別展示室
内容：特別展「香川県立ミュージアム10周年記念コレクション展　目からうろこのミュージアム　Part Ⅰ　いろ・かたち・わくわくのひみつ」ほか
※展示解説：岡本　由貴子氏（香川県立ミュージアム　主任主事）

(2) 徳島県博物館協議会

徳島県内の博物館施設が相互協力して博物館活動の振興をはかるため、平成8年2月27日に設立された。設立当時31館であった加盟館は、その後増減を経て、31年3月末現在では50館になっている。当館が事務局をつとめている。

● 30年度事業
①役員会の開催
6月29日（金）　鳴門市ドイツ館
2月20日（水）　徳島県立博物館
②総会の開催
参加者：28人
日時：6月29日（金）　14：00～16：40
場所：鳴門市ドイツ館
議事：平成29年度事業報告及び決算報告
平成29年度監査報告
平成30年度役員選出
平成30年度事業計画及び会計予算
その他
講演：森　清治氏（鳴門市ドイツ館館長）「鳴門市ドイツ館について」
視察：鳴門市ドイツ館見学
③加盟館園の職員状況と入館者数一覧の作成・配布
④徳島県博物館協議会ニュースの発行
No.57～59を発行・配布した。
⑤研修会の開催　参加者31人
日時：11月21日（水）　13：40～16：00
場所：徳島県立大鳴門橋架橋記念館
内容：大鳴門橋架橋管理路ウォーク
案内　由淵　聖氏（本州四国連絡高速道路株式会社鳴門管理センター課長）
視察：大鳴門橋架橋記念館見学
案内　小林　直子氏（大鳴門橋架橋記念館チーフ）

(3) 人権資料・展示全国ネットワーク

人権資料・展示全国ネットワーク（略称「人権ネット」）は、人権確立のための研究、教育、啓発に寄与することを目的に、人権に関する資料の収集保管、調査研究、展示等を行う博物館、資料館、人権センター、研究所等により、平成8年に結成された。現在、31機関・団体が加入している。30年度は、福山市人権平和資料館を会場として第23回総会が開催されたほか、フィールドワーク等が行われた（11月15～16日）。

当館は発足時から加入しており、総会に職員を派遣してきたほか、平成30～令和元年度は事務局構成団体となっている。大阪人権博物館、水平社博物館等、加入機関・団体との個別的な協力も行っている。

(4) 西日本自然史系博物館ネットワーク

NPO法人西日本自然史系博物館ネットワークは、平成12・13年度に文部科学省の委嘱を受け行われた環瀬戸内地域自然史系博物館ネットワーク推進事業の継承と発展をはかるため、大阪市立自然史博物館及び兵庫県立人と自然の博物館の主導により、個人参加によるゆるやかな連携組織として、16年4月27日に設立された。博物館学芸員及び関係者155人が参加している。

⑸ 阿波しらさぎ大橋環境モニタリング調査 GIS データの管理

吉野川河口に平成 24 年 4 月に開通した阿波しらさぎ大橋については、建設に当たって当館の複数の学芸員が環境アドバイザー会議のメンバーとして参画し、11 年間にわたって実施された環境調査標本を受け入れてきた。

徳島県は長期にわたって吉野川河口域において詳細に調査されたデータを環境保全や環境教育に広く役立ててもらうために、GIS データとしてとりまとめ配布することになった（制作は県土整備部都市計画課）。先の経緯から当館が GIS データを収録した DVD の管理を担当することとなり、27 年 3 月より試行版の配布を開始し、正式版は 27 年 5 月より配布を開始した。

30 年度は申請がなかった。

Ⅷ　管理運営・マネージメント

1．組織・職員

(1) 組織図（令和元年５月１日現在）

館長(1) ── 副館長(1) ┬ 企画担当(5)〔2〕
　　（事務職員３〔2〕、文化推進員２）
　　├ 自然課(9)
　　（学芸員７、文化推進員２）
　　└ 人文課(6)
　　（学芸員５、文化推進員１）
博物館協議会

〔　〕は兼務者数

(2) 職員名簿（令和元年５月１日現在）

館　　長	新居美佐子
副　館　長	長谷川賢二
〈企画担当〉	
課長補佐	西川　栄展
課長補佐	石橋　典子（二十一世紀館課長補佐本務）
主査兼係長	植地　岳彦
係　　長	坂部　公章
主　　任	村尾　祐司（二十一世紀館主任本務）
文化推進員	松家あき子
〃	田原　晶子
〈自然課〉	
課　　長	小川　　誠（植物）
上席学芸員	中尾　賢一（地学）
専門学芸員	茨木　　靖（植物）
学芸係長	辻野　泰之（地学）
学芸係長	山田　量崇（動物）
主　　席	佐藤　陽一（動物）
学芸員	井藤　大樹（動物）
文化推進員	藤田　裕美
〃	疊谷　千幸
〈人文課〉	
課　　長	大橋　俊雄（美術工芸）
上席学芸員	庄武　憲子（民俗）
学芸係長	磯本　宏紀（民俗）
主　　任	松永　友和（歴史）
主　　任	岡本　治代（考古・保存科学）
文化推進員	清重　江美

(3) 人事異動

〈平成 31 年３月 31 日付〉
　定年退職：佐藤　陽一・自然課長
〈平成 31 年４月１日付〉
　新　採：井藤　大樹・学芸員
　再任用：佐藤　陽一・学芸専門主任
　　（５月１日職名変更：主席）
〈令和元年５月１日付、転入者のカッコ内は前職〉
　転出：遠藤　佳孝・館長、保健福祉部付・鳴門病院事務局長へ
　転入：新居美佐子・館長（西部総合県民局地域創生部長）
　　植地　岳彦・主査兼係長（文化の森振興本部係長兼社会教育主事〈博物館駐在〉）
　兼務：新居美佐子・教育委員会文化の森振興本部部長（博物館・鳥居龍蔵記念博物館担当）
　　長谷川賢二・教育委員会文化の森振興本部副部長（博物館・鳥居龍蔵記念博物館担当）
　　西川　栄展・教育委員会文化の森振興本部企画振興部

(4) 平成 30 年度非常勤職員

●文化推進員（非常勤特別職）
　内田　裕子（平成 27. 9. 1 ～ 30. 8. 31）
　清重　江美（平成 28. 10. 1 ～）
　松家あき子（平成 29. 4. 1 ～）
　田原　晶子（平成 30. 4. 1 ～）
　藤田　裕美（平成 30. 4. 1 ～）
　疊谷　千幸（平成 30. 9. 1 ～）

2．予算

２月現計予算額（２月補正後の予算額）を下に示す。

●平成 30 年度博物館費（２月現計予算額）（単位：千円）

予算総額	91,683
管理運営	13,248
展覧	5,427
調査研究	2,432
収集保存	10,867
普及教育	1,986

新常設展設計	53,871
日本最古級恐竜化石含有層緊急発掘調査	3,852

3．文化の森の連携事業

平成24年度以来、文化の森各館から職員1人ずつが、教育委員会文化の森振興本部企画振興部・二十一世紀館文化の森企画広報室を兼務し（27年度からは本部兼務のみ）、定期的な会議を通じて文化の森の連携と企画・広報の推進を図っている。30年度に取り組まれた主な内容は、次の通りである。

①文化の森全館連携事業の継続

引き続き文化の森全館による連携を図り、5月5日の「文化の森こどもの日フェスティバル」、8月19日の「文化の森サマーフェスティバル」、11月3日の「文化の森　大秋祭り!!」、2月11日の「文化の森ウィンターフェスティバル」を行った。また、こうしたイベントをより有意義なものとするため改善策について検討を深めた。

②文化の森学習応援事業の実施

従来から、文化の森の貸し館施設を学習室として開放してほしいとの要望が寄せられていた。これを受け、子どもたちの学力向上及び文化の森総合公園内の貸し館施設の有効活用の観点から、28年度から、夏休み、冬休み、春休みの期間中、机と椅子があり学習場所として環境の整っている博物館、近代美術館、図書館、二十一世紀館の貸し館スペースを一般予約の空き状況をみながら学習室として開放することとなった。30年度も継続して中学生、高校生を中心に多くの利用があった。

4．防災及び危機管理

⑴ 危機管理体制

文化の森3館棟で消防防災計画を立て、二十一世紀館、博物館、近代美術館、鳥居龍蔵記念博物館と文化の森の警備、設備、食堂等の業者で自衛消防隊を組織し、訓練を行って非常時に備えている。

⑵ 防災訓練

1月17日（木）、二十一世紀館を中心に、自衛消防訓練を行った。消防設備についての講義や現場確認、取扱説明等を受けたほか、水消火器を使用した消火訓練を行い、防災意識を高めた。

⑶ 耐震化対策の推進

地震発生時の安全確保のため、分析室（1・2）において書棚の転倒防止の工事を行った。26年度に自然（動物）研究室、28年度に人文研究室、29年度に自然（植物・地学）で施工しており、継続分として実施したものである。

5．ユニバーサル化への取り組み

平成30年度は以下の通り取り組んだ。

①常設展の外国人利用者数調査

常設展示室の解説表示の改善のために、外国人の利用者数の実態調査に取り組んだ。

期間：7月21日から9月2日まで（39日間）

外国人入館者数：24人（総入館者数：15,953人）

言語内訳：英語 6、中国語（繁体）2、中国語（簡体）1、韓国語0

②徳島県視覚障がい者連合会の博物館見学

徳島県視覚障がい者連合会より博物館の見学、普及行事体験の要望があり、「はにわクッキーをつくろう」を実施した。

日　時：10月28日　13：00～15：00

参加者：16人

③普及行事「手話通訳付き＆要約筆記付き博物館裏側見学」

要約筆記2人を配置するとともに近代美術館から磁気ループを借用し、聴覚障がい者向けの行事を行った。2回目の試みであったが、手話通訳要望の参加者はなく、磁気ループ、要約筆記要望の参加者が2人だった。

日　時：12月2日　10：30～12：00

参加者：2人

④普及行事「触察付き博物館裏側見学」

視覚障がい者向けの普及行事として2回目の試みであったが、視覚障がい者の参加者はなく、博物館の裏側および人形浄瑠璃資料の触察に興味をもった家族連れの参加者16人となった。

日　時：12月9日　10：30～12：00

参加者：16人

⑤常設展示室での車椅子による観覧点検とアイマスク着用での点検

常設展更新に向けて、利用者の立場に立って現在の状況を点検するため、職員が車椅子を利用したり、アイマスクを着用したりして、常設展を観覧点検した。

点検結果を受け、「藍と阿波商人」の展示について、車椅子目線でも見やすいように修正した。

日　時：1月16日　9：30～12：00

参加者：18 人
⑥インクルーシブデザインに関する学習会
日　時：1 月 29 日　15：00 ～ 17：00
講　師：塩瀬　隆之氏（京都大学総合博物館准教授）

車椅子目線での展示点検

6．博物館協議会

博物館協議会は、博物館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる機関で、博物館法及び徳島県文化の森総合公園文化施設条例の規定に基づき設置されている。

30 年度は協議会を 1 回開催した。

● 30 年度博物館協議会

日時：平成 30 年 9 月 13 日（木）
　　15：00 ～ 17：00
会場：博物館講座室

●徳島県立博物館協議会委員名簿

（平成 31 年 3 月 31 日現在）

区分	氏　名	役　職　等
学校教育	掘川　富美	県小学校教育研究会理科部会理事（北井上小学校長）
	中西　俊治	県中学校教育研究会社会部会長（半田中学校長）
	平山　義朗	県高等学校教育研究会地歴学会副会長（鳴門渦潮高等学校教頭）
社会教育	松下　師一（副会長）	松茂町総務課長 元松茂町歴史民俗資料館・人形浄瑠璃芝居資料館館長補佐
	安倍　久恵	フリーアナウンサー・前絆実行委員会委員
社会教育	松田　春菜	四国大学講師・四国貝類研究会
学識経験	玉有　繁（会長）	元徳島文理大学教授
	玉田　香織	藍住町国際交流協会理事
	高﨑扶美子	徳島新聞メディア記者
家庭教育	川原　絵美	城北高等学校 PTA 副会長

議事
①平成 29 年度事業の実施状況について
②平成 30 年度予算及び事業概要について
③常設展更新について
④第 4 期中期活動目標の検討状況について
⑤その他

7．各種研修会への参加

当館に事務局を置く徳島県博物館協議会の総会・研修会のほかに、次のような研修会等に職員を派遣し、博物館職員としての意識改革と資質の向上に努めた。月日、研修会等名称（主催者。名称に主催者名が含まれている場合は省略）、氏名の順に記す。

7 月 4 日　第 25 回全国博物館長会議（文部科学省・（公財）日本博物館協会）
遠藤佳孝
6 月 20 日　公開承認施設担当者会議（文化庁）
大橋俊雄
6 月 21 日　国宝重要文化財（美術工芸品）防災・防犯対策研修会（文化庁）
大橋俊雄
9 月 10 ～ 14 日　第 11 回指定文化財（美術工芸品）企画・展示セミナー（文化庁文化財部美術学芸課）
松永友和
10 月 12 日　とくしま社会教育主事の会
植地岳彦
10 月 27・28 日　日本ミュージアム・マネージメント学会中・四国支部会
長谷川賢二
11 月 15・16 日　人権資料展示・全国ネットワーク第 23 回総会
坂部公章
11 月 28 ～ 11 月 30 日　第 66 回全国博物館大会（日本博物館協会）
長谷川賢二・西川栄展・庄武憲子

8．視察等博物館関係来訪者

5 月 24 日　国立歴史民俗博物館、千葉県立中央博物館
松田睦彦氏、島立理子氏
8 月 10 日　神戸大学
松下正和氏、木村修二氏
9 月 7 日　大韓民国国立民俗博物館
呉昌炫氏、鄭然鶴氏
9 月 27 日　札幌市議会議員　武市憲一氏ほか 3 人
10 月 19 日　国立科学博物館　川尻憲司氏ほか 3 人
11 月 23 日　広島平和記念資料館
杉田正隆氏、川本翼氏
2 月 14 日　神戸大学　髙槻泰郎氏、三井文庫
賀川隆行氏、滋賀大学　宇佐美英機氏
2 月 19 日　広島平和記念資料館
浜岡克宣氏、川本翼氏
3 月 1 日　國學院大學
青木豊氏、二葉俊弥氏ほか 32 人
3 月 23 日　中京大学　播磨良紀氏

Ⅸ　中期活動目標と自己評価

1．中期活動目標（平成 26 年 9 月 17 日策定）

近年、生涯学習社会の進展など、博物館を取り巻く状況は急速に変化してきた。これまでの資料の収集・保存や調査研究、展覧、普及教育などの事業に加えて、学校教育の支援や社会貢献、博物館活動への県民参画など、新たな課題への取り組みが求められるようになってきた。その一方で、財政状況悪化による運営予算の削減、事業評価、及び公的施設の運営の見直しなども進められるようになってきた。
こうした状況の変化を踏まえ、徳島県立博物館では平成 16 年度以来、2 期 10 年間（第 1 期:16 ～ 20 年度、第 2 期:21 ～ 25 年度）にわたり、中期活動目標とそれにもとづく点検・評価を行いながら、事業の改善と活性化を進めてきた。

ちょうど、第 1 期目標にもとづく活動が終わる 20 年度、博物館法の一部が改正され（20 年 6 月）、運営状況の評価と運営の改善に必要な措置を講ずるための努力義務が盛りこまれた。また、第 2 期目標にもとづく活動を進めていた 23 年度には、文部科学省から「博物館の設置及び運営上の望ましい基準」が告示され（23 年 12 月）、博物館運営の点検・評価の実施とそれにもとづく改善、それらの内容の公表について努力するよう求められた。こうした法制面での動向からも、徳島県立博物館における中期活動目標の策定･運用は適切な取り組みということができ、今後も継続的に推進することが必要だと考える。

25 年度をもって第 2 期目標の期間が終了したことから、これまでの成果を踏まえながら、ここに第 3 期目標（26 ～ 30 年度）をまとめた。

⑴ 第 2 期中期活動目標の総括

中期活動目標にもとづく事業改善と活性化に取り組むようになった平成 16 年度以来、事業の目標が明確に可視化されるとともに、達成度が客観的に示されるようになり、事業の課題や問題点を明らかにすることができるようになった。このような情報を共有することで、職員の意識改革を進め、利用者にとって満足度の高いサービスを提供できるよう努めてきた。

とくに第 2 期目標では､第 1 期の経験を活かし､徳島県立博物館の基本理念及び基本的性格(注)を再確認しながら、「県民とともに」を基調とする博物館の使命（存在意義や役割）をまとめたうえで、個々の事業やその目標、評価指標を位置づけることにした。

このように、使命と一体化した形で、事業の目指すべき方向を明確にしたのが第 2 期目標の特徴であり、これにあわせて評価指標などの見直しも行い、より丁寧な点検・評価を進めることができた。ただ、基調とした「県民とともに」を推進するには、さらに意識的な方向付けが必要と考えられ、課題を残したといえる。

（注）
「徳島県立博物館の基本理念及び基本的性格」とは、「徳島県立博物館基本構想」（昭和 59 年 1 月）に示され、博物館の活動目標・指針となってきたものである。その内容は次の通りである。
〈基本理念〉
①郷土に根ざし世界に広がる博物館
　徳島の自然、歴史、文化の資料を総合的に展示し、全国的・世界的なかかわりについても理解できる施設
②開かれた博物館
　博物館の活動に県民のだれでもが参加でき、楽しみながら学び、考え、豊かな知識を高めることのできる施設
③研究を大切にする博物館
　学術的な調査研究、資料の収集を通して、常に新しい展示と情報を広く提供する施設
④文化財を守り自然の保全をめざす博物館

県民の貴重な文化的資料を永久に保管するとともに、文化財と自然の保護に努める施設

〈基本的性格〉

①人文科学（考古、歴史、民俗、美術〈近代美術を除く〉）・自然科学（動物、植物、地学）の両者が有機的に結びついた総合博物館とします。

②収集保存、調査研究、展示、普及教育の４つの機能を備え、本県の文化、学術、教育及び生涯学習センターとしての役割を果たします。

③国内外の博物館、研究機関等と緊密な協力体制をとります。また、文化の森総合公園に建設が予定されている民家資料展示場、植物園等の施設はもちろん、県内の博物館、博物館相当施設、 類似施設等と相互協力し、その中核的博物館としての性格をもつものとします。

⑵ 第３期中期活動目標の策定の経緯

第３期中期活動目標の策定にあたっては､｢県民とともに｣を確かなものとするため､使命の再検討を重点的に行った。その結果、新たに「「連」県民とのつながりを大切にする博物館」を加えることにより、博物館の発信力を強化して、県民とのコミュニケーションの充実に力を注ぐ方針を明確にすることとした。また、これに伴い、事業区分を再編することにし､「県民協働・参画」を新たに設けることにした。その他、各事業の目標や評価項目、指標等についても、実情を踏まえた点検・評価によって博物館活動のステップアップが図れるよう、見直していった。

⑶ 徳島県立博物館の使命　※p.2 参照

徳島の自然・歴史・文化の宝箱―県民とともに活動し、成長する博物館―

徳島県立博物館は、徳島の自然や歴史、文化についての資料・情報にもとづく体験と学びの場として、県民のみなさんとともに活動し、成長していきます。

「知」知と出会う博物館

博物館は、徳島の自然・歴史・文化についての多様な資料や情報をもとに、県民のみなさんとともに楽しく学べる場を創ります。

「探」地域の魅力を探る博物館

博物館は、徳島の自然・歴史・文化について県民のみなさんとともに調べ、新たな地域の魅力を見つけます。

「伝」未来にまもり伝える博物館

博物館は、徳島の自然･歴史･文化についての資料を県民のみなさんとともに集め､「みんなの宝」としてまもり、未来に伝えます。

「連」県民とのつながりを大切にする博物館

博物館は、県民のみなさんと対話を深めながら、ともに活動し、地域の活性化に貢献します。

博物館では、効率的でバランスのよい運営を心がけながら、以上の使命を実現するために努力していきます。

⑷ 第３期中期活動目標の推進方法

中期活動目標とは、使命を実現するために、今後５年間（平成 26 ～ 30 年度）の活動目標を事業ごとに定め、年度ごとに評価を行うとともに、事業改善につなげていくためのものである。その推進にあたっては次の点に留意する。

・中期活動目標は、博物館協議会に諮ったうえで公表する。

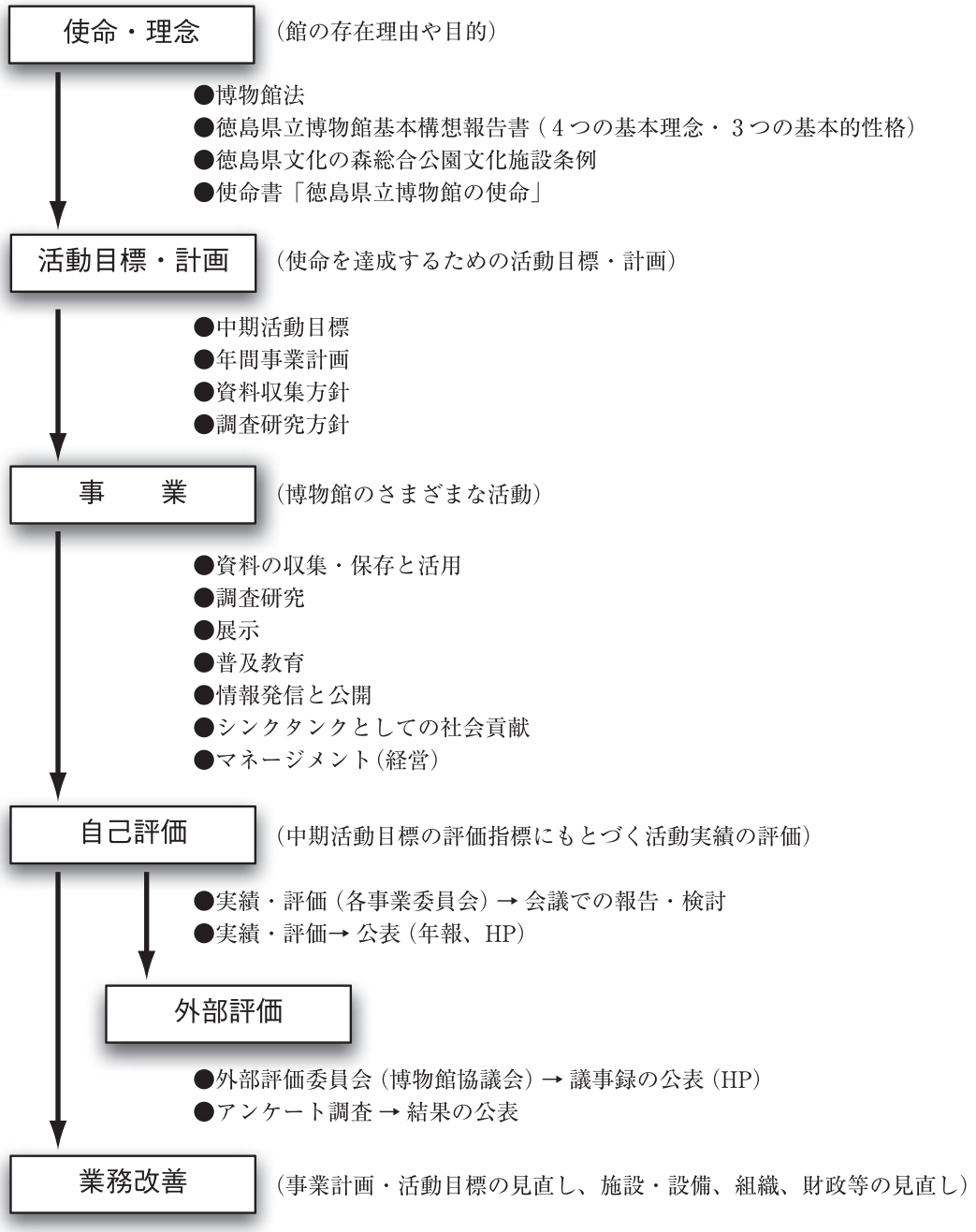
・それぞれの活動目標にもとづき、年度計画を立てて活動を推進する。

・年度末には活動実績の評価を行い、その結果を年報やホームページに掲載するとともに、次年度以降の活動計画に反映させる。

・活動実績及び評価の結果について博物館協議会で議論していただき、外部評価意見としてホームページに記載するとともに、出された意見を次年度以降の活動の改善に役立てる。

・活動目標と評価指標・目標値については毎年度見直しを行い、必要があればより適切な形に改める。

中期活動目標の推進手順



(5) 事業別の中期活動目標と評価指標

徳島県立博物館の使命を実現するために行う事業は、次の通りである。

・「知」知と出会う博物館：展示、普及教育
・「探」地域の魅力を探る博物館：調査研究
・「伝」未来にまもり伝える博物館：資料の収集・保存と活用
・「連」県民とのつながりを大切にする博物館：情報の発信と公開、県民協働・参画、シンクタンクとしての社会貢献
・効率的でバランスのよい運営：マネージメント（経営）

以下では、事業ごとに中期活動目標の項目、評価指標及び目標値などを示す。

①展示

県民のみなさんが楽しく学べ、新しい発見や体験ができる場を創り出します。実物資料や最新の情報に基づき、県民のみなさんとの連携を大切にしながら、徳島及び関連する地域をはじめ世界の自然や歴史、文化について幅広く展示します。（使命：「知」知と出会う博物館」）

中期活動目標の項目		中期活動目標の内容	評価指標	指標の定義	目標値	備考
1-1	常設展の改善・充実	新しい資料の追加、研究成果の反映、展示技法の改善などにより、常設展の改善・充実を図ります。	常設展観覧者数	年間の総観覧者数	40,000 人 / 年	
			観覧者のリピーター率	過去 1 年以内の利用経験者の占める割合	40%	
			観覧者の満足度	新たな知識や発見・興味を得た観覧者の割合	80%	
				他人に見学を勧めたいと考える観覧者の割合	80%	
			展示改善の実施状況	新しい発見や体験につながる取り組み件数		定期的に展示替えするコーナーは除く
1-2	魅力ある企画展の計画的開催	収蔵資料の特色や調査研究成果を活かすとともに、県民のニーズを反映しながら、多様なテーマの企画展を計画的に開催します。	企画展観覧者数	1 回あたりの観覧者数	自然　7,000 人 総合　5,000 人 人文　3,500 人	
			観覧者の満足度	新たな知識や発見・興味を得た観覧者の割合	80%／回	
				他人に見学を勧めたいと考える観覧者の割合	80%／回	
			社会的評価	マスコミの報道件数	5 件／回	展示内容が取り上げられた場合
			県外への発信度	県外観覧者の割合	5%／回	
			企画展の検討状況			
1-3	多様な展示の開催促進	企画展以外に特別陳列、部門展示等の多様な展示の開催を進めます。	特別陳列等の開催回数	企画展以外の主催展示の取り組み回数	10 回（特 1・部 4・トピック 5）	常設展ロビーにおける資料紹介などの実績があれば算入する。
			特別陳列観覧者数	1 日あたりの観覧者数	200 人	開催日数の長短の差が大きいため
			観覧者の満足度	新たな知識や発見・興味を得た観覧者の割合	80%／回	特別陳列のみ
				他人に見学を勧めたいと考える観覧者の割合	80%／回	特別陳列のみ
			社会的評価	マスコミの報道件数	5 件／回	内容が取り上げられた場合
			特別陳列等の検討状況			
1-4	他機関との共同展示等の促進	文化の森内での共催展、館外での移動展、パッケージ展示の貸出等により、各種の展示を促進するとともに、県内の博物館施設を支援します。	文化の森内での共催展の開催回数	博物館占有スペース以外を利用し、当館の関わりが補助的なもの	1 回 / 年	
			移動展等館外での展示の開催回数	文化の森外の博物館等において当館を主催者に含む展示の開催回数	2 回 / 年	「パッケージ展示の貸し出し数」を含む
1-5	展示解説等の推進	図録や解説書の発行、学芸員や受付案内員による展示解説等により、観覧者が展示を理解し楽しめるよう手助けします。	図録等の発行状況	年間の刊行件数		
			展示解説等の実施状況	展示の理解を支援する各種の活動の実施状況		
1-6	県民などとの協働による展示の推進	県民などの力を借りて、より魅力ある展示を目指します。	協働の実施状況			
1-7	常設展のリニューアルに向けての取り組みの推進	将来の常設展の全面リニューアルを目標に、館内での検討を進めるとともに、関係方面の理解が得られるよう努力を継続します。また、全面リニューアルの実現までの間、展示替えに努めます。	リニューアルに向けての進捗状況	リニューアルに向けての協議や施設調査等の取り組み		

②普及教育

徳島の自然や歴史、文化について楽しく体験し、学ぶことができる多様な学習機会を創りだすことにより、学校教育の支援や生涯学習の推進に取り組みます。（使命：「知」知と出会う博物館）

中期活動目標の項目		中期活動目標の内容	評価指標	指標の定義	目標値	備考
2-1	県民のニーズを反映した多様な催しの開催	県民のニーズに対応した多様な普及行事を企画し、多様な学習機会を創りだします。また、移動講座等のアウトリーチ活動にも積極的に取り組みます。	普及行事実施回数		70 回 / 年	
			普及行事参加者数		3,000 人 / 年	
			参加者の満足度	事後アンケートにおける満足回答者の割合	満足した者の割合 80%	
			アウトリーチ活動数	他館との共催による普及行事（展示を除く）	5 回 / 年	移動展の展示解説 1 件も 1 回とする

2-2	学校教育支援事業の推進	学校への資料貸出や出前授業、また博物館での授業や教員研修、職場体験、遠足等を受け入れ、学校教育を支援します。	支援事業案内パンフレット配布状況		県内全教員（小・中・高）	
			出前授業件数		出前授業15件／年	
			資料貸出件数		資料貸出10件／年	
			館での授業件数			
			教員研修件数			
			職場体験件数			
			遠足件数			
			教員・生徒の満足度	出前授業等実施後の満足度	80%	
2-3	普及的記事の執筆推進	身近な自然や歴史、文化に関する理解を手助けするため、ガイドブックの出版や、新聞・雑誌等への解説記事の執筆を進めます。	ガイドブック出版状況		1冊／年	
			普及的記事の執筆数	年報「調査研究事業」本文に掲載されている一般著述数	40件／年	
			博物館ニュース発行回数		4回／年	
2-4	県民との協働による普及行事の推進	県民の力を借りて、より魅力ある普及行事を推進します。	県民との協働による普及行事の実施状況			県民からの協力を受けた行事を含む

③調査研究

徳島の自然や歴史、文化に関する基礎的な研究及び博物館学的調査研究を、県民のみなさん及び関連機関と連携しながら進め、新たな事実や価値の発見に努めます。また、その成果を博物館の展示や普及教育等の活動へ還元するとともに、地域の魅力を引き出すよう努めます。（使命：「探」地域の魅力を探る博物館）

中期活動目標の項目		中期活動目標の内容	評価指標	指標の定義	目標値	備　考
3-1	調査研究活動の推進	徳島の自然や歴史、文化に関する基礎的な研究及び博物館学的調査研究を積極的にすすめます。	課題調査実施状況	課題調査として予算化された研究テーマ	2件／年	
			個別調査研究の実施状況	課題調査以外の研究テーマの実施状況		
3-2	外部研究機関等との連携の推進	他の博物館や大学、研究団体、学会、研究者との共同研究を積極的にすすめます。	共同研究件数	他機関やアマチュア研究者との研究件数	10件／年	人的・予算的規模の大小は問わない
			共同研究プロジェクト件数	上記のうち予算的措置を伴う共同研究の件数	3件／年	科研費プロジェクト等の研究分担を含む
3-3	県民参画型調査研究の推進	博物館の研究活動に県民のみなさんが参画できるようなプロジェクトを企画・実施します。	県民参画型調査の件数		2件／年	
3-4	外部資金の獲得による調査研究事業の推進	公的及び民間の研究助成金等を獲得し、研究活動の推進を図ります。	公的な研究助成金の申請・採択件数	科学研究費補助金など公的機関による競争的研究資金	申請6件 採択1件	科研費プロジェクト等の研究分担を含む
			民間の研究助成金の申請・採択件数			研究分担等を含む
3-5	調査研究成果の公表	博物館の調査研究の成果を学術論文や学会発表、研究報告書の出版、マスコミなどへの資料提供を通じ公表します。	学術的著述数	年報「調査研究」本文の学術的著述の件数	24本／年（査読付き4本／年）	学芸員数 × 年2本
			学会・研究会での発表件数	学会や研究会での口頭・ポスター発表の件数	24件／年	学芸員数 × 年2回
			マスコミへの資料提供件数	5-1の資料提供件数のうち調査研究に係わるものの件数	2件／年	

④資料の収集・保存と活用

徳島と徳島に係わりのある地域の自然・歴史・文化についての資料を県民のみなさんの協力のもと、様々な手段で継続的に収集します。集めた資料は「みんなの宝」として整理・保管し、未来に伝えます。収集した資料は、調査・研究や展示で利用するほか、他の博物館や研究者などへ積極的に貸し出しや提供を図り、様々な形で活用します。（使命：「伝」未来にまもり伝える博物館）

中期活動目標の項目		中期活動目標の内容	評価指標	指標の定義	目標値	備　考
収集						
4-1	継続的な資料の収集	資料収集方針に基づき、採集・購入・寄贈等による継続的な収集を進め、バランスのとれた特色あるコレクションづくりを行います。	収蔵資料点数		H30年度末で521,000点	H25年度末現在で501,751点、H27に51万点の予定
			新規資料増加点数		4,000点／年	H21～25年度の平均増加点数3,954点
			採集資料件数		20件／年	H21～25年度の平均18.2件
			購入資料件数		3件／年	H17年度以降はH24年度の1件のみ
			寄贈資料件数		100件／年	H21～25年度の平均107.2件

4-2	寄託資料の受入の促進	県内の貴重な資料の安全な保管と展示公開の促進を図るため、資料の寄託を受け入れます。	寄託資料件数			H25 年度末現在で 70 件
			新規寄託件数		3 件 / 年	H21 ～ 25 年度の平均は 2 件
4-3	文献資料の充実	資料を活用するうえで不可欠な文献資料の充実に努めます。	図書冊数	収蔵図書の総冊数（雑誌類を除く）		
			新規受入図書冊数	購入・寄贈図書数	200 冊 / 年	H21 ～ 25 年度の受入の平均 201.8 冊
			寄贈		90 冊 / 年	H21 ～ 25 年度の寄贈の平均 91.4 冊
			購入		100 冊 / 年	H21 ～ 25 年度の購入の平均 110.4 冊
			購入雑誌タイトル数			
保存						
4-4	収蔵資料データベースの整備	収蔵資料の整理・登録を進めるとともに、資料を適切に管理し、活用を図るうえで不可欠なデータベースの整備を図ります。	収蔵資料 DB 登録率	（DB 登録点数／収蔵資料点数）×100	50%	
4-5	資料の安全な保存	収蔵庫の点検や資料の燻蒸等により、収蔵資料の安全な保存を図ります。	収蔵庫点検回数		12 回 / 年	収蔵庫あるいは区画ごとにチェックリストを定め実施
			燻蒸回数		3 回 / 年	
4-6	展示室の資料保存環境の改善	展示室における照明や空調を適切に管理するとともに虫菌害の防除に努め、安全な資料の保存環境を確保します。	展示室点検回数		12 回 / 年	展示室あるいは区画ごとにチェックリストを定め実施
4-7	収蔵スペースの確保	収蔵資料の増加に伴い、不足しがちな収蔵スペースの確保のための工夫をします。	収蔵スペースの状況			
活用						
4-8	展覧における利用促進	収蔵資料の展覧における利用・公開の促進を図ります。	展示利用点数	寄託資料の利用も含む		
			常設展			
			常設展以外の展示			
4-9	貸し出し等の促進	貸出しや提供などによる収蔵資料の活用を図ります。	資料特別利用等件数	学校貸出し（2-2 学校への資料貸出件数を参照）を除く	60 件 / 年	H21 ～ 25 年度の平均 59 件

⑤情報の発信と公開

博物館活動についての様々な情報をより多くの人に知ってもらい、博物館を有効に活用できるように努めます。多様なメディアを通じて情報を発信し、積極的に県民との対話を進めます。（使命：「連」県民とのつながりを大切にする博物館）

中期活動目標の項目		中期活動目標の内容	評価指標	指標の定義	目標値	備　考
5-1	マスコミへの資料提供等の推進	企画展や普及行事の案内だけでなく、博物館に関する情報を積極的に資料提供するよう努めます。	資料提供件数	マスコミに対して資料提供を行った数（月間催し物案内を含む）	30 件 / 年	
			マスコミ取材報道件数	新聞等が取材し、報道した数		印刷メディアに限る（新聞・雑誌等）
			マスコミ出演等件数	学芸員がマスコミに出演した数	15 件 / 年	
5-2	広報活動の強化	広報関係出版物の内容改善、配布ルートの開拓など、広報活動を強化します。	広報手段の新規開拓状況	新たに開拓した広報手段		
			広報関係出版物発送状況	年間催し物案内、月間催し物案内、ニュース等の発送件数及び発行回数		
			E メールサービス登録件数	年度末時点の E メールサービスの登録件数	250 人 / 年	
5-3	インターネットによる情報発信の推進	インターネットによる情報発信を推進するため、学芸員による積極的な情報発信を促し、ホームページの充実を図ります。	HP 総アクセス数	HP（全ページ）へのアクセス総数	6,500,000 件 / 年	
			新規コンテンツ数	新たに作られたページの数	30 ページ / 年	
			内容の更新頻度	内容が更新された回数	月 3 回以上	
			双方向的な情報交換の推進に向けた検討			

⑥県民協働・参画

県民のみなさんとの協働による展示や普及行事、県民参画型の調査、友の会や公募ボランティアによるイベントなどを推進することにより、地域の活性化に貢献します。（使命：「連」県民とのつながりを大切にする博物館）

中期活動目標の項目		中期活動目標の内容	評価指標	指標の定義	目標値	備　考
6-1	友の会活動の充実と活性化	友の会の指導・育成に努めるとともに、自主的な活動を支援し、友の会活動の充実、活性化を図ります。	友の会会員数	友の会（個人・家族）の会員総数	400 人 / 年	
			個人会員			
			家族会員			
			会員の継続率	前年度会員に占める当該年度継続者の割合	前年度会員の 70%	
			個人会員			
			家族会員			
			友の会行事実施回数		6 回 / 年	括弧内に参加者数を並記
			展示利用率	観覧者として入館した会員の割合	50%	
			個人会員			
			家族会員			
			延べ利用者数	観覧者として入館した会員の延べ人数	会員数	
			個人会員			
			家族会員			
			会報の発行回数		3 回 / 年	
			普及行事支援件数	友の会による普及行事支援の数		フェスティバルを含む
6-2	公募ボランティアの協働推進	県民参画による行事を推進します。	公募ボランティア登録者数			
			公募ボランティア活動回数	会合等を含む活動の延べ日数		
			企画運営型行事等件数	公募ボランティアによる企画運営型行事の数		科学体験フェスティバルを含む
6-3	各種事業での県民協働の推進	協働による魅力ある展示や普及行事及び調査研究活動を推進します。	県民などとの協働による展示の実施状況			1-6 の再掲
			県民との協働による普及行事の実施状況			2-4 の再掲。県民からの協力を受けた行事を含む
			県民参画型調査の件数		2 件 / 年	3-3 の再掲

⑦シンクタンクとしての社会貢献

博物館は、その活動を通じて様々な資源（資料・情報・学芸員の知識）を蓄積しているシンクタンクです。これらを活用し、県民の生涯学習を支援するとともに、自治体や地域社会、学会等の事業推進に貢献します。（使命:「連」県民とのつながりを大切にする博物館）

中期活動目標の項目		中期活動目標の内容	評価指標	指標の定義	目標値	備　考
7-1	レファレンス利用者の拡大	来館による相談のほか、手紙や電話、メールでの質問等に親切に対応し、利便性を高めるよう努めます。	レファレンス件数	レファレンス記録 DB における記録件数	500 件 / 年	
			周知状況	レファレンス業務の周知取り組み状況		
7-2	講師派遣等の推進	他機関が主催する講演会、研修会等に学芸員を講師として派遣します。	講師派遣等件数	小中高への出前授業を除いた講師派遣等の件数		小中高への出前授業は「2-2 出前授業件数」を参照
			講演会等の受講者数			
7-3	自治体及び各種機関・団体への専門知識の提供	自然環境保全や文化財保護など自治体やその他の機関・団体の委員会委員やアドバイザーとして、専門知識の提供を行います。	委員等受託件数	学会・博物館関連団体の委員等を除く		
			機関・団体等への協力状況			
7-4	大学教育への寄与	大学の非常勤講師の受諾、学生・院生の研究指導、博物館実習生の受け入れ、学芸員養成科目の開講等により、大学教育に寄与します。	非常勤講師受諾数			
			学生・院生指導人数			
			博物館実習生受入人数		20 人 / 年	
			学芸員養成科目受講者数	3 科目（博物館資料保存論、博物館展示論、博物館教育論）の延べ受講者数		
7-5	学会・研究会の運営への寄与	学会・研究会を博物館で開催するほか、役員や各種委員等を引き受けるなど、学会等の活動に貢献します。	学会等開催数	学会・研究会の大会・例会・シンポジウム等の開催数		
			学会等役員受託数	学会・研究会における役員・委員等の受託数		
			学会等事務局受託数	当館が引き受けている学会・研究会の事務局数		
7-6	博物館施設の連携強化への貢献	県内の中核的博物館として、博物館施設への助言を行うとともに、県博物館協議会の活動等を通じて博物館施設の連携促進のために尽力します。	博物館関連団体委員等受諾数	博物館関連団体や他館の委員・役員等の受託数		
			博物館関連団体加入数	当館が加入している博物館関連団体の数		
			連携事業等の実施数	移動展・移動講座や他館との共催事業、資料保存等の支援の実施回数		

⑧マネージメント（経営）

利用しやすい博物館とするための施設の改善、博物館活動への県民参画の仕組みづくりの検討、職員の意識改革と資質の向上、適切な博物館評価システムの確立等により、博物館活動の改善と活性化、利用者の増大を図ります。（使命：効率的でバランスのとれた運営）

中期活動目標の項目		中期活動目標の内容	評価指標	指標の定義	目標値	備　考
8-1	利用しやすい博物館をめざす施設の改善	わかりやすい案内表示、バリアフリー化や安全対策等に配慮し、高齢者、障がい者や外国人にとっても快適で安全な利用しやすい施設となるよう、日常的な点検･改善を行います。 また、講座室の貸し出しを行い、博物館利用の機会を増やします。	点検・改善の状況			
8-2	博物館認知度の向上と利用者層の拡大	博物館活動の活性化と広報の強化により、県内及び近隣地域での博物館の認知度を高め、博物館利用者の範囲の拡大と利用者増に結びつけます。	県民の博物館利用状況			
			県外利用者の割合			
8-3	県民参画の仕組みづくり、博物館運営支援組織のあり方等の検討	友の会会員やボランティア等による様々な博物館活動への県民参画の仕組みづくりの検討を行うとともに、友の会を母体とした博物館の運営支援組織のあり方について検討します。	ボランティア導入事業件数			
8-4	設置者による理解及び外部資金の獲得	博物館の使命、当館が果たしている幅広い役割等に対する県及び県教育委員会の理解を得るとともに、財政的支援等が得られるよう努力します。また、各種外部資金の獲得に努め、より効率的な運営を目指します。	博物館予算の状況			
			外部資金獲得数	申請数、獲得数		

2．30 年度実績と自己評価

(1) 展示

●中期活動目標及び 30 年度実績

中期活動目標の項目		評価指標	指標の目標値	28 年度実績	29 年度実績	30 年度実績
1-1	常設展の改善・充実	常設展観覧者数	40,000 人 / 年	68,453 人	44,142 人	42,764 人
		観覧者のリピーター率	40%	46%（8 月）	61%（8 月）	40%（8 月）
		観覧者の満足度 新たな知見 他人への推薦	 80% 80%	 86%（8 月） 77%（8 月）	 83%（8 月） 81%（8 月）	 88%（8 月） 87%（8 月）
		展示改善の実施状況		2 件 （ロビー、キッズチャレンジコーナー）	4 件 （ロビー、キッズチャレンジコーナー）	1 件 （ロビー）
1-2	魅力ある企画展の計画的開催	企画展観覧者数	自然　7,000 人 総合　5,000 人 人文　3,500 人	9,356 人（自然コレクション） 62,276 人（トクシマ恐竜展） 2,444 人（藩絵師のすがお）	25,986 人（ザ･モンスター） 4,095 人（江戸幕府と徳島藩）	4,328 人（阿波漁民ものがたり） 15,338 人（ジャングルいきもの図鑑）
		観覧者の満足度 新たな知識	80% / 回	84%（自然コレクション） 92%（トクシマ恐竜展） 88%（藩絵師のすがお）	89%（ザ･モンスター） 90%（江戸幕府と徳島藩）	95%（阿波漁民ものがたり） 91%（ジャングルいきもの図鑑）
		他人への推薦	80% / 回	82%（自然コレクション） 87%（トクシマ恐竜展） 95%（藩絵師のすがお）	81%（ザ･モンスター） 81%（江戸幕府と徳島藩）	91%（阿波漁民ものがたり） 84%（ジャングルいきもの図鑑）
		社会的評価	5 社 / 回	自然コレクション 7 トクシマ恐竜展 32 （うち勝浦町竜脚類化石関連 19） 藩絵師のすがお 3	ザ・モンスター 12 江戸幕府と徳島 5	阿波漁民ものがたり 9 ジャングルいきもの図鑑 7

1-2	魅力ある企画展の計画的開催	県外への発信度	5％／回	12%（自然コレクション） 14%（トクシマ恐竜展） 4％（藩絵師のすがお）	20%（ザ･モンスター） 10%（江戸幕府と徳島藩）	8％（阿波漁民ものがたり） 13%（ジャングルいきもの図鑑）
		企画展の検討状況		30年度以降の計画の協議	令和元年度以降の計画の協議	令和2年度以降の計画の協議
1-3	多様な展示の開催促進	特別陳列等の開催回数	10回 （特1･部4･トピック5）	19回 （特1・部5・ト5・他阿波の近世絵画3、竜脚類化石1、阿波の道1、白亜紀化石1、県の石1、干支の動物1）	25回 （特2・部5・ト7・他阿波の近世絵画7､ジュニア学芸員講座成果発表展1、展示ブツ写してみよう自然編1、中級クラス植物観察会活動紹介展1、ちびっ子原始人写真コンテスト1）	18回 （特2・部4・ト6・他阿波の近世絵画3、博物館のもよおしもの紹介1、「ジュニア学芸員講座」開催報告1、写真でみる地層1）
		特別陳列観覧者数	200人／日	108人（徳島の朱）	336人（日本のアザラシと極地の動物たち）、111人（ふるさとの“たからもの”）	294人（青蓮院十一面観音菩薩立像）、161人（ごっついで那賀川）
		観覧者の満足度（新たな知見・他人への推薦）	80%／回	90%（徳島の朱）	88％（アザラシ）、100%（たからもの）	93%（青蓮院十一面観音菩薩立像）、96%（ごっついで那賀川）
			80%／回	86%（徳島の朱）	87％（アザラシ）、97%（たからもの）	89%（青蓮院十一面観音菩薩立像）、90%（ごっついで那賀川）
		社会的評価	5件／回	徳島の朱7	アザラシ7、たからもの9	青蓮院十一面観音菩薩立像4、ごっついで那賀川5
		特別陳列等の検討状況		30年度以降の計画の協議	令和元年度以降の計画の協議	令和2年度以降の計画の協議
1-4	他機関との共同展示等の促進	文化の森内での共催展の開催回数	1回／年	3回 （遙かなるマチュピチュ､阿波の道を歩く、文化の森人権啓発展）	2回 （鳥居龍蔵　日本人の起源に迫る、文化の森人権啓発展）	2回 （鳥居龍蔵と小金井良精、文化の森人権啓発展）
		移動展等館外での展示の開催回数	2回／年	6回 （四季美谷温泉、つるぎ町織本屋、鳴門市立図書館、海陽町立博物館、あわぎんホール、阿南市文化会館）	0回	2回 （徳島県戦没者記念館、レヴェタかつうら）
1-5	展示解説等の推進	図録等の発行状況		企画展図録等4	企画展図録等2	企画展図録等1
		展示解説等の実施状況		企画展展示解説14回 企画展記念講演会2回 企画展関連行事10回 特別陳列解説3回 特別陳列講演会1回 特別陳列関連行事1回 クイズラリー23回 常設展示室活用イベント4回 部門展示解説6回	企画展展示解説9回 企画展記念講演会1回 企画展関連行事2回 特別陳列展示解説（スライド＆トーク含む）8回 特別陳列関連行事1回 クイズラリー24回 常設展活用イベント4回 部門展展示解説11回	企画展展示解説6回 企画展記念講演会4回 企画展関連行事1回 特別陳列展示解説1回 特別陳列関連行事1回 クイズラリー24回 常設展活用イベント4回 部門展展示解説11回

1-6	県民などとの協働による展示の推進	協働の実施状況		「みんなの自然コレクション（鉱物の展示コーナー）」 「みんなで調べた西日本のタンポポ」 「浜辺で拾ったエビとカニ」 「高校生が調べた徳島の浜辺」	「祝　県立図書館100周年　本家源之丞座の資料― 県立図書館で守られた郷土資料―」 「高校生がつくった徳島藩家老の屋敷門」 「身のまわりの植物を楽しもう」 「ジュニア学芸員講座成果発表展」 「カメラやスマホで展示ブツを写してみよう88　自然編」 「中級クラス植物観察会活動紹介展」 「ちびっ子原始人写真コンテスト」	ごっついで那賀川、小川昌彦氏の蝶コレクション 「ジュニア学芸員講座」開催報告
1-7	常設展のリニューアルに向けての取り組みの推進	リニューアルに向けての進捗状況		リニューアルした博物館の視察（群馬県立歴史博物館、高知県立高知城歴史博物館、国立歴史民俗博物館、国立民族学博物館）、展示ケース等修繕、総合展示室「日本列島と四国のおいたち」導入部の改修	・リニューアルに向けた博物館の視察（石川県立歴史博物館、高知県立高知城歴史博物館、国立歴史民俗博物館、国立民族学博物館、滋賀県立琵琶湖博物館、島根県立古代出雲歴史博物館、兵庫県立考古博物館、福井県立恐竜博物館、三重県総合博物館） ・常設展リニューアルの実現に向けての計画策定	・「県民とともに新常設展を考えるワークショップ」の開催 ・「徳島県立博物館新常設展基本構想」の策定 ・新常設展設計事業業務委託公募型プロポーザルの実施 ・新常設展設計事業業務委託の実施（基本設計） ・リニューアルに向けた博物館の視察（福岡市博物館、萩博物館、北海道博物館、上越市立歴史博物館、国立歴史民俗博物館、京都水族館、京都鉄道博物館、滋賀県立琵琶湖博物館、ふじのくに茶の都ミュージアム、三重県総合博物館）

●自己評価

（１－１）　常設展の改善・充実

・常設展観覧者数は42,764人であり、目標値を上回っているものの、29年度よりわずかに減少した。

・30年度は常設展に関するアンケートを夏季（7月21日～8月31日）に実施した。リピーター率（過去1年以内の複数回利用者率）は40％で目標値を達成したものの、29年度の61％から大幅に減った。過去3年でもとくにリピーター率の高かった29年度に比べ、「初めて」の利用者が10％増加した。

・常設展の内容については、新たな発見や知識・経験が「あった」とする回答は88％、常設展を他の人に見るようすすめたいと「思う」観覧者は87％でいずれも目標値を上回り、28・29年度より高評価である。アンケート調査を実施した夏休み期間の観覧者層と、展示替えの頻度が高い部門展示、トピックコーナーの昆虫、化石を扱った展示テーマとのマッチングから高評価だったと考えられる。一方で、常設展に「飽きてきた」等の感想もあり、観覧者の一部からは根本的な対策が求められている。

・キッズチャレンジコーナーについては、「とてもよい」、「よい」とする回答が全体の66％を占めていておおむね高評価であったと言える。一方で無回答もしくは「わからない」とする回答が30％を占めている。このコーナーを全く利用しない層が一定数いるためだと考えられ、利用の有無が二分されるコーナーであると言える。

（１－２）　魅力ある企画展の計画的開催

・30 年度は企画展 2 回（「阿波漁民ものがたり」、「ジャングルいきもの図鑑」）を実施した。
・企画展観覧者数は「阿波漁民ものがたり」が 4,328 人、「ジャングルいきもの図鑑」が 15,338 人であった。いずれの企画展も目標値を上回り、幅広い層の観覧者を獲得できていたことがわかる。
・新たな発見や知識･経験が「あった」とする回答は、「阿波漁民ものがたり」で 95%、「ジャングルいきもの図鑑」で 91% とそれぞれ目標値を上回った。また、この展示を他の人に見るよう勧めたいと「思う」とする回答は、「阿波漁民ものがたり」で 91%、「ジャングルいきもの図鑑」で 84%だった。各企画展とも、観覧者から高い評価を受けた展示だったと言える。
・企画展開催時の社会的インパクトやマスコミからの注目度の指標として、展示内容が報道された件数を取り上げ、「社会的評価」とした。「阿波漁民ものがたり」で 9 件、「ジャングルいきもの図鑑」で 7 件であり、ともに目標値に達した。
・県外への発信度として県外観覧者の割合を指標とした。「阿波漁民ものがたり」は 8%、「ジャングルいきもの図鑑」は 13% で、ともに目標値に達した。
・多様なテーマで深く掘り下げた魅力ある展示として、いずれの企画展でも観覧者の高い満足度を得た。企画展開催計画については、学術性、新規性、娯楽性等の諸要素をバランス良く取り入れた多様で計画的な運営を心掛けている。また、予算額が少ない中で、外部資金の獲得により展示内容や広報の充実を図ることを検討し、実施している。今後も多くの観覧者の満足を得られるよう、展示内容の工夫や効果的な広報に努めていきたい。

（１－３）　多様な展示の開催促進

・特別陳列等の開催回数は 18 回で、目標値を大幅に上回った。
・20 年度から、多様な資料を公開していくことなどを目的として、部門展示（人文）の展示替えに自然史のテーマも組み込んでいる。30 年度は 4 回の展示替え（「新生代の化石」、「小川昌彦氏の蝶コレクション」、「徳島市恵解山古墳群の発掘と遺跡保存」、「写真家岩朝哲男氏が撮った鳴門の風景」）を行った。多様な展示の開催を促進するという目標はおおむね達することができた。部門展示については、内容（テーマ）とそれに適した開催時期や期間等の計画について引き続き検討していく。
・トピックコーナーでは、即応性、話題性を重視した展示を行っている。6 回の展示（「新着資料紹介 2018」、「阿南市北の脇海岸出土の古銭」、「徳島県勝浦町で国内最古級「恐竜化石含有層」と「新たな恐竜化石等」を発見」、「没後 150 年徳島藩 13 代藩主蜂須賀斉裕」、「外来昆虫クスベニヒラタカスミカメ」、「タンポポ調査と西日本で初めて見つかったタンポポのゴールについて」）を行った。
・阿波の近世絵画コーナーの展示替えを 3 回行った。
・ロビーの無料観覧ゾーンにおける小展示を 3 回（「博物館のもよおしもの紹介」、「「ジュニア学芸員講座」開催報告」、「写真でみる地層」）を行った。ロビー等では、博物館の活動紹介を兼ねた展示を実施していて、効果的な広報（集客）の観点から、今後も必要に応じて実施したい。
・特別陳列「青蓮院十一面観音菩薩立像」の観覧者数は、1 日あたり 294 人（観覧者数 2,644 人）で目標値を上回り、観覧者の満足度も 93%と高かった。マスコミによる報道件数（「社会的評価」）は 4 件と目標値を下回ったものの、リピーターを含む多くの観覧者に高く評価された展示だった。
・特別陳列「ごっついで那賀川」の観覧者数は 1 日あたり 187 人（観覧者数 5,971 人）で目標値に達していないが、観覧者の満足度は 96%でとても高かった。マスコミによる報道件数（「社会的評価」）は 5 件で目標値に達した。

（１－４）　他機関との共同展示等の促進

・鳥居龍蔵記念博物館との共催により、企画展「鳥居龍蔵と小金井良精」を開催した。
・文化の森 5 館及び徳島県教育委員会人権教育課との共催により、「2018 年度文化の森人権啓発展」を開催した。
・移動展等他機関との共同展示を 2 回（「徳島県戦没者記念館第 6 回特別企画展戦中・戦後のくらし」、「勝浦町で発見された白亜紀前期の動植物化石」）実施し、目標値を達成した。他機関との連携による展示は、当館単独では難しい分野、資料、地域、施設での展示を可能にし、新たな観覧者を得られるため、今後も継続できるよう努めていきたい。

（１－５）　展示解説等の推進

・常設展活用イベント 4 回（「文化の森こどもの日フェスティバル」、「文化の森サマーフェスティバル」、「文化の森　大秋祭り !! 」、「文化の森ウィンターフェスティバル」）を行った。いずれも文化の森全体のイベントとして

開催された。多くの観覧者を迎えた中での、常設展の有効な活用につながる魅力的なイベント内容を工夫する必要がある。

・企画展の展示解説を６回、特別陳列の展示解説を１回、部門展示の展示解説を 11 回行った。企画展記念講演会４回と関連行事１回、特別陳列関連行事１回を実施した。

・子ども向け展示解説の一環として、クイズラリーを 24 回実施した。

（１－６）　県民などとの協働による展示の促進

・特別陳列「ごっついで那賀川」の一部のコーナーでは、みどりのサポート隊（ボランティアグループ）との協働で展示を行った。

・部門展示「小川昌彦氏の蝶コレクション」、ロビー等での展示「「ジュニア学芸員講座」開催報告」を県民と協働し開催した。小規模な展示ではあるが、県民との協働により展示を実施する機会が最近は増えてきている。

（１－７）　常設展リニューアルに向けての取り組みの推進

・経年劣化や破損等の見られる常設展示室のガラスケース等の修繕・改修を行った。こまめな日常的な点検と改修を今後も継続する必要がある。

・30 年度は、常設展全面リニューアルに向けて大きく前進した。「県民とともに新常設展を考えるワークショップ」の開催（２回）、「徳島県立博物館新常設展基本構想」の策定、新常設展設計事業業務委託公募型プロポーザルの実施、新常設展設計事業業務委託の実施（基本設計）等常設展リニューアルに向けての工程を進めている。令和元年度以降もこうした業務を継続する予定である。

⑵ 普及教育

●中期活動目標及び 30 年度実績

中期活動目標の項目		評価指標	目標値	28 年度実績	29 年度実績	30 年度実績
2-1	県民のニーズを反映した多様な催しの開催	普及行事実施回数	70 回／年	91 回	101 回	96 回
		普及行事参加者数	3,000 人／年	9,146 人	8,206 人	7,216 人
		参加者の満足度	満足した者の割合 80％	95.2%（22 行事）	94.0%（16 行事）	89.9%（19 行事）
		アウトリーチ活動数	5 回／年	5 回	4 回	4 回
2-2	学校教育支援事業の推進	支援事業案内パンフレット配布状況	県内全教員（小・中・高）	県内全教員（小・中・高）	県内全教員（小・中・高）	県内全教員（小・中・高）
		出前授業件数	出前授業 15 件／年	49 件	38 件	38 件
		資料貸出件数	資料貸出 10 件／年	17	5 件	8 件
		館での授業件数		9 件	5 件	5 件
		教員研修件数		6 件	5 件	4 件
		職場体験件数		13 件	8 件	10 件
		遠足件数（その他）		88 件（11 件）	105 件（４件）	101 件（22 件）
		教員・生徒の満足度	80%	97%	98%	98%
2-3	普及的記事の執筆推進	ガイドブック出版状況	1 冊／年	0 冊	0 冊	0 冊
		普及的記事の執筆数	40 件／年	35 件	42 件	30 件
		博物館ニュース発行回数	4 回／年	4 回	4 回	4 回
2-4	県民との協働による普及行事の推進	県民との協働による普及行事の実施状況		6 件（公募ボランティア３件、みどりのサポート隊１件ほか）	9 件（公募ボランティア４件、普及行事４件、みどりのサポート隊１件）	9 件（公募ボランティア５件、普及行事17件、みどりのサポート隊１件）

※２－２遠足件数の（その他）は、学童保育等の利用件数である。

●自己評価

（２－１）　県民のニーズを反映した多様な催しの開催

・普及行事の実施回数は、29 年度の 101 回から 5 回減り 96 回であった。参加者数は 7,216 人で、29 年度 8,206 人から 1,000 人ほど減っている。これは、特別陳列「日本のアザラシと極地の動物たち」スライド＆トークのような多数を受け入れるような行事（全 6 回で 817 人）がなかったためである。春・夏・秋・冬の 4 回行う「文化の森フェスティバル」の参加者数は、270 人増加している（29 年度 4,532 人、30 年度 4,802 人）。また、人文・自然分野の行事ともに、例年通りの参加状況であったため、他には目立った要因は見当たらない。ただ、25 年度から参加人数は減少傾向にあるため、フェスティバルでの内容や広報の方法などを工夫する必要がある。

・普及行事は、29 年度と同じ 13 シリーズで実施した。分野やテーマによって参加者数は異なるが、全体を通じて、生物に関する行事、屋外で実施する行事、バスツアー、ものづくりなどの活動をともなう行事には多数の申込みが集まっている。

・普及行事への参加者の満足度は、19 行事で行ったアンケート結果では、89.9％が満足していると回答しており好評であった。アンケートをもとに、県民のニーズを考えて内容等を工夫した成果が現れている。

・移動講座等文化の森以外の施設で実施するアウトリーチ活動は、海陽町立博物館での「海部自然･文化セミナー」が 4 回であった。29 年度と同じく、目標値の 5 回には届かなかった。他館と連携し、目標達成に向けての工夫や努力が必要である。

・鳥居龍蔵記念博物館との共催により「平成 30 年度鳥居龍蔵記念　徳島歴史文化フォーラム」を実施した。中学生･高校生から研究レポートを公募、フォーラム（発表会）で口頭発表してもらうとともに、優れた成果を表彰した。応募は中学生 7 組、高校生 7 組、参加者は延べ 86 人であり、中学校や高等学校との連携も深めることができた。

（２－２）　学校教育支援事業の推進

・30 年度の出前授業数は、38 件で、29 年度同様に目標値の 15 件を大幅に上回った。その内訳は、徳島市の学校が 16 件と多く、次いで吉野川市 7 件、阿南市の 5 件である。これらの 3 市が大半を占めているものの、県西部（3 件）、那賀郡（２件）からの利用もある。校種別では、小学校が 35 件（学童 1 件）、中学校が 3 件（小中合同 1 件）であり、他はなかった。幼稚園･保育園などへの校種の広がりを目指したい。出前授業の内容では、小学校の「昔の道具とくらし」が圧倒的に多く、次いで「昆虫・水生生物」である。中学校でも「民俗」に関するものもあったが、全体としては少ない。中学校や高等学校でできる授業の分野やテーマを開発し、学校側に対して博物館との連携の方法を提示していく必要がある。出前授業等での「総合評価」については、教員・生徒の満足度は 98％で高い評価を得ている。

・資料の貸出件数は、29 年度より 3 件多い 8 件であった。内訳は、「化石」（２件）、「戦争」（３件）、「昔の道具とくらし」（３件）に関するものであった。

・館内での授業は 5 件（29 年度と同じ）、教員研修は 4 件（29 年度 5 件）であった。30 年度で 6 回目となる教員研修として実施した「教員のための博物館の日 in 徳島」は、参加者の満足度が 98％で毎年高い評価を得ている。

・職場体験は、29 年度より 2 件多い 10 件であった。中学校 7 件、高等学校 3 件である。職場体験を通じて、出前授業での需要は少ない中学校や高等学校との連携が図られているといえる。

・遠足については 101 件で、29 年度と同じである。校種別では、小学校が 60 件、未就学（幼稚園・こども園等）が 37 件となっている。中学校・高校は少数に変わりない。土曜・日曜や長期休業中での、学童保育やその他教育支援施設の利用は、大幅な増加傾向にある（29 年度 4 件、30 年度 22 件）。

・高校生以下を対象に毎月 2 回実施しているクイズラリー参加者は、29 年度の 2,460 人から、30 年度は 1,637 人となり大きく減った。中でも、未就学児（０～６歳）、小学生の参加者数が大きく減っている。原因は予算の削減による賞品の内容が変更されたことかもしれない。対象年齢の明確化、実施方法・広報の見直し等の工夫が必要である。

（２－３）　普及的記事の執筆推進

・普及的記事の執筆数は 30 件であった。

・近年、ガイドブックを出版できていない。予算面、企画面の双方から検討を要する。

（２－４）　県民との協働による普及行事の推進

・イベントボランティアを公募し、「こどもの日フェスティバル」、「科学体験フェスティバル in 徳島」、「サマーフェスティバル」、「あすたむらんど徳島『おもしろ博士の実験室』」、「文化の森ウィンターフェスティバル」におい

てボランティアスタッフとの協働により行事を実施した。
・普及行事の内、「出羽島歴史散歩」、「漂着物を探そう！＆ビーチクラフトを楽しもう！」、「初めての植物かんさつ（６件）」、「ゼロから始める植物学（６件）」、「タンポポコーヒーでティータイム」、「県民とともに新常設展を考えるワークショップ（２件）」の６行事17件を県民との協働により実施した。今後も、県民との協働による行事運営の方法を模索したい。
・29年度から「みどりのサポート隊」を本格的に実施している。普及行事の改良や新たな行事の考案を協働して行った。新しいアイディアが得られ、普及行事にも反映することができた。普及行事の参加者に喜んでもらえるなど、成果が上がっている。

⑶ 調査研究

●中期活動目標及び30年度実績

中期活動目標の項目		評価指標	指標の目標値	28年度実績	29年度実績	30年度実績
3-1	調査研究活動の推進	課題調査実施状況	２件／年	１件（外部との共同０）	１件（外部との共同１）	１件（外部との共同１）
		個別調査研究の実施状況				
3-2	外部研究機関等との連携の推進	共同研究件数	10件／年	21件／年	21件／年	21件／年
		共同研究プロジェクト件数	３件／年	８件／年	７件／年	６件／年
3-3	県民参画型調査研究の推進	県民参画型調査の件数	２件／年	３件／年	３件／年	４件／年
3-4	外部資金の獲得による調査研究事業の推進	公的な研究助成金の申請・採択件数	申請６件・採択１件／年	申請３･採択２（継続２）	申請４･採択３（継続４）	申請１･採択０（継続７）
		民間の研究助成金の申請・採択件数		申請３・採択２・継続２	申請０・採択０・継続１	申請１・採択０・継続１
3-5	調査研究成果の公表	学術的著述数	２４本／年（査読付き4本/年）	３３本（査読付き12）	２３本（査読付き５）	２３本（査読付き３）
		学会・研究会での発表件数	２４件／年	１２件／年	１８件／年	１４件／年
		マスコミへの資料提供件数	２件／年	２件／年	１件／年	３件／年

●自己評価

（３－１）　調査研究活動の推進

・課題調査は予算上の制約があり、「日本最古級恐竜化石含有層（ボーン・ベッド）緊急発掘調査事業」の１件のみ実施した。実施件数は目標値には達しなかった。
・分野別に調査研究を実施し、それぞれ成果を得た。
・学芸員相互の情報交換や研究資質向上をはかるため、学芸員による館内公表会（セミナー）を３回実施した。

（３－２）　外部研究機関等との連携の推進

・30年度は他機関等の研究者との共同研究数については、21件で目標値を達成した。
・共同研究プロジェクトとは、他機関や研究者等との共同研究のうち、予算的措置を伴う共同研究のことをさす。日本学術振興会科学研究費補助金による「中国ヒマラヤ地域における昆虫類の系統分類と有用生物資源種の探索」、「地域資料調査に基づく四国遍路の総合的研究」、「民俗展示の多言語化のための基礎的研究―東アジアの水産資源を素材として」、「朝鮮海出漁の歴史とその文化的影響の研究―イワシをめぐる韓国の民俗変化」と、農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業による「四国で増やさない！四国から出さない！新害虫ビワキジラミの防除対策の確立」、国際常民文化研究機構による「戦前の渋沢水産史研究室の活動に関する調査研究」がこれに

あたり、目標値を達成した。また、徳島県環境首都課との共同研究として、「徳島県オヤニラミ回復事業調査」および「黒沢湿原の魚類相調査」もある。

（３－３）　県民参画型調査研究の推進

・30 年度の県民参画型調査については、合計 4 件で目標値を達成した。「タンポポの分布調査」、継続している「漂着物の調査」、「アサギマダラのマーキング調査」、「勝浦町の恐竜化石含有層（ボーン・ベッド）発掘調査」が実施された。

（３－４）　外部資金の獲得による調査研究事業の推進

・日本学術振興会による科学研究費補助金（科研費）の 30 年度の申請を 1 件（研究代表者）行った（29 年 11 月申請）。

・30 年度は、科研費等の公的研究助成金の申請が 1 件、採択が 0 件で、申請数、採択数とも目標値に達しなかった。なお、科研費研究代表者として 3 件（「原始的なカメムシ亜目昆虫の謎めいた交尾器を探る：形態進化と多様化プロセスの解明」、「近現代移住漁民による技術移動と都市部への定住に関する民俗学的研究」、「古生物タイプ標本の IC タグ管理および 3D データネットワーク構築の研究」）、科研費研究分担者として 3 件（「中国ヒマラヤ地域における昆虫類の系統分類と有用生物資源種の探索」、「地域資料調査に基づく四国遍路の総合的研究」、「朝鮮海出漁の歴史とその文化的影響の研究―イワシをめぐる韓国の民俗変化」、農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業の共同研究者として「四国で増やさない！四国から出さない！新害虫ビワキジラミの防除対策の確立」）の研究を継続して行った。近年は科研費の研究分担者として共同で行う研究が増えつつあり、当館のネットワークの拡がりがうかがえる。一方、研究代表者としての申請は少なく、積極的な努力が必要である。今後も継続して科研費申請を進めるとともに、科研費以外の補助金についても、情報を収集して積極的に申請し、獲得を目指したい。

・研究課題については、博物館の特性を生かした課題（たとえば分野の枠を越えた共同研究や、博物館学に関連したものなど）を設定するなどの工夫が必要である。

・30 年度は、民間の研究助成金への申請が 1 件あったが、採択はなかった。なお共同研究者として 1 件（「戦前の渋沢水産史研究室の活動に関する調査研究」）を継続して行った。

（３－５）　調査研究成果の公表

・学術論文数は 23 本、うち査読付き論文は 3 本であった。学術論文数、査読付き論文数は、ともに目標値に達しなかった。外部研究者との共同研究が増えている一方、他の業務の増加や調査研究のための旅費の削減等が、論文数にも表れていると思われる。

・学会・研究会での発表は 14 件で、目標値に達しなかった。

・マスコミへの資料提供は、「徳島県勝浦町における「国内最古級の恐竜化石含有層（ボーン・ベッド）」と「新たな恐竜化石等」の発見について」、「第 1 回勝浦町恐竜発掘活性化協議会の開催について」、「第 2 回勝浦町恐竜発掘活性化協議会の開催について（研究発表含む）」の 3 件であり、目標値に達した。今後ともこのような調査成果を県民に積極的に還元する工夫が必要である。

⑷ 資料の収集・保存と活用

●中期活動目標及び 30 年度実績

中期活動目標の項目		評価指標	目標値	28 年度実績	29 年度実績	30 年度実績
収集						
4-1	継続的な資料の収集	収蔵資料点数	H30 年度末で 521,000 点	523,948	527,566	530,726
		新規資料増加点数	4,000 点 / 年	5,144	3,618	3,160
		採集資料件数	20 件 / 年	15	10	11
		購入資料件数	3 件 / 年	1	4	5
		寄贈資料件数	100 件 / 年	87	64	55
4-2	寄託資料の受入の促進	寄託資料件数		72	79	85
		新規寄託件数	3 件 / 年	1	7	6

4-3	文献資料の充実	図書冊数（雑誌類除く）		13,941	14,055	14,162
		新規受入図書冊数	200 冊 / 年	135	114	107
		寄贈	90 冊 / 年	42	13	27
		購入	100 冊 / 年	93	101	80
		購入雑誌タイトル数		34	32	32
保存						
4-4	収蔵資料データベースの整備	収蔵資料 DB 登録率	50%	49.7	50.0	49.9
4-5	資料の安全な保存	収蔵庫点検回数	12 回 / 年	自然 7 回 人文 12 回	自然 12 回 人文 12 回	自然 12 回 人文 12 回
		燻蒸回数	3 回 / 年	3 回	3 回	3 回 （燻蒸庫 2 + 全室 1）
4-6	展示室の資料保存環境の改善	展示室点検回数	12 回 / 年	8 回	11 回	12 回
4-7	収蔵スペースの確保	収蔵スペースの状況				
活用						
4-8	展覧における利用促進	展示利用点数		22,068	1,076	4,879
		常設展		11,007	493	655
		常設展以外の展示		11,061	583	4,224
4-9	貸し出し等の促進	資料特別利用等件数	60 件 / 年	63	59	61

●自己評価

（４－１）　継続的な資料の収集

・収蔵資料点数は、28 年度の時点で、30 年度末に設定していた 521,000 点という目標値に到達している。30 年度はさらに増加し、530,726 点となった。

・新規資料点数は、3,160 点で、目標値の 4,000 点／年を下回った。

・採集資料件数は 11 件・寄贈資料件数は 55 件で、いずれも目標値を下回った。

・30 年度は地学分野で 3 件（5 点）、歴史分野で 2 件（3 点）の資料購入があった。いずれも 1 点あたりの購入金額が 100 万円未満のため、資料収集委員会は開催されなかった。

（４－２）　寄託資料の受け入れの促進

・新規寄託は 6 件で、目標値の 3 件／年を上回った。

（４－３）　文献資料の充実

・図書・雑誌については、予算などの状況に大きく左右されるため、特に目標値は定めていない。しかし、図書・雑誌は博物館の重要な資料の一部であり、調査研究や展示、普及教育活動などの状況の表れでもあるため、評価指標として取り上げている。なお、27 年度からは、予算の一部は図書館に計上されている。

・図書冊数は、14,162 冊で、29 年度から 107 冊増加した。

・購入雑誌タイトル数は、29 年度と同じく 32 タイトルであった。

（４－４）　収蔵資料データベースの整備

・収蔵資料のデータベースへの登録率は、記録を取り始めた 16 年度には 40％であった。18 年度から増加しはじめ 19 年度以降、目標値の 50％にわずかに届かないレベルで推移していている。29 年度のデータベース登録率は

50.0％で、いったん目標値に達したものの、30 年度は登録点数が 264,785 点、登録率が 49.9％となり、わずかに目標値を下回った。

（４－５）　資料の安全な保存

・25 年 1 月から、収蔵庫の定期点検を実施している。収蔵庫あるいは収蔵庫内の区画ごとに資料の安全な保管の強化に努めており、26 年度以降、目標値を 12 回／年と定めた。30 年度は自然課で 12 回、人文課で 12 回の点検を行っており、目標値に達した。

・29 年度に引き続き 30 年度も、生物収蔵庫・歴史民俗収蔵庫・特別収蔵庫で、パッシブインジケーターによる空気環境調査を行った。さらに、真菌の数量も調査し、適正な環境であることが確認された。

・30 年度は、燻蒸庫燻蒸を 2 回、全室密閉燻蒸を生物収蔵庫・歴史民俗収蔵庫で 1 回実施した。

・開館から 25 年以上が経過し、資料保存に関する設備・機器についても老朽化が進んでおり、定期点検や修繕が必要になっている。30 年度は、燻蒸庫の活性炭交換を行った。また、温湿度の点検に使用しているデジタル温湿度計の湿度を、アスマン式通風乾湿計を用いて校正した。

（４－６）　展示室の資料保存環境の改善

・外気温が上昇する夏期などは、設備調整の他、照明を調整するなどして適宜温湿度の管理を行っている。また、28 年 6 月からは、学芸員の輪番制で月に 1 回程度常設展示室の点検を実施し、文化財害虫のモニタリングや、温湿度の計測を行った。年間をとおして 12 回の点検を実施している。

・展示室内の気温上昇の一因と推定される外光の差し込みを防ぐため、休憩コーナーの天窓に寒冷紗を設置し、温湿度の変化を計測した。その結果、気温の上昇を抑制する効果が一定程度認められた。

・文化の森総合公園害虫等駆除及び防除業務は、26 年度以降、検査範囲に常設展示室も加えている。30 年度もこれに引き続き、トラップ設置・害虫出現状況の調査を行った。

・企画展示室で、パッシブインジケーターによる空気環境調査を行った。

（４－７）　収蔵スペースの確保

・資料の増加に伴い、収蔵スペースが減少してきている。収蔵スペースを確保するために、置き場所の変更や収納の高密度化、収蔵ケースや容器の工夫などが必要であるが、予算削減や人員削減により進んでいるとはいえない。資料の受け入れは慎重に行うとともに、引き続き収蔵庫定期点検を実施することで、具体的な対策を考えていきたい。

（４－８）　展覧における利用促進

・収蔵資料の活用状況を把握するための指標として、展示における利用の点数（常設展における利用と常設展以外の展示における利用）を記録している。30 年度は常設展（部門展示やトピックコーナーなど）において 655 点、常設展以外の展示（企画展や特別陳列、展示パッケージの貸出、移動展）において 4,224 点の資料を利用した。展示で利用された館蔵資料は、29 年度に比して、大幅に増加した。これは、館蔵品を中心に展示した企画展「ジャングルいきもの図鑑」、特別陳列「ごっついで那賀川」を開催したことによる。

（４－９）　貸し出し等の促進

・収蔵資料活用の指標の一つとして、資料特別利用等件数を設けている。これは他館への展示のための貸し出しや研究者向けの資料の貸し出し、マスコミや出版社への画像の提供などを含んでいる（学校への貸し出しは含んでいない。これについては［Ⅱ普及教育］を参照のこと）。30 年度は 61 件で、目標値を上回った。

⑸ 情報の発信と公開

●中期活動目標及び 30 年度実績

中期活動目標の項目		評価指標	目標値	28 年度実績	29 年度実績	30 年度実績
5-1	マスコミへの資料提供等の推進	資料提供件数	30 件 / 年	31 件	27 件	29 件
		マスコミ取材報道件数		99 件	92 件	103 件
		マスコミ出演等件数	15 件 / 年	11 件	18 件	18 件

5-2	広報活動の強化	広報手段の新規開拓状況		チラシやポスターの有効な配布	チラシやポスターの有効な配布	チラシやポスターの有効な配布
		広報関係出版物発送状況				
		年間催し物案内発送件数(発送回数)		632 件（1 回）	626 件（1 回）	625 件（1 回）
		月間催し物案内発送件数(発送回数)		各 87 件（12 回）	各 87 件（12 回）	各 85 件（12 回）
		博物館ニュース発送件数(発送回数)		各 1,172 件（4 回）	各 1,169 件（4 回）	各 1,163 件（4 回）
		Eメールサービス登録者数	250 人 / 年	354 人	389 人	374 人
5-3	インターネットによる情報発信の推進	HP 総アクセス数	6,500,000 件 / 年	10,752,239 件	9,860,615 件	10,645,850 件
		新規コンテンツ数	30 ページ / 年	90 ページ / 年	75 ページ / 年	439 ページ / 年
		内容の更新頻度	月 3 回以上	4 回 / 月	3.3 回 / 月	2.4 回 / 月
		双方向的な情報交換の推進に向けた検討		FB を効率的に活用し、情報発信を行った。	FB を効率的に活用し、情報発信を行った。	FB を効率的に活用し、情報発信を行った。

●自己評価

（5－1）　マスコミへの資料提供等の推進

・資料提供件数は 29 件で、29 年度より 2 件増加したが、目標値の 30 件／年を下回った。博物館からの情報発信として、マスコミに対する資料提供は効果的であるため、積極的な資料提供が必要である。

・マスコミ取材報道件数については、新聞の記事として扱われた件数のみである。30 年度は 103 件で、29 年度より 11 件増加した。「県民とともに新常設展を考えるワークショップ」や「勝浦町で発見された恐竜化石」などの話題が多いのが特徴であった。

・マスコミ出演等件数は 18 件で、29 年度と同数であり、目標値の 15 件／年を上回った。

（5－2）　広報活動の強化

・広報手段の新規開拓状況としては、来館者数の増加が期待できるイベントにおいて広報を充実させた。また、チラシ・ポスター等の配布先を企画展等のテーマに合わせたり、展示協力者等の協力を得たりして、選定・拡充した。特に、企画展「阿波漁民ものがたり」では、JR の駅構内のポスター掲示を増やした。

・広報関係出版物の発行状況として、年間催し物案内は、学校を中心に配布し、小学校では県内の全児童に配布した。月間催し物案内は、マスコミと各図書館を中心に配布した。博物館ニュースは関係諸機関にまんべんなく配布したが、特に小学校では理科、社会科、生活科の教員と各クラスに、中学校・高等学校では理科、社会科の教員に対して配布した。年間・月間催し物案内及び博物館ニュースの発送件数がそれぞれ減少しているが、これは学校数や児童・生徒数が減少したことに加え、効果的な配布を目指して発送先リストを整理したためである。

・電子メールサービス登録者数は 374 人で、29 年度より 15 人減ったが、目標値の 250 人／年を上回った。

（5－3）　インターネットによる情報発信の推進

・インターネットによる情報発信においては、30 年度は 1 年間でホームページに約 1,064 万件のアクセスがあった。29 年度の約 986 万件より約 78 万件増加し、目標値の 650 万件を上回った。

・新規コンテンツ数は 439 ページ／年で、目標値の 30 ページ／年を大幅に上回った。新規コンテンツ数が増えた理由は、企画展やボランティア活動などの情報を積極的に発信したことに加え、科研費研究の「日本産白亜紀アンモナイト・タイプ標本 3D デジタルモデルデータベース」のページを多数作成したことによる。

・内容の更新頻度は 2.4 回／月（29 回／年）で、29 年度より減少し、目標値の 3 回／月以上も下回った。減少している理由は、情報発信が Facebook などの SNS に移行していることが考えられる。なお、30 年度は 54 件の Facebook ページの記事を新たに掲載した。引き続き、積極的な情報発信に努めていきたい。

⑹ 県民協働・参画

●中期活動目標及び 30 年度実績

中期活動目標の項目		評価指標	目標値	28 年度実績	29 年度実績	30 年度実績
6-1	友の会活動の充実と活性化	友の会会員数	400 人 / 年	223 人	190 人	217 人
		個人会員		65 人	58 人	54 人
		家族会員		158 人（41 組）	132 人（34 組）	163 人（43 組）
		会員の継続率	前年度会員の70%	67%	59%	76%
		個人会員		77%	63%	76%
		家族会員		53%	54%	76%
		友の会行事実施回数	6 回 / 年	7 回（85 人）	6 回（79 人）	6 回（119 人）
		展示利用率	50%	50%	54%（59%）	45%（55%）
		個人会員		49%	52%（53%）	41%（50%）
		家族会員		51%	59%（68%）	51%（60%）
		延べ利用者数	会員数	220 人	199 人（305 人）	123 人（216 人）
		個人会員		94 人	96 人（126 人）	47 人（79 人）
		家族会員		126 人	103 人（179 人）	76 人（137 人）
		会報の発行回数	3 回 / 年	2 回	2 回	2 回
		普及行事支援回数		0 回	0 回	0 回
6-2	公募ボランティアの協働推進	公募ボランティア登録者数		36 人	30 人	47 人
		公募ボランティア活動回数（全体・班会合、イベント）		合計 43 回 会合 39 回 イベント 4 回	合計 25 回 会合 21 回 イベント 4 回	合計 31 回 会合 26 回 イベント 5 回
		企画運営型行事等件数		3 件（8/6-7、8/21、2/11）	4 件（5/5、8/5-6、10/14-15、2/11）	5 件（5/5、8/4-5、8/19、11/4、2/11）
6-3	各種事業での県民協働の推進	県民などとの協働による展示の実施状況		企画展 1 件、部門展示 1 件、トピックコーナー 2 件	部門展示 1 件、トピックコーナー 1 件	特別陳列 1 件、部門展示 1 件、トピックコーナー 1 件
		県民との協働による普及行事の実施状況		6 件（公募ボランティア 3 件、緑のサポート隊 1 件　ほか）	9 件（公募ボランティア 4 件、普及行事 4 件、緑のサポート隊 1 件）	22 件（県民ワークショップ 2 件、公募ボランティア 5 件、普及行事 15 件）
		県民参画型調査の件数	2 件 / 年	3 件 / 年	3 件 / 年	4 件 / 年

※ 6 － 1 の展示利用率及び延べ利用者数における（　　）は、減免により観覧無料となった会員の利用数を加えた値。

●自己評価

（6 － 1）　友の会活動の充実と活性化

・友の会会員数は、29 年度は 190 人、30 年度は 217 人で、27 人の増加である。内訳は、個人会員が 58 人から 54 人で 4 人の減少、家族会員が 132 人（34 組）から 163 人（43 組）で 31 人（9 組）の増加となっている。ここ数年会員数が減少していたが、家族会員の増加により、回復が見受けられた。勧誘ポスターを作成し館内に掲示したことが、会員増加の要因と考えられる。今後も継続して、勧誘ポスターの掲示やチラシの配布を行い、PR に努める。また、博物館掲示板等やインターネットを利用した情報発信も、引き続き行っていく。

・会員の継続率は、29 年度が 59%、30 年度が 76％と、回復が見られ目標値を上回った。今後も引き続き、新規会

員を募集する働きかけの強化や、会員が魅力を感じる会の運営を図っていく。
・友の会行事の実施回数は6回で、参加者数は119人であった。行事参加人数も近年の減少傾向からの回復が見受けられた。今後も引き続き、会員の満足度向上をめざした行事の工夫を図っていく。
・展示利用率は、29年度は54%であったが、30年度は45%となり、大幅な減少となった。会員が博物館に足を運ぶような、広報の工夫が求められる。なお、28年度までは、観覧のためにチケットを購入した会員のみの利用率を算出していたが、29年度より、減免により観覧無料となった会員の利用数も加え、参考数値として並記することにしている。

（6－2）　公募ボランティアの協働推進

・公募ボランティアは、29年度から継続したボランティア22人に加えて、新規登録のボランティア25人が加わり、合計47人が参加し、イベントの企画から当日の運営といった様々な活動を行った。30年度は高校生の参加が22人（29年度からの継続4人、新規登録18人）と多かったのが特徴で、ボランティア活動の場として博物館を選択した生徒が多かったと考えられる。
・30年度は「博物館Vキング」（2月11日）に向けて公募ボランティアと職員で構成した4グループにより、博物館資料や展示を楽しく理解してもらうための体験キットや手法を開発した。個別活動を多く実施したグループがあったため、活動回数は29年度より増加した。イベントの参加者数は1,295人と、29年度の946人より増加した。
・参加したボランティアからは、博物館の活性化を目的としたイベントを企画・運営を実施したことだけでなく、幅広い年代のメンバーと交流し、職員と協働したことについても、充実したものだったとの声があった。高校生からは、未就学児やその家族を象対としたイベントの企画に興味を示したほか、環境問題への関心から博物館活動とESD（持続可能な社会づくりの担い手を育む教育）の関連について考えを深めたいといった意見があった。このことから、県民協働として成果があっただけでなく、自発的な「学び」につながる効果があったと言える。一方で、徳島市外在住の高校生からは、博物館へ通うための公共交通手段が不便で交通費の負担が大きく、何度も通うことは難しいという意見があった。
・博物館資料や博物館の活動の紹介と、他団体の活動から学ぶ場として、博物館外で実施されたイベントに参加した。徳島大学で開催された「第22回科学体験フェスティバルin徳島」では、「ブラックライトで光る!? 博物館資料のレプリカを作ろう！」を2日間（8月4・5日）にわたりボランティア延べ30人と協働で出展した。また、あすたむらんど徳島で開催された「おもしろ博士の実験室」では「恐竜の骨格模型組み立て」（11月4日）を、ボランティア4人と協働で出展した。
・文化の森こどもの日フェスティバル（5月5日）や文化の森サマーフェスティバル（8月19日）では、イベントにボランティアスタッフが開発したキットが一部採用された。これまでの活動成果が資産として博物館に受け継がれた形となって、常設展示室の活性化に貢献した。

（6－3）　各種事業での県民協働の推進

・特別陳列「ごっついで那賀川」では、みどりのサポート隊（ボランティアグループ）との協働で展示を行った。
・部門展示「小川昌彦氏の蝶コレクション」、ロビー等での展示「「ジュニア学芸員講座」開催報告」を県民と協働して開催した。小規模な展示ではあるが、県民との協働により展示を実施する機会が最近は増えてきている。（1－6再掲）
・参加者公募型ワークショップとして、「県民とともに新常設展を考えるワークショップ」を2回開催した。
・普及行事の内、「出羽島歴史散歩」、「漂着物を探そう！&ビーチクラフトを楽しもう！」、「初めての植物かんさつ（6件）」、「ゼロから始める植物学（6件）」、「タンポポコーヒーでティータイム」、「県民とともに新常設展を考えるワークショップ（2件）」の6行事17件を県民との協働により実施した。今後も、県民との協働による行事運営の方法を模索したい。（2－4再掲）
・イベントボランティアを公募し、「こどもの日フェスティバル」、「科学体験フェスティバルin徳島」、「文化の森サマーフェスティバル」、「あすたむらんど徳島「おもしろ博士の実験室」」、「文化の森ウィンターフェスティバル」においてボランティアスタッフとの協働により行事を実施した。（2－4再掲）
・29年度から「みどりのサポート隊」を本格的に実施している。普及行事の改良や新たな行事の考案を協働して行った。新しいアイディアが得られ、普及行事にも反映することができた。普及行事の参加者に喜んでもらえるなど、成果が上がっている。（2－4再掲）

・30 年度の県民参画型調査については、合計 4 件で目標値を達成した。「タンポポの分布調査」を継続している「漂着物の調査」、「アサギマダラのマーキング調査」、「勝浦町の恐竜化石含有層（ボーン・ベッド）発掘調査」、「タンポポ調査・西日本 2020」が実施された。（3 － 3 再掲）

(7) シンクタンクとしての社会貢献

●中期活動目標及び 30 年度実績

中期活動目標の項目		評価指標	目標値	28 年度実績	29 年度実績	30 年度実績
7-1	レファレンス利用者の拡大	レファレンス件数	500 件 / 年	668	544	625
		周知状況		HP への記載	HP への記載	HP への記載
7-2	講師派遣等の推進	講師派遣等件数		41	26	35
		講演会等の受講者数		(1535)	(1325)	(1320)
7-3	自治体および各種機関・団体への専門知識の提供	委員等受託件数		30	31	28
		機関・団体等への協力状況		0	0	0
7-4	大学教育への寄与	非常勤講師受諾数		5	5	4
		学生・院生指導人数		0	0	0
		博物館実習生受入人数	20 人 / 年	17（9 大学）	10（5 大学）	13（8 大学）
		学芸員養成科目受講者数		106	128	67
7-5	学会・研究会の運営への寄与	学会等開催数		16	19	3
		学会等役員受託数		16	16	15
		学会等事務局受託数		6	7	5
7-6	博物館施設の連携強化への貢献	博物館関連団体委員等受諾数		8	8	8
		博物館関連団体加入数		6	6	6
		連携事業等の実施数		15	15	18
				移動展 6 回、四国地区博物館協議会及び徳島県博物館協議会講演会・研修会、海陽町立博物館・福井県立恐竜博物館との連携	移動展 0 回、四国地区博物館協議会及び徳島県博物館協議会講演会・研修会、海陽町立博物館・福井県立恐竜博物館との連携	移動展 2 回、徳島県博物館協議会講演会・研修会、海陽町立博物館・福井県立恐竜博物館との連携

●自己評価

（7 － 1）　レファレンス利用者の拡大

・レファレンス件数は 625 件で 29 年度から 81 件増加し、目標値 500 件を上回った。分野別の件数では、30 年度は動物（昆虫）がもっとも多い 169 件、次いで、地学 106 件、歴史 74 件であった。これらの分野で全体の 48.8％を占めていた。

・レファレンス業務は、博物館の蓄積した資源の有効活用の方法であり、シンクタンク機能の中核でもある。自然と歴史、文化に関する身近な相談所として博物館に親しんでもらえるよう、機会をとらえて周知を進めていく必要がある。

（７－２）　講師派遣等の推進

・30 年度の講師派遣は 35 件で、29 年度から 9 件増加した。分野別にみると、歴史が 17 件で最も多く、全体の 49％を占めた。

・派遣先の受講者数は、32 件において概数が記録されており、1,320 人であった。

（７－３）　自治体及び各種機関・団体への専門知識の提供

・各種委員会等の委員等受諾数は 28 件で、29 年度から 3 件減少した。これらのうち 15 件（54％）は動物・植物分野における自然環境の評価にかかわるもので占められており、県や国の公共事業における環境配慮や希少野生生物の保全対策事業に対応している。

・委員等に委嘱されずに各種機関･団体への協力を求められることもあるが、公共性の高いものについては、レファレンス業務や講師派遣等により可能な範囲で対応していることが多い。

（７－４）　大学教育への寄与

・30 年度の大学における非常勤講師の受諾数は 4 件で、29 年度より 1 件減少した。

・30 年度の博物館実習生の受入人数は 13 人で、29 年度に比べて 3 人増加した。

・30 年度は、学生・院生の研究指導はなかった。受入人数については、大学側の要望に応じて若干名を受け入れている。

・県内で学芸員養成を行っている徳島大学、鳴門教育大学、四国大学の「博物館資料保存論」、「博物館展示論」、「博物館教育論」について、大学や近代美術館、文書館と協力し、博物館講座室を会場として共同開講した。30 年度は、延べ 67 人を指導した。

（７－５）　学会・研究会の運営への寄与

・30 年度の学会や研究会の当館における開催数は 3 回で、29 年度に比べて 16 回減少した。そのうち 12 回分は、29 年度まで毎月例会が行われていた「みどりクラブ」が開催されなかったことによる。

・学会等役員受託数は 15 件で、29 年度より 1 件減少した。

・学会等の事務局受託数は 5 件で、29 年度より 2 件減少した。

（７－６）　博物館施設の連携強化への貢献

・博物館関連団体の委員等受託数は 8 件で、29 年度と同じだった。

・博物館関連団体加入数は 6 件で、29 年度と同じである。これらのうち 2 件は当館が事務局を引き受けている。

・他館等との連携事業数は 18 件で、29 年度より 3 件増加した。これは、恐竜化石のボーンベッドの発見により、福井県立恐竜博物館との連携事業が増加したことによる。30 年度は移動展を 2 回開催した。また、当館が事務局を担当している徳島県博物館協議会において講演会及び研修会を実施したほか、県内の博物館との連携事業を行った。

⑻ マネージメント（経営）

●中期活動目標及び 30 年度実績

中期活動目標の項目		評価指標	目標値	28 年度実績	29 年度実績	30 年度実績
8-1	利用しやすい博物館をめざす施設の改善	点検・改善の状況		常設展示の導入部一部展示更新 常設展示点検・修繕および改善 聴覚障がい者のための非常サインボードを展示室受付に設置	常設展示点検・修繕および改善	常設展示点検・修繕および改善 常設展リニューアルに向けての設計
8-2	博物館認知度の向上と利用者層の拡大	県民の博物館利用状況		常設展・企画展におけるアンケート調査	常設展・企画展におけるアンケート調査	常設展・企画展におけるアンケート調査
		県外利用者の割合		「自然コレクション」12％ 「トクシマ恐竜展」14％ 「徳島藩絵師のすがお」4％	「ザ・モンスター」20％ 「江戸幕府と徳島藩」10％	「阿波漁民ものがたり」8％ 「ジャングルいきもの図鑑」13％

8-3	県民参画の仕組みづくり、博物館運営支援組織のあり方等の検討	ボランティア導入事業件数		1件（公募ボランティア事業） ＊みどりのサポート隊の試行	2件（公募ボランティア事業、みどりのサポート隊）	2件（公募ボランティア事業、みどりのサポート隊）
8-4	設置者による理解及び外部資金の獲得	博物館予算の状況		2月補正後 46,487千円	2月補正後 30,787千円	2月補正後 91,683千円
		外部資金獲得数		申請7、採択5、継続4	申請6、採択5、継続5	申請3、採択1、継続8
8-5	防災意識の向上と危機管理体制の強化	防災訓練の実施状況		自衛消防隊の防火防災訓練 10月19日、11月17日 災害対応BCP（業務継続計画）訓練 11月7日	自衛消防隊の防火防災訓練 1月26日	自衛消防隊の防火防災訓練 1月26日
		危機管理体制の整備状況		考古収蔵庫の棚に落下防止ベルトを設置人文研究室書棚固定	植物・地学研究室書棚固定	分析室書棚固定
8-6	職員の意識改革と資質の向上	取り組み状況		文化庁・国立歴史民俗博物館等の研修 日本博物館協会全国博物館大会	文化庁等の研修 日本博物館協会全国博物館大会	文化庁等の研修 日本博物館協会全国博物館大会
8-7	博物館評価システムの構築	中期活動目標の状況		第3期中期活動目標の運用	第3期中期活動目標の運用	第3期中期活動目標の運用 第4期中期活動目標の検討
		自己点検評価の状況		27年度事業自己点検・評価を年報、HPに掲載	28年度事業自己点検・評価を年報、HPに掲載	29年度事業自己点検・評価を年報、HPに掲載
		外部評価の状況		博物館協議会 9月28日	博物館協議会 9月29日	博物館協議会 9月13日

●自己評価

（８－１）　利用しやすい博物館をめざす施設の改善

・展示室の点検を日常的に行い、修繕及び改善に努め、より多くの人たちが利用しやすい施設づくりに努めた。

・常設展リニューアルに向けての設計が始まり、利用しやすい展示室へと抜本的に改装するための検討に取り組んだ。

（８－２）　博物館認知度の向上と利用者層の拡大

・30年度も企画展で観覧者へのアンケートを行った。アンケート結果によれば、80～90％が県内在住者であった。県外の利用者の割合は、春季企画展「阿波漁民ものがたり」で８％、夏季企画展「ジャングルいきもの図鑑」で13％、特別陳列「ごっついで那賀川」で３％であった。

・文化の森の他館と連携して、イベントや展示等の広報の強化に努めた。

・各種団体からの依頼により入館料の減免を行っている。30年度は17件であった。

・25年度から始めた講座室の有料貸し出しについては、30年度は4件であった。

（８－３）　県民参画の仕組みづくり、博物館運営支援組織のあり方等の検討

・公募ボランティアと職員の協働を継続し、「科学体験フェスティバルin徳島」（徳島大学）「おもしろ博士の実験室」（あすたむらんど徳島）に出展したほか、「文化の森ウィンターフェスティバル」におけるイベント「博物館Ｖキング」を実施した。

・様々な連携による事業展開は、運営基盤の強化につながる取り組みであり、意義があった。

（８－４）　設置者による理解及び外部資金の獲得

・厳しい財政状況のなか、30年度もシーリングが継続された。

・外部資金は、日本学術振興会科学研究費助成金等公的な研究助成を１件申請し、新規採択０件、継続７件であった。民間資金は、展覧事業のサポートに関するものを１件申請し、採択されたほか、調査研究に関するものでは、申請１件、採択０件であったが、継続が１件あった。

（８－５）　防災意識の向上と危機管理体制の強化

・自衛消防隊の防災訓練を１月に行った。
・地震対策として分析室の書棚の固定を行った。
・様々な災害や非常事態に対応できるよう、職員各人の防災意識の喚起と危機管理体制の強化に努めたい。

（８－６）　職員の意識改革と資質向上

・文化庁や日本博物館協会などが開催した研修会等に、職員 10 人を派遣した。

（８－７）　博物館評価システムの構築

・26 年９月に策定した第３期中期活動目標にもとづいて、29 年度事業の自己評価を行った。その内容は、年報やホームページに掲載した。また、博物館協議会において討議いただいた（外部評価）。
・第３期中期活動目標が 30 年度をもって終了することから、第４期目標の検討を行い、素案をまとめた。

X　観覧者等統計

減免範囲の変更などにより、無料観覧者数の変動が生じているので、開館以来一貫した基準での統計にはなっていない。経年的な観覧者数の推移を見る場合、注意が必要である。

●総利用者年度別累計

（単位：人）

年度	常設展			企画展観覧者	特別陳列観覧者	移動展等観覧者	普及行事参加者	その他	利用者総数
	有料観覧者	無料観覧者	観覧者合計						
2	88,722	8,555	97,277	0	0	—	646	—	97,923
3	99,282	37,835	137,117	24,237	0	—	1,387	—	162,741
4	57,861	21,272	79,133	23,092	6,712	—	1,718	—	110,655
5	48,943	20,537	69,480	19,175	4,090	—	1,686	—	94,431
6	35,369	16,778	52,147	19,758	3,165	—	2,843	—	77,913
7	33,048	23,325	56,373	32,545	5,358	—	4,132	—	98,408
8	22,434	34,687	57,121	16,101	0	—	2,419	—	75,641
9	18,573	26,147	44,720	12,200	0	—	2,232	—	59,152
10	16,590	22,301	38,891	16,041	0	—	1,890	—	56,822
11	14,870	23,018	37,888	12,738	22,372	—	2,461	—	75,459
12	14,852	23,280	38,132	33,415	1,850	—	4,513	1,561	79,471
13	12,205	19,833	32,038	12,159	5,766	—	3,634	2,137	55,734
14	10,034	27,315	37,349	13,235	5,850	1,328	3,414	1,735	62,911
15	11,313	28,484	39,797	24,877	10,015	—	4,501	2,628	81,818
16	12,964	31,705	44,669	32,810	8,924	898	3,692	4,829	95,822
17	10,265	25,372	35,637	18,444	7,323	7,419	5,944	4,629	79,396
18	11,575	29,900	41,475	23,285	7,200	481	6,143	6,763	85,347
19	10,312	30,320	40,632	38,263	5,168	5,381	5,140	75,854	170,438
20	9,037	28,134	37,171	21,207	7,517	6,249	6,041	11,963	90,148
21	10,394	32,035	42,429	19,157	24,781	1,614	8,535	35,260	131,776
22	9,244	25,810	35,054	12,465	10,364	5,376	10,329	30,071	103,659
23	6,803	32,728	39,531	7,759	15,336	1,663	6,594	9,979	80,862
24	5,808	36,737	42,545	22,447	13,344	1,824	10,797	6,097	97,054
25	6,023	37,132	43,155	13,552	10,008	742	13,089	4,629	85,175
26	5,164	32,781	37,945	29,849	1,537	8,512	10,189	5,391	93,423
27	6,268	38,158	44,426	7,186	12,963	2,506	9,212	17,579	93,872
28	6,816	61,637	68,453	74,076	2,167	92,572	9,146	7,550	253,964
29	5,667	38,481	44,148	30,081	19,687	0	8,206	15,924	118,046
30	5,690	37,821	43,511	19,666	8,635	18,131	7,250	7,722	104,915
累　計	606,126	852,118	1,458,244	629,820	220,132	154,696	157,783	252,301	2,872,976

・特別陳列は自主事業のみの観覧者数。「その他」は、人権啓発展と共催事業を合わせた観覧者数。
・「その他」に、出前授業の人数を加算（平成 25 年度～）

●平成 30 年度　常設展観覧者数

（単位：人）

月	開館日数	有料観覧者							無料観覧者																	観覧者総数
		個人			団体（割引 20%）			有料観覧者計	学校教育										個人						無料観覧者計	
		一般	高校・大学生	小・中学生	一般	高校・大学生	小・中学生		幼稚・保育園		小学校		中学校		高校		計		小学生	中学生	高校生	障がい者	高齢者	その他		
									園	人数	校	人数	校	人数	校	人数	校	人数								
4 月	26	291	12	8	103	0	3	417	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	322	22	22	59	198	697	1,320	1,737
5 月	27	330	15	7	390	1	4	747	9	421	19	1,282	1	113	0	0	29	1,816	522	20	12	94	241	1,845	4,550	5,297
6 月	26	378	10	4	150	3	1	546	2	42	7	211	0	0	1	8	10	261	219	14	19	41	174	350	1,078	1,624
7 月	26	229	2	6	110	0	1	348	8	175	9	123	2	25	0	0	19	323	895	62	39	99	267	2,320	4,005	4,353
8 月	28	—	—	—	—	—	—	—	2	62	4	59	0	0	0	0	6	121	2,407	169	99	78	971	7,994	11,839	11,839
9 月	25	393	23	4	189	2	1	612	0	0	4	345	0	0	0	0	4	345	554	22	24	89	360	1,773	3,167	3,779
10 月	26	434	11	5	156	0	0	606	6	229	11	577	0	0	0	0	17	806	242	18	20	74	296	541	1,997	2,603
11 月	26	105	4	0	39	0	0	148	6	364	10	431	0	0	0	0	16	795	348	73	223	72	339	1,615	3,465	3,613
12 月	24	232	15	4	107	0	0	358	1	11	3	47	0	0	1	12	5	70	174	7	9	60	193	410	923	1,281
1 月	23	423	18	1	200	1	0	643	2	101	1	16	0	0	0	0	3	117	259	15	16	50	203	655	1,315	1,958
2 月	24	369	25	1	164	5	1	565	3	58	6	229	0	0	0	0	9	287	521	34	19	57	364	1,403	2,685	3,250
3 月	27	452	29	5	177	36	1	700	2	56	3	44	0	0	0	0	5	100	343	20	34	42	357	581	1,477	2,177
計	308	3,636	164	45	1,785	48	12	5,690	41	1,519	77	3,364	3	138	2	20	123	5,041	6,806	476	536	815	3,963	20,184	37,821	43,511

＊7 月 21 日（土）～ 9 月 3 日（月）は、「家族でおでかけ・節電キャンペーン」により無料。9 月 4 日（火）は台風 21 号接近による臨時休館

●平成 30 年度　企画展観覧者数

（単位：人）

企画展名	開催期間	開催日数	有料観覧者							有料観覧者計	無料観覧者																無料観覧者計	観覧者総数
			個人			団体（割引 20%）			減免(割引 50%)		学校教育										個人							
			一般	高校・大学生	小・中学生	一般	高校・大学生	小・中学生	高齢者		幼稚・保育園		小学校		中学校		高校		計		小学生	中学生	高校生	障がい者	その他			
											園	人数	校	人数	校	人数	校	人数	校	人数								
第 1 回企画展「阿波漁民ものがたり―海を渡り歩いた漁師たちの5つの話―」	30. 4. 27 ～ 6. 10	39	364	22	0	311	0	0	322	1,148	9	421	22	1,342	1	113	0	0	32	1,876	305	19	16	174	790	3,180	4,328
第 2 回企画展「ジャングルいきもの図鑑」	30. 7. 20 ～ 9. 9	52	3,589	42	0	1,816	10	0	885	6,342	7	196	12	172	0	0	0	0	19	368	3,761	246	179	575	3,867	8,996	15,338
合　計		91	3,953	64	0	2,127	10	0	1,207	7,490	16	617	34	1,514	1	113	0	0	51	2,244	4,066	265	195	749	4,657	12,176	19,666

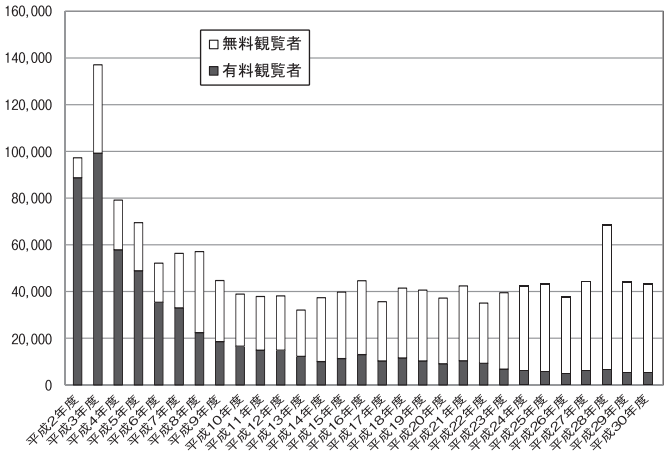
●常設展観覧数累計（平成 2 ～ 30 年度）

（単位：人）

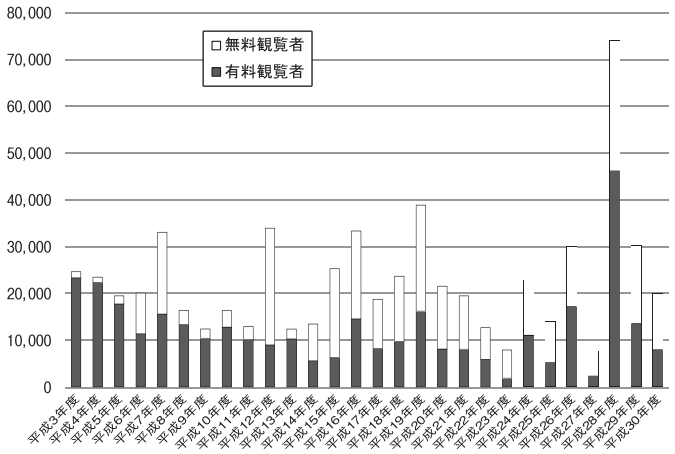
年度	開館日数	有料観覧者												無料観覧者														観覧者総数
		個人			団体（割引 20%）			減免（割引 50%）					有料観覧者計	学校教育											高齢者障がい者	その他	無料観覧者計	
								大人						幼稚・保育園		小学校		中学校		高校		計		土・日・祝・休業期間				
		一般	高校・大学生	小・中学生	一般	高校・大学生	小・中学生	高齢者	障がい者	計	高校・大学生	小・中学生		園	人数	校	人数	校	人数	校	人数	校	人数					
2	118	49,512	4,218	16,163	6,686	76	1,603	9,788	571	10,359	57	48	88,722	—	—	55	4,877	6	640	12	1,972	73	7,489	—	—	1,066	8,555	97,277
3	301	55,578	4,749	20,287	6,876	271	1,421	9,319	709	10,028	19	53	99,282	—	—	202	26,165	44	6,960	21	2,443	267	35,568	—	—	2,267	37,835	137,117
4	299	33,150	3,318	12,505	3,285	194	420	4,482	446	4,928	48	13	57,861	—	—	114	10,781	23	3,709	14	3,305	151	17,795	1,401	—	2,076	21,272	79,133
5	300	28,762	2,413	10,974	2,629	251	364	3,306	239	3,545	2	3	48,943	5	293	118	12,204	22	2,939	6	832	151	16,268	1,398	—	2,871	20,537	69,480
6	299	20,640	1,712	8,149	1,807	159	330	2,399	150	2,549	5	18	35,369	38	2,547	90	7,980	22	3,246	9	730	159	14,503	1,195	—	1,080	16,778	52,147
7	300	19,950	1,353	7,556	867	220	217	2,639	243	2,882	3	0	33,048	27	1,542	99	8,641	20	3,311	4	253	150	13,747	2,085	—	7,493	23,325	56,373
8	305	13,294	922	5,326	891	44	96	1,699	144	1,843	3	15	22,434	30	1,788	81	8,114	18	2,780	7	776	136	13,458	1,390	—	19,839	34,687	57,121
9	306	11,115	791	3,957	706	149	53	1,563	219	1,782	17	3	18,573	24	1,261	80	6,059	21	2,994	7	746	132	11,060	829	—	14,258	26,147	44,720
10	307	10,039	700	4,008	446	28	93	1,129	135	1,264	1	11	16,590	16	990	52	3,823	8	988	5	954	81	6,755	1,337	—	14,209	22,301	38,891
11	307	8,778	642	3,595	390	148	89	1,027	179	1,206	1	21	14,870	25	913	62	4,323	12	1,472	7	583	106	7,291	1,881	—	13,846	23,018	37,888
12	306	8,653	484	3,351	456	153	132	1,371	241	1,612	1	10	14,852	33	1,270	58	3,654	11	1,905	6	546	108	7,375	2,161	—	13,744	23,280	38,132
13	306	6,950	418	2,810	608	3	56	1,217	132	1,349	3	8	12,205	20	920	58	2,771	14	1,409	6	441	98	5,541	2,275	—	12,017	19,833	32,038
14	306	7,661	372	130	381	68	89	1,126	206	1,332	1	0	10,034	25	1,158	42	3,382	8	1,006	6	630	81	6,176	11,373	—	9,766	27,315	37,349
15	307	8,724	363	111	380	117	2	1,490	125	1,615	1	0	11,313	27	1,365	55	4,105	5	447	6	571	93	6,488	11,732	—	10,264	28,484	39,797
16	305	9,769	393	114	608	63	1	1,803	208	2,011	1	4	12,964	38	1,393	73	4,063	13	730	8	282	132	6,468	13,532	—	11,705	31,705	44,669
17	306	7,570	281	73	356	95	2	1,616	271	1,887	0	1	10,265	32	1,240	52	3,440	11	789	2	314	97	5,783	10,432	—	9,157	25,372	35,637
18	307	8,917	413	46	566	5	0	1,451	176	1,627	0	1	11,575	39	1,579	61	4,472	12	605	5	511	117	7,167	11,252	—	11,481	29,900	41,475
19	308	7,651	351	78	504	13	2	1,480	230	1,710	3	0	10,312	34	1,453	62	4,056	8	609	3	257	107	6,375	10,448	—	13,497	30,320	40,632
20	306	6,785	386	54	474	37	0	1,122	177	1,299	0	2	9,037	33	1,364	56	3,241	6	543	2	54	97	5,202	10,352	—	12,580	28,134	37,171
21	307	7,608	357	71	661	38	1	1,330	325	1,655	1	2	10,394	33	1,397	69	4,892	15	828	5	454	122	7,571	11,042	—	13,422	32,035	42,429
22	306	6,631	307	53	634	40	4	1,308	265	1,573	2	0	9,244	31	1,420	54	3,596	10	512	6	280	101	5,808	8,795	—	11,207	25,810	35,054
23	309	4,552	218	79	784	71	4	766	316	1,082	6	7	6,803	30	1,471	62	3,548	10	751	5	503	107	6,273	9,043	—	17,412	32,728	39,531
24	308	4,675	184	52	598	0	1	254	44	298	0	0	5,808	34	1,783	53	3,641	5	154	5	403	97	5,981	4,198	2,706	18,448	31,333	37,141
25	307	5,148	195	55	585	32	8	—	—	—	—	—	6,023	28	1,332	52	3,017	3	218	3	194	86	4,761	10,356	2,875	19,140	37,132	43,155
26	306	3,884	237	38	844	157	4	—	—	—	—	—	5,164	24	1,273	56	3,212	6	220	7	406	93	5,111	8,277	3,343	16,050	32,781	37,945
27	292	4,200	197	47	1,721	84	19	—	—	—	—	—	6,268	19	1,137	56	3,115	0	0	1	37	76	4,289	8,774	4,860	20,235	38,158	44,426
28	308	4,809	178	45	1,753	19	12	—	—	—	—	—	6,816	26	937	58	2,852	3	91	1	25	88	3,905	15,409	6,112	36,211	61,637	68,453
29	308	3,673	177	49	1,653	112	3	—	—	—	—	—	5,667	32	1,274	63	3,102	3	189	7	299	105	4,864	9,198	4,498	19,915	38,475	44,142
30	308	3,636	164	45	1,785	48	12	—	—	—	—	—	5,690	41	1,519	77	3,364	3	138	2	20	123	5,041	7,818	4,778	20,184	37,821	43,511
計	8,658	372,314	26,493	99,821	39,934	2,695	5,038	53,685	5,751	59,436	175	220	600,436	703	33,100	1,993	157,126	339	40,045	176	18,801	3,334	249,072	187,983	29,172	375,440	808,887	1,409,323

（※）平成 24 年 9 月より、高齢者（65 歳以上）及び障がい者は無料。

●常設展観覧者数（平成 2 ～ 30 年度）



●企画展観覧者数（平成 3 ～ 30 年度）



●企画展観覧者数累計

（単位：人）

年度	名称	開催期間	開催日数	有料観覧者											無料観覧者					観覧者総数
				個人			団体（割引20%）			減免（割引50%）										
										一般				有料観覧者計	一般	高校・大学生	小・中学生	その他	無料観覧者計	
				一般	高校・大学生	小・中学生	一般	高校・大学生	小・中学生	高齢者	障がい者	計	高校・大学生	小・中学生						
3 (1991)	里帰り文化財名品展	H3.4.5～H3.5.5	27	5,474	286	787	58	30	0	1,497	22	1,519	20	0	8,174	—	—	—	513	513	8,687
	和泉層群の化石	H3.7.21～H3.9.1	37	4,755	547	2,594	62	0	161	259	15	274	0	2	8,395	—	—	—	259	259	8,654
	人形芝居がやってきた	H3.10.11～H3.11.10	27	1,381	35	138	246	0	500	323	7	330	0	0	2,630	—	—	—	217	217	2,847
	阿波の刀剣	H4.2.18～H4.3.22	29	2,723	210	277	38	0	0	462	40	502	0	0	3,750	—	—	—	299	299	4,049
	平成3年度小計		120	14,333	1,078	3,796	404	30	661	2,541	84	2,625	20	2	22,949	—	—	—	1,288	1,288	24,237
4 (1992)	四国の古墳	H4.4.24～H4.5.24	26	2,566	256	745	169	55	31	473	21	494	0	0	4,316	—	—	—	387	387	4,703
	甲虫の世界	H4.7.21～H4.8.30	36	8,404	603	6,032	163	0	116	264	20	284	0	5	15,607	—	—	—	349	349	15,956
	徳島の指定文化財	H4.10.20～H4.11.15	24	1,299	56	79	144	0	0	439	9	448	0	0	2,026	—	—	—	407	407	2,433
	平成4年度小計		86	12,269	915	6,856	476	55	147	1,176	50	1,226	0	5	21,949	—	—	—	1,143	1,143	23,092
5 (1993)	祈り・のろい・はらい	H5.4.20～H5.5.23	29	1,989	362	492	0	0	0	236	8	244	0	0	3,087	—	—	—	274	274	3,361
	南アメリカの自然	H5.7.24～H5.9.5	38	6,745	561	3,835	191	6	313	284	13	297	1	0	11,949	—	—	—	257	257	12,206
	烏居龍蔵の見たアジア	H5.10.12～H5.11.21	37	1,524	79	148	84	21	83	460	7	467	1	0	2,407	—	—	—	1,201	1,201	3,608
	平成5年度小計		104	10,258	1,002	4,475	275	27	396	980	28	1,008	2	0	17,443	—	—	—	1,732	1,732	19,175
6 (1994)	人間に光あれ	H6.4.26～H6.5.29	29	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	4,811	462	2,098	—	7,371	7,371
	祖谷　その自然とくらし	H6.7.26～H6.9.4	36	1,910	131	444	104	0	41	336	12	348	0	1	2,979	—	—	—	266	266	3,245
	描かれた弥生人のくらし	H6.10.7～H6.11.13	33	800	56	184	61	0	236	209	3	212	0	0	1,549	—	—	—	258	258	1,807
	東洲斎写楽と役者絵の世界	H7.3.4～H7.3.19	14	4,883	521	432	57	0	0	719	21	740	0	5	6,638	—	—	—	697	697	7,335
	平成6年度小計		112	7,593	708	1,060	222	0	277	1,264	36	1,300	0	6	11,166	4,811	462	2,098	1,221	8,592	19,758
7 (1995)	よみがえる古代の輝き	H7.4.21～H7.5.21	26	2,595	279	601	6	10	561	446	18	464	0	0	4,516	—	—	—	468	468	4,984
	貝の世界	H7.7.22～H7.9.3	38	5,837	490	3,773	77	0	183	416	37	453	0	3	10,816	—	—	—	2,127	2,127	12,943
	戦争から豊かな未来へ	H7.10.17～H7.11.19	30	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	10,103	499	4,016	—	14,618	14,618
	平成7年度小計		94	8,432	769	4,374	83	10	744	862	55	917	0	3	15,332	10,103	499	4,016	2,595	17,213	32,545
8 (1996)	銅鐸の美	H8.4.2～H8.5.12	36	2,199	362	528	2	0	843	485	30	515	27	0	4,476	—	—	—	1,524	1,524	6,000
	鉱物の世界	H8.7.19～H8.9.1	39	3,631	432	1,908	24	0	0	359	22	381	5	1	6,382	—	—	—	981	981	7,363
	目で見る博物学	H8.10.18～H8.12.1	39	1,214	75	245	2	37	487	210	12	222	1	0	2,283	—	—	—	455	455	2,738
	平成8年度小計		114	7,044	869	2,681	28	37	1,330	1,054	64	1,118	33	1	13,141	—	—	—	2,960	2,960	16,101
9 (1997)	阿波の近世絵画	H9.4.22～H9.5.18	24	1,214	52	38	4	0	267	445	7	452	0	0	2,027	—	—	—	379	379	2,406
	吉野川の自然	H9.7.18～H9.8.31	39	2,612	233	914	0	0	0	448	27	475	0	1	4,235	—	—	—	938	938	5,173
	ネアンデルタール人の復活	H9.9.20～H9.10.26	32	2,196	187	573	43	13	553	369	19	388	4	0	3,957	—	—	—	664	664	4,621
	平成9年度小計		95	6,022	472	1,525	47	13	820	1,262	53	1,315	4	1	10,219	—	—	—	1,981	1,981	12,200
10 (1998)	海はむすぶ	H10.4.21～H10.5.24	30	937	43	157	3	3	24	184	17	201	0	0	1,368	—	—	—	465	465	1,833
	チョウとガ	H10.7.18～H10.8.30	38	4,456	183	3,349	38	0	141	249	37	286	0	9	8,462	—	—	—	2,427	2,427	10,889
	瀬戸内海のおいたち	H10.10.10～H10.11.23	39	971	40	260	12	0	1,202	227	17	244	0	6	2,735	—	—	—	584	584	3,319
	平成10年度小計		107	6,364	266	3,766	53	3	1,367	660	71	731	0	15	12,565	—	—	—	3,476	3,476	16,041
11 (1999)	大名行列	H11.4.20～H11.5.23	30	1,752	74	298	0	7	725	442	26	468	0	1	3,325	—	—	—	426	426	3,751
	伊能忠敬が描いた日本	H11.9.10～H11.10.11	28	2,189	267	461	3	22	133	475	22	497	0	5	3,577	—	—	—	659	659	4,236
	新発見考古速報展　発掘された日本列島'99	H11.10.24～H11.11.21	25	1,861	128	297	111	49	46	532	38	570	0	1	3,063	—	—	—	1,688	1,688	4,751
	平成11年度小計		83	5,802	469	1,056	114	78	904	1,449	86	1,535	0	7	9,965	—	—	—	2,773	2,773	12,738
12 (2000)	藍のよそおい	H12.4.18～H12.5.21	30	1,851	96	52	9	0	0	626	22	648	0	0	2,656	—	—	—	383	383	3,039
	さよなら20世紀―カメラがとらえた日本の100年	H12.6.1～H12.7.9	34	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	6,745	6,745	6,745
	侵入者たち	H12.7.18～H12.9.10	48	3,374	240	2,134	21	0	79	288	36	324	0	6	6,178	—	—	—	1,669	1,669	7,847
	世紀末大博覧会	H12.10.20～H12.11.26	33	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	9,888	741	5,155	—	15,784	15,784
	平成12年度小計		145	5,225	336	2,186	30	0	79	914	58	972	0	6	8,834	9,888	741	5,155	8,797	24,581	33,415
13 (2001)	クントゥル・ワシ神殿の発掘	H13.4.6～H13.5.6	27	3,326	267	520	38	0	179	838	42	880	1	5	5,216	—	—	—	821	821	6,037
	門出のセレモニー	H13.7.17～H13.8.26	36	889	65	89	55	0	0	224	6	230	1	0	1,329	—	—	—	489	489	1,818
	信仰と美術	H14.2.19～H14.3.21	27	2,087	112	125	53	37	18	1,075	37	1,112	0	0	3,544	—	—	—	760	760	4,304
	平成13年度小計		90	6,302	444	734	146	37	197	2,137	85	2,222	2	5	10,089	—	—	—	2,070	2,070	12,159
14 (2002)	貝化石が語る海の記憶	H14.4.12～H14.5.12	27	2,125	47	32	0	0	0	300	11	311	0	0	2,515	—	486	2,545	771	3,802	6,317
	海道をゆく	H14.7.20～H14.9.1	39	1,108	51	0	6	0	0	210	11	221	0	0	1,386	—	55	1,051	702	1,808	3,194
	古代のわざ	H14.10.11～H14.11.10	27	1,148	37	4	28	0	0	347	14	361	0	0	1,578	—	60	1,618	468	2,146	3,724
	平成14年度小計		93	4,381	135	36	34	0	0	857	36	893	0	0	5,479	—	601	5,214	1,941	7,756	13,235
15 (2003)	歴史を決めた戦い	H15.4.22～H15.5.25	30	1,930	67	15	0	0	0	558	29	587	0	0	2,599	—	483	1,567	704	2,754	5,353
	アイヌ工芸品展	H15.7.19～H15.8.31	38	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	317	2,455	7,657	10,429	10,429
	アンモナイトのすべて	H15.10.17～H15.11.24	34	2,892	106	35	32	0	0	524	25	549	0	0	3,614	—	266	3,757	1,458	5,481	9,095
	平成15年度小計		102	4,822	173	50	32	0	0	1,082	54	1,136	0	0	6,213	—	1,066	7,779	9,819	18,664	24,877
16 (2004)	サメの世界	H16.4.24～H16.5.30	32	6,328	182	67	36	33	0	521	51	572	0	1	7,219	—	182	6,622	2,681	9,485	16,704
	エビとカニ	H16.8.12～H16.9.20	34	5,008	112	20	7	2	0	386	31	417	0	1	5,567	—	128	3,689	2,581	6,398	11,965
	石とくらし	H16.10.22～H16.11.28	33	1,138	16	31	22	0	0	304	12	316	0	1	1,524	—	55	1,795	767	2,617	4,141
	平成16年度小計		99	12,474	310	118	65	35	0	1,211	94	1,305	0	3	14,310	—	365	12,106	6,029	18,500	32,810
17 (2005)	縄文の美	H17.4.26～H17.5.29	30	2,254	100	20	3	12	0	619	26	645	0	0	3,034	—	187	2,388	650	3,225	6,259
	絶滅	H17.7.22～H17.8.31	36	3,482	157	0	9	0	0	355	27	382	0	0	4,030	—	227	3,355	1,528	5,110	9,140
	ふるさと再発見	H17.10.22～H17.11.27	32	595	14	6	0	0	0	411	10	421	0	0	1,036	—	29	1,451	529	2,009	3,045
	平成17年度小計		98	6,331	271	26	12	12	0	1,385	63	1,448	0	0	8,100	—	443	7,194	2,707	10,344	18,444
18 (2006)	奇跡の化石たち	H18.4.28～H18.6.18	45	3,900	113	32	106	0	0	538	41	579	0	0	4,730	—	273	5,189	1,640	7,102	11,832
	世界の種と実	H18.7.22～H18.8.31	36	3,076	122	0	4	0	0	373	71	444	0	0	3,646	—	142	3,187	1,114	4,443	8,089
	海人の見た世界	H18.10.7～H18.11.26	44	789	13	2	30	0	0	334	24	358	0	0	1,192	—	74	1,535	563	2,172	3,364
	平成18年度小計		125	7,765	248	34	140	0	0	1,245	136	1,381	0	0	9,568	—	489	9,911	3,317	13,717	23,285
19 (2007)	ミネラルズ	H19.4.27～H19.6.3	33	3,245	119	34	193	3	1	408	65	473	0	0	4,068	—	371	4,307	1,117	5,795	9,863
	世界の甲虫	H19.7.21～H19.9.24	58	9,043	143	7	182	1	0	768	193	961	0	0	10,337	—	200	8,156	5,451	13,807	24,144
	新発見考古速報展　発掘された日本列島2007	H19.11.13～H19.12.9	24	890	24	19	77	0	1	457	63	520	0	0	1,531	—	35	974	1,716	2,725	4,256
	平成19年度小計		115	13,178	286	60	452	4	2	1,633	321	1,954	0	0	15,936	—	606	13,437	8,284	22,327	38,263
20 (2008)	郷土の発見	H20.4.26～H20.5.25	26	292	35	0	3	0	0	149	9	158	0	0	488	—	28	1,217	1,172	2,417	2,905
	動物大集合	H20.7.19～H20.8.31	38	4,454	106	0	119	1	0	441	120	561	0	0	5,241	—	196	4,249	2,966	7,411	12,652
	香りの世界	H20.10.18～H20.11.24	33	1,630	68	6	63	1	0	436	46	482	3	0	2,253	—	132	2,161	1,104	3,397	5,650
	平成20年度小計		97	6,376	209	6	185	2	0	1,026	175	1,201	3	0	7,982	—	356	7,627	5,242	13,225	21,207
21 (2009)	シーラカンス	H21.4.25～H21.6.14	44	5,212	202	46	202	1	1	628	139	767	1	1	6,433	—	528	6,498	2,017	9,043	15,476
	生誕200年　守住貫魚	H21.10.17～H21.11.23	33	755	16	3	32	0	0	635	43	678	0	1	1,485	—	23	1,191	982	2,196	3,681
	平成21年度小計		77	5,967	218	49	234	1	1	1,263	182	1,445	1	2	7,918	—	551	7,689	2,999	11,239	19,157
22 (2010)	ヒマラヤ	H22.4.29～H22.6.6	34	1,927	40	9	93	0	0	916	50	966	0	0	3,035	—	143	2,112	619	2,874	5,909
	藍染めの表象	H22.10.5～H22.11.11	30	709	52	1	23	0	0	429	35	464	0	0	1,249	—	103	1,467	718	2,288	3,537
	聖地★巡礼	H23.2.11～H23.3.21	34	960	50	6	22	0	0	426	49	475	0	0	1,513	—	21	394	1,091	1,506	3,019
	平成22年度小計		98	3,596	142	16	138	0	0	1,771	134	1,905	0	0	5,797	—	267	3,973	2,428	6,668	12,465
23 (2011)	人形☆ひとがた	H23.4.23～H23.6.5	38	488	43	0	28	0	0	249	140	389	1	1	950	—	327	2,394	777	3,498	4,448
	描かれた地震	H23.10.21～H23.11.27	33	500	45	5	31	0	0	274	24	298	0	0	879	—	56	1,687	689	2,432	3,311
	平成23年度小計		71	988	88	5	59	0	0	523	164	687	1	1	1,829	—	383	4,081	1,466	5,930	7,759
24 (2012)	ほねほねワールド	H24.7.20～H24.9.2	39	6,710	187	0	209	2	0	668	137	805	2	0	7,915	—	206	5,806	3,531	9,543	17,458
	日本のわざと美	H24.10.20～H24.11.25	32	1,567	28	4	62	0	0	1,212	—	1,212	—	—	2,873	—	47	1,266	803	2,116	4,989
	平成24年度小計		71	8,277	215	4	271	2	0	1,880	137	2,017	2	0	10,788	—	253	7,072	4,334	11,659	22,447
25 (2013)	天下の台所大坂と徳島	H25.4.27～H25.6.9	38	754	44	1	27	0	0	398	—	398	—	—	1,224	—	43	2,026	794	2,863	4,087
	エイリアン・スピーシーズ	H25.7.19～H25.9.1	40	2,912	60	0	87	0	0	358	—	358	—	—	3,417	—	134	3,612	2,302	6,048	9,465
	平成25年度小計		78	3,666	104	1	114	0	0	756	—	756	—	—	4,641	—	177	5,638	3,096	8,911	13,552
26 (2014)	いただきま～す！	H26.4.25～H26.6.8	39	825	33	1	37	21	0	240	—	240	—	—	1,157	—	306	2,326	862	3,494	4,651
	まんまるワールド	H26.7.19～H26.8.31	38	2,732	34	0	390	3	0	639	—	639	—	—	3,798	—	106	2,931	2,838	5,875	9,673
	空海の足音　四国へんろ展［徳島編］	H26.10.25～H26.11.30	32	7,098（前売・当日合算）	—	—	203（前売料金）	—	—	4,415（一般料金の200円割引）	—	—	—	—	11,716	—	110	1,275	2,424	3,809	15,525
	平成26年度小計		109	10,655	67	1	630	24	0	5,294	—	879	—	—	16,671	—	522	6,532	6,124	13,178	29,849
27 (2015)	瓦から見る古代の阿波	H27.4.24～H27.6.7	39	458	18	3	112	2	0	355	—	355	—	—	948	—	34	1,977	1,259	3,270	4,218
	阿波木偶箱まわしの世界	H27.10.31～H27.11.29	26	240	21	0	114	2	5	472	—	472	—	—	854	—	64	660	1,390	2,114	2,968
	平成27年度小計		65	698	39	3	226	4	5	827	—	827	—	—	1,802	—	98	2,637	2,649	5,384	7,186
28 (2016)	自然だいすき！みんなの自然コレクション	H28.4.20～H28.6.12	47	1,769	35	18	640	6	5	327	—	327	—	—	2,800	—	55	3,645	2,856	6,556	9,356
	トクシマ恐竜展	H28.7.15～H28.9.19	59	27,275（前売・当日合算）	251	11,848	35（当日一般200円引）	1	86	3,155（当日一般200円引）	—	3,155	—	—	42,651	—	—	—	19,625	19,625	62,276
	徳島藩総師のすがお	H28.10.22～H28.11.20	26	233	11	0	62	0	0	331	—	331	—	—	637	—	10	744	1,053	1,807	2,444
	平成28年度小計		132	29,277	297	11,866	737	7	91	3,813	—	3,813	—	—	46,088	—	65	4,389	23,534	27,988	74,076
29 (2017)	ザ・モンスター～海と陸のへんてこ生物たち～	H29.7.22～H29.9.10	45	7,391	115	9	2,766	23	1	1,512	—	1,512	—	—	11,817	—	207	7,320	6,642	14,169	25,986
	江戸幕府と徳島藩―幕藩制改革からみる江戸時代―	H29.10.14～H29.11.19	32	466	13	13	181	2	1	622	—	622	—	—	1,298	—	213	1,304	1,280	2,797	4,095
	平成29年度小計		77	7,857	128	22	2,947	25	2	2,134	—	2,134	—	—	13,115	—	420	8,624	7,922	16,966	30,081
30 (2018)	阿波漁民ものがたり―海を渡り歩いた漁師たちの5つの話―	H30.4.27～H30.6.10	39	364	22	0	311	0	0	451	—	451	—	—	1,148	—	0	1,455	1,725	3,180	4,328
	ジャングルいきもの図鑑	H30.7.20～H30.9.9	52	3,589	42	0	1,816	10	0	885	—	885	—	—	6,342	—	0	172	8,824	8,996	15,338
	平成30年度小計		91	3,953	64	0	2,127	10	0	1,336	—	1,336	—	—	7,490	—	0	1,627	10,549	12,176	19,666
総計			2,671	212,048	10,194	44,784	7,334	391	7,021	40,201	2,166	37,952	68	57	324,264	24,802	7,944	118,175	124,554	275,475	599,739

（※）平成14年度から小・中学生及び高校生の土・日曜日、祝・休日、長期休業日における観覧料が無料となり、学校教育による観覧料も無料となった。これに伴い、無料観覧者の計数基準が変更されている。
（※）平成24年9月から障がい者とその介助者1人の観覧料が無料となった。

●特別陳列観覧者数累計（平成 4 ～ 30 年度）

（単位：人）

展示会名	開催期間	開催日数	観覧者総数
第 1 回館蔵品展	平 5．2．16 ～ 3．21	29	6,712
掘ったでよ阿波	平 6．2．1 ～ 2．27	23	4,090
掘ったでよ阿波	平 7．1．13 ～ 2．5	21	3,165
第 2 回収蔵品展	平 8．2．16 ～ 3．17	27	5,358
第 3 回館蔵品展 「自然コレクション」	平 11．7．17 ～ 8．29	38	22,372
写生大会作品展	平 12．12．5 ～ 12．24	18	1,850
勝瑞時代 ―細川・三好氏と阿波―	平 13．10．25 ～ 11．25	32	5,766
丹波マンガン鑛山の記録 ―在日コリアンの労働史―	平 14．6．25 ～ 7．7	12	1,195
楠コレクションの美術・歴史資料	平 15．1．21 ～ 3．2	36	4,655
知里幸恵生誕 100 年記念巡回展 自由の天地を求めて ―知里幸恵『アイヌ神謡曲集』への道―	平 15．7．19 ～ 7．27	8	1,317
日本刀の美 ―赤羽刀とその他の館蔵品―	平 16．1．27 ～ 3．7	35	8,698
収蔵品展	平 16．6．18 ～ 7．19	28	5,703
ひまわり作品展	平 16．12．17 ～ 12．19	3	3,221
トクシマ・木工芸の道具と技	平 18．1．8 ～ 1．29	19	3,475
吉野川の渡し	平 18．2．18 ～ 3．19	26	3,848
旅と祈りの道　―阿波の巡礼―	平 19．1．19 ～ 3．18	51	7,200
徳島城下町の世界	平 20．1．17 ～ 3．2	40	5,168
空から見た徳島	平 21．1．27 ～ 3．15	42	7,517
蝶に魅せられて ―愛好家たちのコレクション―	平 21．7．18 ～ 8．30	38	9,777
八万町の昔を探ろう	平 21．9．19 ～ 10．4	14	1,886
マンダラ ―チベット・ネパールの仏たち―	平 21．12．12 ～平 22．2．7	44	13,118
海を渡った人形と戦争の時代	平 22．7．17 ～ 9．5	44	10,364
博物館の宝もの	平 23．7．15 ～ 9．4	46	15,336
海からどんぶらこ ―浜辺の漂着物―	平 24．4．27 ～ 6．10	39	12,642
阿波盆踊図屏風	平 24．9．25 ～ 10．3	8	702
みんなの化石コレクション	平 25．10．18 ～ 12．1	39	10,008
国立公文書館所蔵資料展	平 26．3．7 ～ 3．19	11	1,537
シェルズ	平 27．7．18 ～ 8．30	38	12,963
古代の彩り　徳島の朱	平 28．12．3 ～ 12．25	20	2,167
日本のアザラシと極地の動物たち	平 29．4．15 ～ 6．11	50	16,800
よみがえる、ふるさとの“たからもの”―大津波被災文化財の再生から未来へ―	平 29．12．16 ～ H30．1．21	26	2,887
県指定有形文化財　青蓮院十一面観音菩薩立像	平 30．9．21 ～ 9．30	9	2,664
ごっついで那賀川 ―博物館資料で見る那賀川流域の自然とくらし―	平 30．10．13 ～ 11．18	37	5,971
合　　計		951	220,132

●移動展観覧者数（平成 14 ～ 30 年度）

（単位：人）

展示会名	開催期間	開催日数	観覧者総数
昆虫の世界（海南町立博物館）	平 14．10．26 ～ 11．24	26	1,328
日本画書展―江戸から昭和まで―（藍住町歴史館藍の館）	平 16．12．2 ～ 12．27	26	898
戦争体験（藍住町立図書館）	平 17．8．3 ～ 8．18	14	2,342
昆虫展（藍住町立図書館）	平 17．8．19 ～ 9．11	21	3,210
北アメリカの植物（松茂町立歴史民俗資料館）	平 18．2．4 ～ 3．5	26	1,867
海陽町の指定植物・北アメリカの植物（海陽町立博物館）	平 18．7．22 ～ 8．27	32	481
牟岐大島の考古資料（牟岐町海の総合文化センター）	平 19．4．26 ～ 5．15	20	353
阿波の板碑（阿南市立阿波公方・民俗資料館）	平 19．6．5 ～ 7．22	42	197
中世阿波の板碑（藍の館）	平 19．8．2 ～ 8．27	24	4,540
くらしの中の藍染め（東かがわ市歴史民俗資料館）	平 19．10．20 ～ 11．18	26	291
丹波恐竜フェスティバル（兵庫県立人と自然の博物館）	平 20．5．3 ～ 5．5	3	4,339
和泉層群の化石（東かがわ市歴史民俗資料館）	平 20．7．19 ～ 8．31	38	523
海部郡の古代・中世（日和佐図書・資料館）	平 20．7．19 ～ 9．7	44	431
那賀川平野の貝化石（阿南市立阿波公方・民俗資料館）	平 20．9．25 ～ 11．9	41	956
達磨絵百態　横山天然の世界（藍の館）	平 21．4．4 ～ 4．29	22	250
知らせる道具・広告（東かがわ市歴史民俗資料館）	平 21．7．18 ～ 8．31	39	425
浜辺の植物（海陽町立博物館）	平 21．7．25 ～ 8．30	32	401
国会議事堂の石（阿南市立阿波公方・民俗資料館）	平 21．9．25 ～ 11．5	36	318
世界の昆虫（吉野川市美郷ほたる館）	平 21．11．21 ～平 22．1．25	52	220
「“ジオプラザ阿南”那賀川流域と県南部地域の化石展～化石が教えてくれるもの～」（阿南市科学センター）	平 22．7．17 ～ 8．15	26	1,431
「旅をするチョウ・アサギマダラと県南のトンボ展」（日和佐図書・資料館）	平 22．7．21 ～ 9．5	41	820
巡回展「海を渡った人形と平和の願い」①（貞光ゆうゆう館）	平 22．9．18 ～ 9．20	3	1,467
巡回展「海を渡った人形と平和の願い」②（海陽町立博物館）	平 22．9．23 ～ 10．3	10	360
巡回展「海を渡った人形と平和の願い」③（松茂町歴史民俗資料館・人形浄瑠璃芝居資料館）	平 22．10．9 ～ 10．17	8	1,242
空から見た徳島（日和佐図書資料館）	平 23．7．22 ～ 9．11	44	1,663
阿波の遠洋漁業（日和佐図書資料館）	平 24．9．6 ～ 9．30	19	439
生物多様性大博覧会「徳島県の自然史」（郷土文化会館）	平 25．1．26・27	2	1,385
立体写真でみる 38 年前の海部郡の海辺（日和佐図書資料館）	平 25．7．5 ～ 7．31	22	493
九州・五島行き―以西底曳き網漁業―（美波町由岐公民館）	平 25．10．25 ～ 11．4	11	249
ミニ・アンモナイト展（アミコ）	平 26．4．15 ～ 5．13	28	8,512
空から見た徳島（佐那河内ネイチャーセンター）	平 27．7．1 ～ 9．30	78	1,366
漂着物展（海陽町立博物館）	平 27．10．3 ～ 10．18	14	640
朱を考古学する（阿南市文化会館）	平 27．12．6 ～平 28．1．6	26	500
「シカとカモシカ」パネル展（那賀町四季美谷温泉）	平 28．4．18 ～平 28．10．9	175	8,012
移動展「阿波の道を歩く芭蕉をめざした男・酒井弥蔵 × 現代アーティスト・大久保英治」展（つるぎ町織本屋）	平 28．10．1 ～平 28．10．31	30	320
移動展「阿波の道を歩く芭蕉をめざした男・酒井弥蔵 × 現代アーティスト・大久保英治」展（鳴門市立図書館）	平 28．11．5 ～平 28．11．30	23	4,052
移動展「阿波の道を歩く芭蕉をめざした男・酒井弥蔵 × 現代アーティスト・大久保英治」展（海陽町立博物館）	平 28．12．10 ～平 29．1．22	33	282
移動展：県障害者の集い（徳島市あわぎんホール）	平 28．11．27	1	15
阿南市ミニ展示会「阿南市の赤色顔料採掘遺跡」	平 29．1．14 ～平 29．2．26	35	320
「戦中・戦後の暮らし」（徳島県戦没者記念館）	平 30．7．16 ～平 30．8．15	21	1,716
合　　計		1,214	58,654

●人権啓発展等観覧者数（平成 4 ～ 30 年度）

（単位：人）

展示会名	開催期間	開催日数	観覧者総数
2000 年度同和問題啓発展	平 12. 8. 26 ～ 9. 8	12	1,561
2001 年度同和問題啓発展	平 13. 8. 4 ～ 8. 12	8	1,290
〃　第 2 回	平 13. 12. 4 ～ 12. 9	6	847
2002 年度同和問題啓発展	平 14. 7. 27 ～ 8. 4	8	1,066
〃　第 2 回	平 14. 12. 3 ～ 12. 8	6	669
2003 年度人権問題啓発展	平 15. 8. 2 ～ 8. 10	8	1,414
〃　第 2 回	平 15. 12. 2 ～ 12. 7	6	911
2004 年度人権問題啓発展	平 16. 8. 7 ～ 8. 15	8	1,568
〃　第 2 回	平 16. 12. 7 ～ 12. 12	6	753
2005 年度人権問題啓発展	平 17. 8. 6 ～ 8. 14	8	1,594
〃　第 2 回	平 17. 12. 6 ～ 12. 11	6	656
2006 年度人権問題啓発展	平 18. 8. 5 ～ 8. 13	8	1,532
〃　第 2 回	平 18. 12. 5 ～ 12. 10	6	589
2007 年度人権問題啓発展	平 19. 12. 4 ～ 12. 9	6	589
2008 年度人権問題啓発展	平 20. 12. 2 ～ 12. 7	6	599
2009 年度人権問題啓発展	平 21. 12. 1 ～ 12. 6	6	430
2010 年度人権問題啓発展	平 22. 11. 30 ～ 12. 5	6	670
2011 年度人権問題啓発展	平 23. 12. 6 ～ 12. 11	6	383
2012 年度人権問題啓発展	平 24. 12. 4 ～ 12. 9	6	356
2013 年度人権問題啓発展	平 25. 12. 4 ～ 12. 10	6	341
2014 年度人権問題啓発展	平 26. 12. 10 ～ 12. 16	6	315
2015 年度人権問題啓発展	平 27. 12. 9 ～ 12. 15	6	270
2016 年度人権問題啓発展	平 28. 12. 9 ～ 12. 15	6	244
2017 年度人権問題啓発展	平 29. 12. 6 ～ 12. 12	6	227
2018 年度人権問題啓発展	平 30. 12. 5 ～ 12. 11	6	382
合　計		168	19,256

●館内各種展示観覧者数（平成 28 ～ 30 年度）

（単位：人）

展示会名	開催期間	開催日数	観覧者総数
連携展示「阿波の道を歩く芭蕉をめざした男・酒井弥蔵 × 現代アーティスト・大久保英治」展	平 28. 7. 20 ～ 8. 28	36	56,984
ロビー展示「植物化石」	平 28. 9. 1 ～平 29. 2. 2	128	19,364
ロビー展示「植物標本」	平 29. 12. 5 ～平 30. 3. 31	75	5,906
ロビー展示「博物館の催し物」	平 30. 4. 1 ～平 30. 7. 4	82	7,571
ロビー展示「写真で見る地層」	平 30. 10. 25 ～平 31. 2. 22	98	9,071
合　計		419	98,896

●その他(啓発展を除く共催事業)観覧・参加者数(平成 15 ～ 30 年度)

（単位：人）

展示会名	開催期間	開催日数	観覧者総数
21 世紀館との共催事業（アイヌ工芸品展）	平 15. 7. 19 ～ 8. 31	38	303
全国高等学校総合文化祭	平 16. 7. 30 ～ 8. 3	5	2,508
人形ウィーク	平 17. 8. 20 ～ 8. 28	8	1,824
ふれあい生きもの展	平 18. 3. 25 ～ 3. 26	2	555
子どもの絵	平 18. 4. 29 ～ 5. 7	8	3,341
愉快な森のコンサート	平 18. 5. 5	1	950
日本古生物学会	平 19. 2. 2 ～ 2. 3	2	325
パラタクソノミスト養成講座	平 19. 2. 17 ～ 2. 18	2	26
第 22 回国民文化祭・とくしま 2007	平 19. 10. 27 ～ 11. 4	9	71,244
「天正の落日と曙光―守護町勝瑞から城下町徳島へ―」（徳島城博物館）	平 19. 12. 4 ～平 20. 1. 27	41	4,021
夏休み人権セミナー「戦争とくらし」	平 20. 8. 3	1	42
科学体験フェスティバル in 徳島（徳島大学）	平 20. 8. 9 ～ 8. 10	2	1,192
2008 年度鳴門史学会研究大会	平 20. 10. 18	1	80
かんさい自然フェスタ 2008（大阪市立自然史博物館）	平 20. 11. 15 ～ 11. 16	2	10,050
科学体験フェスティバル in 徳島（徳島大学）	平 21. 8. 8 ～ 8. 9	2	1,212
スタジオジブリ・レイアウト展（21 年度）	平 22. 2. 20 ～ 3. 31	34	33,618
スタジオジブリ・レイアウト展（22 年度）	平 22. 4. 1 ～ 4. 18	16	25,113
軌跡―継続と蓄積―	平 22. 10. 23 ～ 11. 23	27	4,165
「四国遍路と地域文化」を考える	平 23. 2. 5	1	53
鳥居ミュージアムトーク	平 23. 3. 21	1	70
阿波踊りフェスタ「阿波踊りの絵はがき」	平 23. 7. 20 ～ 8. 28	36	4,038
科学体験フェスティバル in 徳島（徳島大学）	平 23. 8. 6 ～ 8. 7	2	1,612
鳥居龍蔵の歩いたアジアの自然	平 23. 10. 29 ～ 12. 4	32	1,347
企画展「鳥居龍蔵の見た台湾」	平 24. 1. 28 ～ 3. 11	38	2,599
科学体験フェスティバル in 徳島（徳島大学）	平 24. 8. 4 ～ 8. 5	2	1,772
鳥居ミュージアムトーク	平 24. 9. 30	1	5
鳥居ミュージアムトーク	平 24. 11. 25	1	27
特別陳列「鳥居龍蔵とアイヌ―北方のまなざし―」	平 25. 1. 26 ～ 3. 3	32	5,465
科学体験フェスティバル in 徳島（徳島大学）	平 25. 8. 3 ～ 8. 4	2	1,751
特別講演「鳥居龍蔵が愛読した洋書―外国語・学問・文学―」	平 25. 8. 30	1	50
MT. 第 1 回「鳥居龍蔵の収集した絵はがきの世界」	平 25. 9. 29	1	14
MT. 第 2 回「鳥居龍蔵の沖縄調査に関わった人々」	平 25. 11. 24	1	14
共催事業第 63 回四国中世史研究会	平 25. 12. 22 ～ 12. 23	2	47
MT. 第 3 回「鳥居龍蔵の鹿児島調査」	平 26. 1. 19	1	14
鳥居企画展「鳥居龍蔵の国内調査―沖縄・南九州―」	平 26. 1. 25 ～ 3. 2	32	1,753
第 1 回 MT.「鳥居龍蔵の宮崎・鹿児島での古墳調査」	平 26. 6. 15	1	9
第 2 回 MT.「鳥居龍蔵の諏訪地方調査―諏訪市とその周辺調査について―」	平 26. 9. 14	1	7
第 3 回 MT.「鳥居龍蔵の伊那地方調査」	平 27. 11. 23	1	18
第 4 回 MT.「鳥居龍蔵の諏訪地方調査―岡谷市とその周辺調査について―」	平 27. 1. 17	1	5
鳥居企画展「よみがえる縄文世界―鳥居龍蔵の信州調査―」	平 27. 1. 24 ～ 3. 1	32	2,827
第 1 回 MT.「鳥居龍蔵の金海貝塚調査」	平 27. 6. 14	1	11
科学体験フェスティバル in 徳島（徳島大学）	平 27. 8. 9 ～ 8. 10	2	1,743
ufotable 15 周年展	平 27. 9. 26 ～ 10. 12	25	8,180
第 2 回 MT.「鳥居龍蔵と仏教文化―中国・朝鮮・日本―」	平 27. 11. 22	1	11
第 3 回 MT.「鳥居龍蔵と黒潮文化―沖縄調査より―」	平 28. 1. 17	1	26
鳥居企画展「鳥居龍蔵　―世界に広がる知の遺産―」	平 28. 1. 23 ～ 2. 28	32	1,831
開館 5 周年記念講演会「鳥居龍蔵の再発―国内外の視点から―」	平 28. 2. 21	1	199
科学体験フェスティバル in 徳島（徳島大学）	平 28. 8. 6 ～ 8. 7	2	1,689
第 1 回 MT.「鳥居龍蔵の研究ライフ―その方法と人的交流―」	平 28. 6. 12	1	15
第 2 回 MT.「鳥居龍蔵の出会った南米の史跡―ブラジルとペルーを中心に―」	平 28. 9. 25	1	10
第 3 回 MT.「大正期の鳥居龍蔵と徳島―城山貝塚から勢見山「岩の鼻」へ―」	平 28. 11. 13	1	24
鳥居企画展「遙かなるマチュピチュ―鳥居龍蔵、南アメリカを行く―」	平 29. 1. 28 ～ 3. 5	32	2,905
鳥居企画展　記念講演会「日本人によるアンデス考古学調査―鳥居龍蔵の思いを受けて―」	平 29. 2. 5	1	51
徳島歴史文化フォーラム	平 29. 2. 19	1	126
特別陳列「古代の彩り　徳島の朱」関連　若杉山遺跡現地見学会	平 29. 2. 26	1	75
科学体験フェスティバル in 徳島（徳島大学）	平 29. 8. 5 ～ 8. 6	2	1,444
サイエンスフェア 2017「おもしろ博士の実験室」ブース出展（あすたむらんど徳島）	平 29. 10. 14 ～ 10. 15	2	870
第 1 回 セミナー「あるブラジル移民の見た鳥居龍蔵の調査」	平 29. 6. 18	1	14
第 2 回 セミナー「鳥居龍蔵、世界の巨石構造物を探る」	平 29. 7. 17	1	31
第 3 回 セミナー「鳥居龍蔵のベストセラー『有史以前の日本』―日本人成立論をめぐって―」	平 29. 9. 18	1	28
第 4 回 セミナー「鳥居龍蔵、南方を探る―日本人の起源を求めて―」	平 29. 11. 11	1	21
鳥居企画展「鳥居龍蔵　日本人の起源に迫る―本山彦―との交流―」	平 30. 2. 10 ～ 3. 18	32	1,746
平成 29 年度鳥居龍蔵記念 徳島歴史文化フォーラム	平 30. 2. 18	1	146
鳥居企画展　記念講演会「日本人はどこから来たのか？」	平 30. 3. 4	1	160
科学体験フェスティバル in 徳島（徳島大学）	平 30. 8. 4 ～ 5	2	1,522
サイエンスフェア 2018「おもしろ博士の実験室」ブース出展（あすたむらんど徳島）	平 30. 11. 4	1	765
第 1 回 セミナー「鳥居龍蔵の近畿調査―日本人起源論との関係で―」	平 30. 6. 17	1	20
第 2 回 セミナー「明治時代から大正時代の自然人類学調査の一端―小金井良精の調査例から―」	平 30. 7. 16	1	20
第 3 回 セミナー「鳥居龍蔵、郷里を駆ける」	平 30. 9. 17	1	35
第 4 回 セミナー「鳥居龍蔵の小学校在学歴―自伝・卒業証書・履歴書を読む―」	平 30. 11. 25	1	17
鳥居企画展「鳥居龍蔵と小金井良精―日本人の起源を求めて―」	平 31. 1. 26 ～ 3. 3	32	1,830
平成 30 年度鳥居龍蔵記念 徳島歴史文化フォーラム	平 31. 2. 17	1	86
鳥居企画展　記念講演会「骨が語る日本人の歴史」	平 31. 2. 24	1	75
合　計		609	205,422

XI　施設の概要

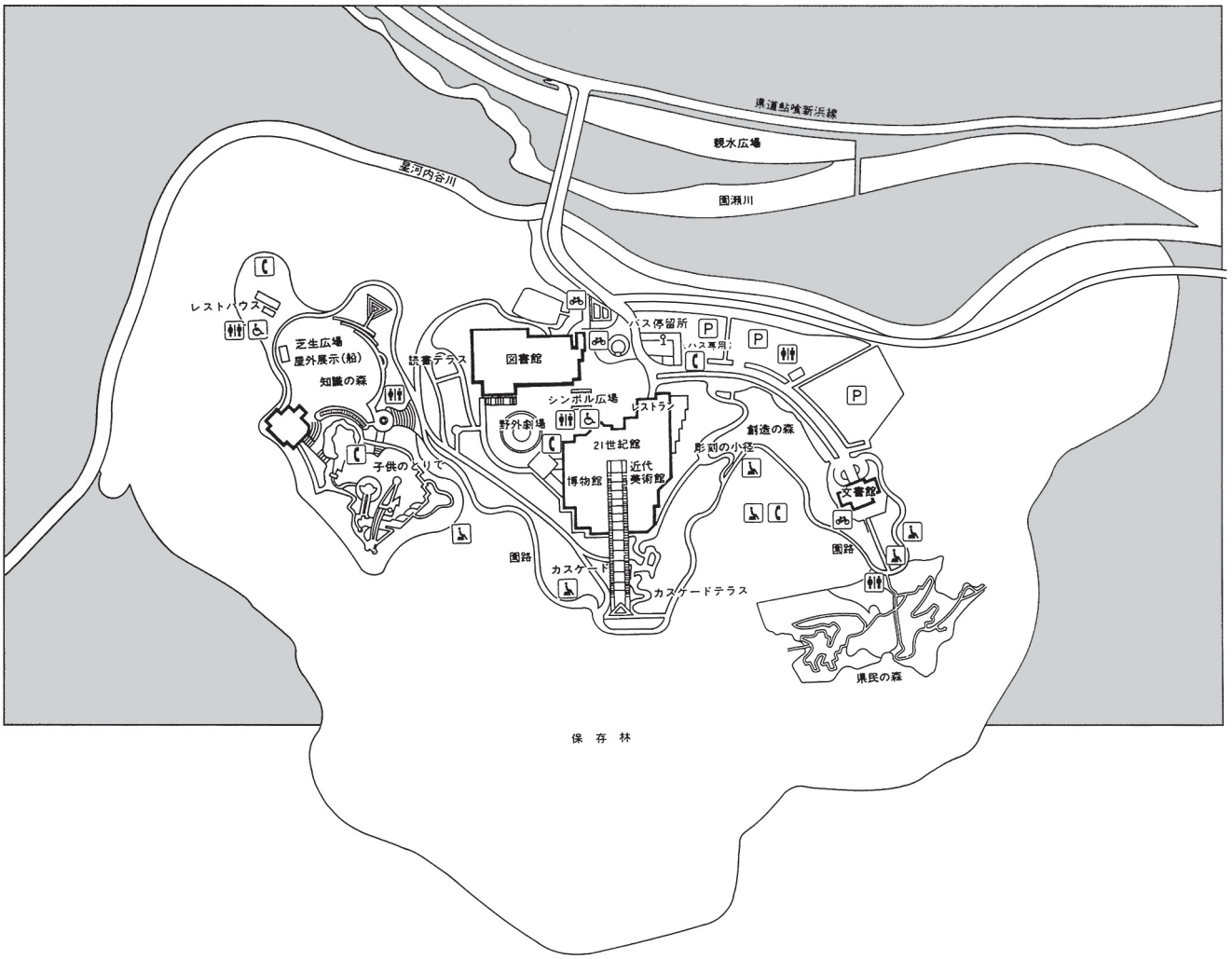
1．沿革

昭和 34 年 12 月	旧博物館（徳島県博物館）設置及び開館 （旧博物館に関する沿革は「徳島県博物館 30 年史」参照）
昭和 55 年 1 月	文化の森構想発表
4 月	置県百年記念文化施設等整備基金設置
昭和 56 年 2 月	文化の森懇話会報告書提出
昭和 57 年 3 月	文化の森建設地を徳島市八万町向寺山及び寺山に決定
12 月	博物館基本構想検討委員会を設置
昭和 58 年 3 月	文化の森総合公園を都市計画決定
昭和 59 年 1 月	博物館基本構想検討委員会が「徳島県立博物館基本構想報告書」を知事に提出
4 月	美術品等取得基金設置
5 月	博物館資料収集展示委員会を設置
昭和 60 年 8 月	文化の森総合公園起工式挙行、基盤整備工事に着手 徳島県とアルゼンチン共和国ラプラタ大学との相互贈与に関する合意書締結
昭和 61 年 3 月	文化の森の各文化施設基本設計（文書館を除く）及び博物館展示基本設計完了
昭和 62 年 3 月	各文化施設実施設計及び博物館展示実施設計完了
8 月	各文化施設（文書館を除く）建設工事着手
昭和 63 年 7 月	博物館展示工事着手
平成 元 年 4 月	旧博物館展示室閉室
12 月	博物館・近代美術館・二十一世紀館棟本体工事竣工
平成 2 年 3 月	旧博物館閉鎖
4 月	文化の森総合公園文化施設条例施行により、博物館（徳島県立博物館）及び博物館協議会設置
10 月	博物館展示工事竣工
11 月	文化の森総合公園開園、博物館開館
平成 3 年 2 月	博物館資料収集委員会設置
平成 4 年 3 月	日本育英会の第一種学資金の返還を免除される職を置く研究所等に指定される
平成 4 年 9 月	博物館観覧料減免要綱の一部改正により、小・中学生及び高校生の第 2 土曜日における常設展観覧料を免除
平成 5 年 3 月	徳島県教育委員会の博物館登録原簿に変更登録（旧博物館の登録［昭和 35.6］を変更）
平成 7 年 4 月	博物館観覧料減免要綱の一部改正により、小・中学生及び高校生の第 4 土曜日における常設展観覧料を免除
平成 7 年 7 月～ 8 年 3 月	文化の森総合公園開園 5 周年記念事業「戦後 50 年をみつめて」を実施。博物館では、企画展「戦争から豊かな未来へ」を開催。また、博物館独自に開館 5 周年記念事業を実施
平成 8 年 4 月	博物館管理規則の一部改正により、全祝日・休日の開館を実施。また、博物館観覧料減免要綱の一部改正により、祝日・休日における常設展観覧料を免除
平成 8 年 12 月	重要文化財公開承認施設に認定される（5 年毎更新）
平成 12 年 10 月～ 11 月	文化の森総合公園開園 10 周年記念企画展「世紀末大博覧会」を開催

平成 14 年 4 月	博物館観覧料減免要綱の一部改正により、小・中学生及び高校生の土・日曜日、長期休業日における常設展・企画展観覧料、祝日・休日における企画展観覧料を免除。また、学校教育に係る企画展観覧料を免除
平成 15 年 7 月	科学研究費補助金の申請を行うことができる学術研究機関に指定される
平成 17 年 10 月～ 11 月	文化の森総合公園開園 15 周年記念企画展「ふるさと再発見― 15 の人・もの・場所―」を開催
平成 22 年 4 月～ 23 年 3 月	文化の森総合公園開園 20 周年記念事業を実施。中核事業は、開園 20 周年記念展「軌跡―継続と蓄積―」や「文化の森サマーフェスティバル」「文化の森大秋祭り !! 」。博物館常設展示室の「リフレッシュ事業」を実施（一部の中・小テーマの更新など）
平成 24 年 9 月	博物館観覧料減免要綱の一部改正により、満 65 歳以上の高齢者の常設展観覧料を免除。また、身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳被交付者と介助者 1 名の常設展・企画展観覧料を免除
平成 25 年 3 月	博物館管理規則の一部改正により、12 月 28 日の開館を実施
平成 27 年 4 月～ 28 年 3 月	文化の森総合公園開園 25 周年記念事業「ヒトガタをめぐる冒険」を実施。博物館では、企画展「阿波木偶箱まわしの世界―門付け、大道芸」などを開催。また、同じく記念事業「安全安心のモデル事業」の一環として、博物館常設展示室のフレッシュアップ（サインやパネルの更新、多言語解説の導入など）、収蔵庫の耐震対策を実施

2．施設の概要

●所 在 地　徳島市八万町向寺山
●敷地面積　40.6ha（文化の森総合公園全体）
●建築面積　8,363 ㎡（3 館棟）
●延床面積　22,382 ㎡（4 館合計－積層部分を含めると 23,814 ㎡）
　　8,063 ㎡（博物館占用スペース）
●構造規模　鉄筋鉄骨コンクリート造　地上 4 階・塔屋 1 階・地下 1 階
●設　　計　㈱佐藤武夫設計事務所・㈱日建設計・㈱環境建築研究所　共同企業体
●施　　工
　建　築……大成建設・フジタ工業・不動建設・熊谷組・間組　共同企業体
　電　気……四国電気工業・近畿電気工事　共同企業体
　空　調……東洋熱工業・三機工業・ナミレイ　共同企業体
　管……朝日工業社・大成設備　共同企業体
　エレベータ……㈱東芝
　家　具……富士ファニチア㈱
　移動展示ケース……㈱三井
　展　示……㈱丹青社


県道鮎喰新浜線
親水広場
園瀬川
星河内谷川
レストハウス
芝生広場
屋外展示(船)
知識の森
子供の
読書テラス
図書館
シンボル広場
野外劇場
レストラン
21世紀館
博物館
近代
美術館
バス停留所
バス専用
創造の森
彫刻の小径
文書館
園路
カスケード
カスケードテラス
県民の森
保　存　林

3．博物館各室面積

1　　階	
室　　名	面積㎡
企画展示室	325
同　上　準備室	46
地学収蔵庫	186
考古収蔵庫	361
一時保管庫	89
倉　　庫	135
冷　凍　室	19
石　工　室	41
その他共用部分 ※	771
小　　計	1,973

2　　階	
室　　名	面積㎡
総合展示室	1,252
ラプラタ記念ホール	210
部門展示室（人文）	251
部門展示室（自然）	250
休　憩　室	21
休憩コーナー	39
展示ロビー	407
エレベーターホール	20
廊　　下	65
その他共用部分 ※	442
小　　計	2.957

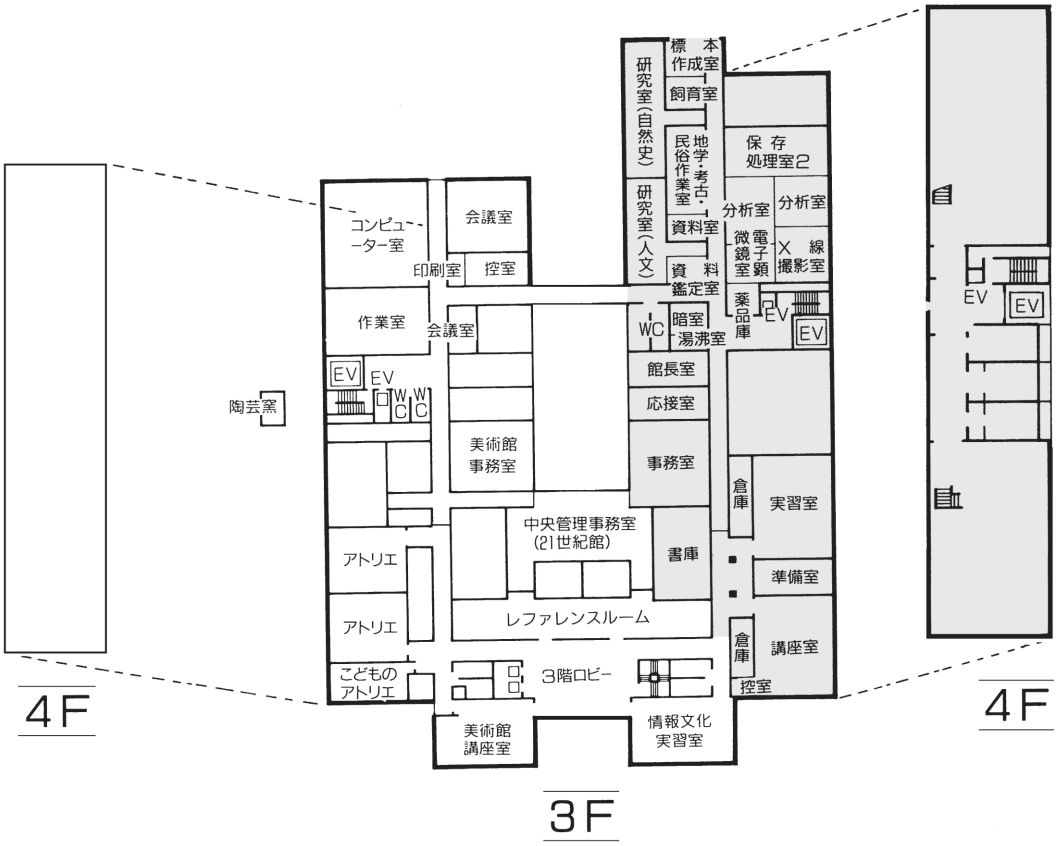
4　　階	
室　　名	面積㎡
エレベーターホール	45
特別収蔵庫 1	37
特別収蔵庫 2	37
馴　化　室	35
歴史民俗収蔵庫	357
生物収蔵庫	380
その他共用部分 ※	151
小　　計	1,042

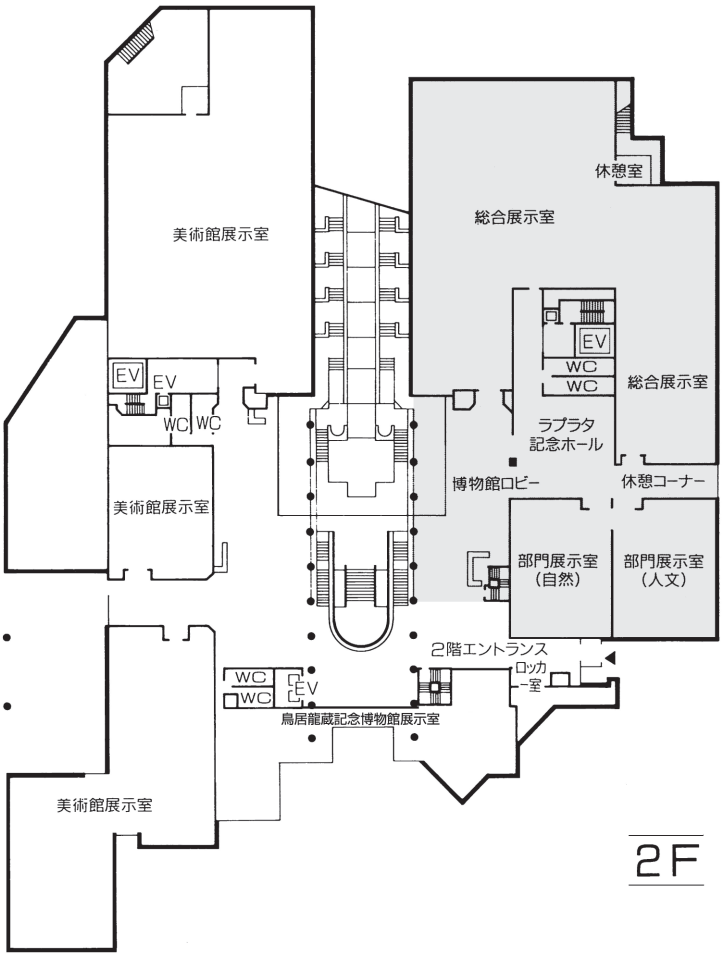
3　　階	
室　　名	面積㎡
暗　　室	23
倉　　庫	21
倉　　庫	15
エレベーターホール	37
湯　沸　室	12
講　座　室	123
実　習　室	146
実習・講座準備室	34
レファレンスルーム	81
館　長　室	53
応　接　室	21
事　務　室	133
研究室（自然史）	106
生物標本作成室	28
飼　育　室	21
研究室（人文）	80
地学考古民俗作業室	64
分　析　室　1	64
分　析　室　2	48
X線撮影室	48
保存処理室 2	100
薬　品　庫	22
資料鑑定室	22
生物液浸収蔵庫	100
電子顕微鏡室	30
書　　庫	97
資　料　室	20
書類保管庫	35
その他共用部分 ※	468
小　　計	2,052

屋　1　階	
室　　名	面積㎡
その他共用部分 ※	39
小　　計	39

合　　計
8,063 ㎡

※ は荷解場、廊下、便所、空調機械室など共用部分の、美術館及び二十一世紀館との案分面積。


4F
コンピューター室
会議室
印刷室
控室
作業室
会議室
EV
EV
WC
WC
陶芸窯
美術館事務室
アトリエ
アトリエ
こどもの アトリエ
中央管理事務室（21世紀館）
レファレンスルーム
3階ロビー
美術館講座室
情報文化実習室
研究室（自然史）
研究室（人文）
標本作成室
飼育室
民俗作業室
地学・考古・資料室
資料鑑定室
WC
暗室
湯沸室
館長室
応接室
事務室
書庫
保存処理室2
分析室
分析室
微電子顕鏡室
X線撮影室
薬品庫
EV
EV
倉庫
実習室
準備室
倉庫
講座室
控室
EV
EV
4F
3F


美術館展示室
EV
EV
WC
WC
美術館展示室
美術館展示室
休憩室
総合展示室
EV
WC
WC
総合展示室
ラプラタ記念ホール
博物館ロビー
休憩コーナー
部門展示室（自然）
部門展示室（人文）
2階エントランス
ロッカー室
WC
WC
EV
鳥居龍蔵記念博物館展示室
2F

XII　例　規

●徳島県文化の森総合公園文化施設条例［抜粋］

制　　定　平成 2 年 3 月 26 日　徳島県条例第 11 号
最近改正　平成 30 年 3 月 20 日　徳島県条例第 32 号

（設置）
第 1 条　個性豊かな県民文化を振興し、魅力のある地域づくりに寄与するため、県民の文化活動の拠点として、徳島県文化の森総合公園文化施設（以下「文化施設」という。）を徳島市八万町に設置する。
（名称及び業務）
第 2 条　文化施設の名称及び業務は、次のとおりとする。

名　　称	業　　務
徳島県立博物館 （以下「博物館」という。）	(1)　考古、歴史、民俗、美術工芸、動物、植物及び地学に関する実物、標本、模型、文献、写真その他の資料（鳥居龍蔵に関する資料を除く。以下「博物館資料」という。）を収集し、保管し、及び展示すること。 (2)　博物館資料に関する調査研究を行うこと。 (3)　博物館資料に関する観察会、講座などの教育普及事業を行うこと。 (4)　考古、歴史、民俗、美術工芸、動物、植物及び地学に関する講座等の文化活動のために博物館講座室を利用に供すること。 (5)　その他博物館の設置の目的を達成するために必要な事業を実施すること。

（徳島県立図書館、徳島県立近代美術館、徳島県立文書館、徳島県立二十一世紀館、徳島県立鳥居龍蔵記念博物館の業務は省略）

（利用の許可）
第 3 条　次の表に掲げる文化施設の施設又は用具を利用しようとする者は、あらかじめ、徳島県教育委員会（以下「教育委員会」という。）の許可（以下「利用の許可」という。）を受けなければならない。

区　　分	施設又は用具
博　　物　　館	博物館講座室

（観覧料等）
第 4 条　博物館が展示する博物館資料、美術館が展示する美術館資料又は鳥居記念館が展示する鳥居記念館資料を観覧する者に対しては、別表第 1 に掲げる額の観覧料を徴収する。
2　利用の許可を受けた者に対しては、別表第 2 に掲げる額の使用料を徴収する。
3　知事は、特別の理由があると認めるときは、観覧料又は使用料の全額又は一部を免除することができる。
4　観覧料及び使用料の徴収の時期及び方法その他観覧料及び使用料に関し必要な事項は、規則で定める。
（損害の賠償）
第 5 条　文化施設を利用する者は、文化施設の施設、資料等をき損し又は亡失したときは、これによって生じた損害を賠償しなければならない。ただし、知事は、当該き損又は亡失がやむを得ない理由によるものであると認めるときは、その賠償責任の全部又は一部を免除することができる。
（職員）
第 6 条　図書館法（昭和 25 年法律第 118 号）及び博物館法（昭和 26 年法律第 285 号）に定めるもののほか、文

化施設に、館長その他必要な職員を置く。

（協議会）

第７条　教育委員会の附属機関として、次の表の上欄に掲げる協議会を置き、これらの協議会の所掌事務は、それぞれ同表の下欄に掲げるとおりとする。

協議会の名称	所　掌　事　務
徳島県立博物館協議会	博物館の運営に関し館長の諮問に応ずるともともに、館長に対して意見を述べること。

（他館の各協議会の所掌事務は省略）

２　協議会は、委員 10 人以内で組織する。

３　徳島県立図書館協議会、徳島県立博物館協議会、徳島県立近代美術館協議会及び徳島県立鳥居龍蔵記念博物館協議会の委員は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者のうちから任命するものとする。

４　（省略）

５　委員の任期は、２年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

６　委員は、再任されることができる。

７　前各項に定めるもののほか、協議会の組織及び運営に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

（教育委員会規則への委任）

第８条　この条例に定めるもののほか、文化施設の管理に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

別表第１（第４条関係）

区分	単位	金　額			
		常設展		企画展	
		個人	団体（20 人以上をいう。以下同じ）	個人	団体
小学校の児童及び中学校の生徒並びにこれらに準ずる者	１人１回	50 円	40 円	知事がその都度定める額	
高等学校の生徒並びに高等専門学校及び大学の学生並びにこれらに準ずる者	１人１回	100 円	80 円		
その他の者（学齢に達しない者を除く）	１人１回	200 円	160 円		

別表第２（第４条関係）

区　分	単　位	金　額
博物館講座室	午　前	2,160 円
	午　後	3,490 円

（他館の施設等は省略）

（備考）

１　「午前」とは午前９時 30 分から正午までを、「午後」とは午後１時から午後５時までを、「夜間」とは午後６時から午後９時までをいう。

２　午前から午後まで、午後から夜間まで又は午前から夜間まで引き続き利用する場合の使用料の額は、この表の区分に応じたそれぞれの使用料の額を加えて得た額とする。

3　営利又は営業のための宣伝その他これらに類する目的で利用する場合の集会室1、集会室2、博物館講座室、ギャラリー、美術館講座室、イベントホール、多目的活動室、ミニシアター、スタジオ、ミーティングルーム又は野外劇場の使用料の額 は、この表及び前項の規定にかかわらず、同表の区分に応じた使用料の額又は同項の規定により算出した使用料の額に百分の五百を乗じて得た額とする。

●徳島県立博物館管理規則

制　　定　　平成 2 年 3 月31日　徳島県教育委員会規則第9号
最近改正　　平成25年 3 月29日　徳島県教育委員会規則第3号

（趣旨）
第1条　この規則は、徳島県立博物館（以下「博物館」という。）の管理に関し必要な事項を定めるものとする。
（休館日）
第2条　博物館の休館日は、次に掲げるとおりとする。
⑴　月曜日　ただし、その日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日（以下「休日」という。）に当たるときは、その後においてその日に最も近い休日でない日
⑵　12月29日から翌年の1月4日までの日
2　徳島県立博物館長（以下「館長」という。）は、特に必要があると認めたときは、前項の規定にかかわらず臨時に休館し、又は同項に規定する休館日に開館することができる。
（供用時間）
第3条　博物館の供用時間は、午前9時30分から午後5時までとする。
2　館長は、特に必要があると認めたときは、前項の規定にかかわらず、同項に規定する供用時間を変更することができる。
（利用の許可の申請等）
第4条　徳島県文化の森総合公園文化施設条例（平成2年徳島県条例第11号。以下「条例」という。）第3条の許可（以下「利用の許可」という。）を受けようとする者は、徳島県立博物館利用許可申請書（別記様式）を館長に提出しなければならない。
2　前項の申請書は、利用しようとする日（その日が引き続き2日以上に及ぶときは、その初日。）の前日から起算して3月前の日以後に提出するものとする。ただし、館長が相当の理由があると認めるときは、この限りでない。
3　館長は、次の各号のいずれかに該当するときは、利用の許可をしないものとする。
⑴　公の秩序を乱し、又は善良な風俗を害するおそれがあると認められるとき。
⑵　その他博物館の管理上支障があると認められるとき。
（利用の許可等の通知）
第5条　館長は、前条第一項の申請書を受理したときは、利用の許可をするかどうかを決定し、その旨を当該申請者に通知するものとする。
（利用の許可の取消し等）
第6条　館長は、次の各号のいずれかに該当するときは、当該利用の許可を取り消し、又は施設の利用の中止を命ずることができる。
⑴　第四条第三項各号のいずれかに該当する理由が生じたとき。
⑵　利用の許可を受けた者（以下「利用者」という。）が利用の許可に付した条件に違反したとき。
⑶　利用者が偽りその他不正な手段により利用の許可を受けた事実が明らかとなったとき。
⑷　利用者が条例又はこの規則の規定に違反したとき。
（利用の内容の変更等）
第7条　利用者は、施設を利用できなくなったとき、又は利用の許可の内容を変更して施設を利用しようとするときは、直ちにその旨を文書で館長に届け出なければならない。

（遵守事項）
第８条　博物館を利用する者は、徳島県文化の森総合公園文化施設条例（平成２年徳島県条例第11号）及びこの規則並びに館長が別に定める利用者心得その他の規律を守らなければならない。
（入館の禁止等）
第９条　館長は、次の各号のいずれかに該当するときは、入館を禁止し、又は退館を命ずることができる。
⑴　泥酔者及び伝染性の疾病にかかっていると認められる者
⑵　前条の規定に違反し、又はそのおそれがある者
（資料の特別利用）
第10条　学術その他の目的のために博物館資料の撮影、模写等をしようとする者は、あらかじめ、館長の承認を受けなければならない。
（補則）
第11条　この規則に定めるもののほか、博物館の管理に関し必要な事項は、館長が定める。

別記様式　省略

●徳島県立博物館協議会規則

制定　　平成２年３月31日　徳島県教育委員会規則第４号
最近改正　平成24年３月30日　徳島県教育委員会規則第６号

（趣旨）
第１条　この規則は、徳島県文化の森総合公園文化施設条例（平成２年徳島県条例第11号）第７条第７項の規定に基づき、徳島県立博物館協議会（以下「協議会」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。
（会長及び副会長）
第２条　協議会に、会長及び副会長１人を置く。
２　会長及び副会長は、委員の互選によって定める。
３　会長は、協議会を代表し、会務を総理する。
４　副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。
（会議）
第３条　協議会の会議は、会長が招集する。
２　協議会の会議は、委員の半数以上の出席がなければ、開くことができない。
３　協議会の議事は、出席した委員の過半数で決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。
（雑則）
第４条　この規則に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、会長が協議会に諮って定める。

●徳島県教育委員会行政組織規則［抜粋］

制定　　昭和45年３月31日　徳島県教育委員会規則第４号
最近改正　平成31年４月26日　徳島県教育委員会規則第５号

第１章　総　則（省略）
第２章　事務局（省略）
第３章　教育機関〔博物館に該当する条項のみの抜粋〕
　第３節　徳島県立博物館

（名称及び位置）

第24条　文化施設条例により設置された徳島県立博物館（以下「博物館」という。）の名称及び位置は、次の表に掲げるとおりとする。

名　　称	位　　置
徳島県立博物館	徳島市八万町向寺山

（内部組織等）

第25条　博物館に自然課及び人文課を置く。

2　前項の課の分担事務は、館長が定める。

（業務）

第26条　博物館の業務は、次の各号に掲げるとおりとする。

(1)　考古、歴史、民俗、美術工芸、動物、植物及び地学に関する実物、標本、模型、文献、写真その他の資料（鳥居龍蔵に関する資料を除く。以下「博物館資料」という。）を収集し、保管し、及び展示すること。

(2)　博物館資料に関する調査研究を行うこと。

(3)　博物館資料に関する観察会、講座等の教育普及事業を行うこと。

(4)　考古、歴史、民俗、美術工芸、動物、植物及び地学に関する講座等の文化活動のために博物館講座室を利用に供すること。

(5)　その他博物館の設置の目的を達成するために必要な事業を実施すること。

第6節　職及び職務

（所長等の職務）

第32条　総合教育センターの所長、文書館及び二十一世紀館の館長は、上司の命を受け当該教育機関の事務をつかさどり、所属職員を指揮監督する。

（副所長等）

第33条　上司の命を受け、教育機関の長を補佐させるため、次の表の上欄に掲げる職を同表の相当下欄に掲げる教育機関に置く。

職	教　育　機　関
副館長	図書館、博物館、美術館、文書館、二十一世紀館、鳥居記念館

（総合教育センターの職は省略）

2　教育機関の長に事故があるとき、又は教育機関の長が欠けたときは、教育委員会が指定する職員が、その職務を代行する。ただし、やむを得ない事由により教育委員会が 教育機関の長の職務を代行する職員を指定することができないときは、当該機関に属する副所長、次長又は副館長（二人以上置かれているときは、当該教育機関の長が指定する副所長、次長又は副館長）が、その職務を代行する。

（主幹等）

第34条　前条に規定する職のほか、教育機関に、次の表の上欄に掲げる職のうち必要な職を置き、その職務は、それぞれ同表の相当下欄に掲げるとおりとする。

職	職　　務
課　　長	上司の命を受け、課の事務を処理する。
課　長　補　佐	上司の命を受け、特に高度の知識又は経験を必要とする事務、技術又は専門的事務に従事する。
上 席 学 芸 員	上司の命を受け、博物館、美術館又は鳥居記念館の重要施策又は重要事業の推進に関する専門的事務に従事する。
主　　査	上司の命を受け、高度の知識又は経験を必要とする事務又は技術に従事する
専 門 学 芸 員	上司の命を受け、高度の知識または経験を必要とする博物館、美術館又は鳥居記念館の専門的な事務に従事する。

係　　長	上司の命を受け、当該教育機関の事務の事務に関し命ぜられた事項又は係の事務を処理する。
学　芸　係　長	上司の命を受け、博物館、美術館又は鳥居記念館の専門的事務に関し命ぜられた事項を処理する。
主　　任	上司の命を受け、相当の知識又は経験を必要とする事務又は技術若しくは専門的事務に従事する。
主　任　主　事	上司の命を受け、相当の経験を必要とする事務に従事する。
主 任 学 芸 員	上司の命を受け、相当の経験を必要とする博物館、美術館又は鳥居記念館の専門的事務に従事する。
主　　事	上司の命を受け、事務又は技術に従事する。
学　芸　員	上司の命を受け、博物館、美術館又は鳥居記念館の専門的事務に従事する。

（司書、技師その他の博物館に置いていない職は省略）

第４章　附属機関

（附属機関）

第37条　附属機関の名称、庶務を担当する課又は教育機関は、次の表に掲げるとおりとする。

名　　称	庶務を担当する課又は教育機関
徳島県立博物館協議会	博物館

（事務局の各審議会、他館の協議会等は省略）

徳島県立博物館年報　第 28 号（平成 30 年度）

令和元（2019）年 7 月 31 日　発行
編集・発行：徳島県立博物館
〒770-8070　徳島市八万町向寺山
（文化の森総合公園）
TEL（088）668-3636　FAX（088）668-7197
E-mail museum@mt.tokushima-ec.ed.jp
ホームページ https://museum.tokushima-ec.ed.jp/
印　　刷：原田印刷出版株式会社